

# 沖縄市中心市街地活性化基本計画

平成 22 年 3 月

沖縄県 沖縄市

平成 22 年 3 月 23 日認定  
平成 23 年 3 月 31 日変更  
平成 23 年 7 月 7 日変更  
平成 24 年 3 月 29 日変更  
平成 25 年 11 月 29 日変更  
平成 26 年 7 月 29 日変更  
平成 27 年 3 月 27 日変更  
平成 27 年 7 月 31 日変更  
平成 27 年 9 月 10 日変更



# 目次

○ 基本計画の名称	1
○ 作成主体	1
○ 計画期間	1
1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針	1
[1] 沖縄市の概要	1
[2] 中心市街地の概要	2
[3] 中心市街地の現状分析	13
[4] 地域住民のニーズ等の把握・分析	26
[5] 旧中心市街地活性化基本計画の検証	37
[6] 中心市街地活性化に向けた課題の整理	43
[7] 中心市街地の活性化に関する基本的な方針	44
2. 中心市街地の位置及び区域	47
[1] 位置	47
[2] 区域	48
[3] 中心市街地要件に適合していることの説明(第1号～3号要件)	50
3. 中心市街地の活性化の目標	57
[1] 中心市街地の活性化の目標	57
[2] 計画期間	58
[3] 数値目標	58
4. 土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公供の用に供 する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事項	79
[1] 市街地の整備改善の必要性	79
[2] 具体的事業の内容	79
5. 都市福利施設を整備する事業に関する事項	89
[1] 都市福利施設を整備の必要性	89
[2] 具体的事業の内容	89
6. 公営住宅等を整備する事業、中心市街地共同住宅供給事業その他の住宅の供給 のための事業及び当該事業と一体として行う居住環境の向上のための事業等 に関する事項	94
[1] 街なか居住の推進の必要性	94
[2] 具体的事業の内容	94

7. 中小小売商業高度化事業、特定商業施設等整備事業その他の商業の活性化の ための事業及び措置に関する事項	101
[1]商業の活性化の必要性	101
[2]具体的事業の内容	102
8. 4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項	135
[1]公共交通機関の利便性の増進及び特定事業の推進の必要性	135
[2]具体的事業の内容	135
9. 4から8までに掲げる事業及び措置の総合的かつ一体的推進に関する事項	139
[1]市町村の推進体制の整備等	139
[2]中心市街地活性化協議会に関する事項	146
[3]基本計画に基づく事業及び措置の一体的推進	165
10. 中心市街地における都市機能の集積の促進を図るための措置に関する事項	167
[1]都市機能の集積の促進の考え方	167
[2]都市計画手法の活用	167
[3]都市機能の適正立地、既存ストックの有効活用等	168
[4]都市機能の集積のための事業等	169
11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項	170
[1]基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項	170
[2]都市計画との調和等	174
[3]その他の事項	174
12. 認定基準に適合していることの説明	175

## 様式第4 [基本計画標準様式]

- 基本計画の名称：沖縄市中心市街地活性化基本計画
- 作成主体：沖縄県沖縄市
- 計画期間：平成22年3月から平成28年3月まで

### 1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

#### [1] 沖縄市の概要

沖縄市は、沖縄本島のほぼ中央部に位置し、人口約13万人を有する中部地域の中核都市である。市域面積49k m<sup>2</sup>のうち約36%を米軍基地が占める本市は、戦後広大な嘉手納基地を背景に基地の門前町として基地経済に支えられ、急速な発展を遂げてきた。

1974年（昭和49年）にコザ市と美里村の合併により沖縄市が誕生し、沖縄県をリードする国際文化観光都市の実現をめざし、新たな都市づくりに取り組んできた。本市の戦後の歩みは27年間におよぶ米軍統治下にあつて、基地から様々な影響を受けながら、混乱と激動の時代を逞しく生き、新たなまちづくりにたゆまぬ努力を重ね続けてきた歴史であった。

中部地域の中核都市である沖縄市は、産業経済・医療・福祉・教育・文化等の都市施設や国、県等の広域的公共機関が集積するとともに、沖縄本島の南北圏域への結節点として経済流通や生活活動など重要な役割を担っている。

戦後の歴史をとおして本市は、まちの景観や市民の生活様式、地域の文化にいたるまでアメリカをはじめとする諸外国の影響を強く受け、今も多く外国人が暮らす国際色豊かなまちである。

また、本市は戦前から暮らしの一部として継承されてきた地域の伝統芸能や、戦後沖縄各地、遠くは奄美諸島から集まってきた人々によってもたらされた芸能文化、さらには商業娯楽としてのアメリカ文化の浸透など、伝統文化と異文化が渾然一体となって織り成す特異な文化風土が形成されてきた。

特に、伝統芸能のエイサーをはじめジャズ、ロック、民謡、島唄、ラップ、ヒップホップなど、多彩なジャンルの音楽・芸能は本市の豊かな文化資源として、また、まちのアイデンティティを創出する源泉として、市民に定着し、著名なアーティストを輩出するなどその特異な風土を築きあげている。

一方、本市の産業別就業者数はその約78.6%を第3次産業が占め、なかでもサービス業に特化した産業構造になっている。零細企業が大半を占めるとともに、失業率も13.7%（平成17年国勢調査）と高く、若年層の雇用問題が一段と厳しい状況にある。

本市においては、産業振興と雇用の場の確保をめざしてIT関連産業の誘致に努めるとともに、中心市街地の再生に向け、中の町再開発事業など、都市福利施設の整備をはじめ、中心市街地の活性化に取り組んでいるところである。



## [2] 中心市街地の概要

### (1) 中心市街地の成り立ち

本市の中心市街地は、戦前までは農業を主な産業とする農村地帯であったが、旧越来村における終戦直後に建設された嘉手納基地の門前町として形成されたのが契機である。

1948年（昭和23年）10月と翌1949年（昭和24年）7月（当時は越来村）に戦後最大級の台風が沖縄を襲い、災害は民間地域のみでなく、米軍の施設や兵舎などその半数が破壊された。その修復には莫大な費用を要し、米国統合参謀本部は、基地を再建すべきか、それとも日本本土かフィリピンに移す、あるいは一部を米本国に移動させるなど、いろいろな選択肢を検討した結果、莫大な費用を投じてでも恒久基地として再建することを決めた。

このことをきっかけに、1950年（昭和25年）より本格的な基地建設が始まり、工事の下請けや作業員に沖縄の人が大量に雇われ、いわゆる軍作業として相当の雇用機会の創出があった。北は奄美諸島から南は与那国にいたるまで、多くの人々が職を求めて集まった。また、この頃米兵を相手にした商売が盛んになり、各地からの移住者が増え、特飲街や商店街が形成されていった。このように基地建設ラッシュを契機として人口は急激に増え、基地建設が始まる1950年（昭和25年）と5年後の1955年（昭和30年）では2倍近く急増した。

1950年（昭和25年）2月、米兵を顧客とする商売が米軍政府の指定場所で許可されるようになり、軍道13号線沿（コザ十字路からコザ高校付近）、24号線沿（コザ十字路から胡屋十字路）、5号線沿（第2ゲートからプラザハウス付近）が指定された。この商業指定によって、軍道沿い（現在の国道330号沿い）に店舗が張り付く带状型の市街地が形成された。

本市の中心市街地は、現在も国道330号に沿って、当時の名残がある外国人相手の店舗や外国人経営者による店舗、数々の商業店舗が張り付き、またその周辺には公共施設をはじめとするあらゆる都市機能が集積した沖縄市の中心（顔）としての役割を担っている。

コザ市の人口の推移 (人)

1935年	8,481
1940年	8,093
1950年	18,431
1955年	35,283
1960年	46,695
1965年	55,923
1970年	58,658

※コザ市の前身である越来村を含む。



## (2) 歴史的・文化的資源、景観資源等既存ストックの状況

### 1) 戦前～戦後・基地の門前町の形成（沖縄市独特の文化及び地域資源）

本市には、戦前から地域住民に親しまれてきたエイサー（旧盆の奉納舞）をはじめ、ウスデーク、京太郎、獅子舞、綱引き、民謡といった数多くの伝統芸能がある。それらは、戦争という過酷な状況を潜り抜け、戦後、地域の文化や民衆の娯楽として復興を遂げた。また、アメリカ文化の影響を強く受け、ジャズ、ロックなど多彩なジャンルの音楽や芸能が醸成されてきた。

本市では、こうした伝統文化と異文化が時には融合し、時には競い合いながら、新たな文化・風土を生み出し、世界で活躍するアーティストを輩出するなど、時代をリードする文化を発信し続けている。

また、戦後の歴史的変遷を通して、今日では世界 45 カ国に及ぶ多様な外国人が、市民の約 100 人に 1 人の割合で暮らしており（住民基本台帳人口／平成 20 年 3 月末現在）、その景観から生活様式に至るまで、アメリカに代表される異文化の影響が色濃く残る国際色豊かなまちである。

その結果、本市の通りには日常的に外国人が行き交い、外国人が経営する店が軒を連ねる独特な景観を醸し出している。また、市民と外国人との交流も盛んに行われ、異文化理解や交流を深める多彩なイベントも開催されるなど、国内にある外国ゾーンとして極めて個性的な存在であり、今後もこうした個性を活かしたまちづくりを進めることが期待されている。

確かに沖縄県全体をみると、戦後の米国統治の下で、アメリカをはじめとした諸外国から様々な影響を受けた「チャンプルー文化（※）」と呼ばれる文化が根付いている。しかし、沖縄県最大の米軍基地である嘉手納基地の門前町として栄えてきた本市は、こうしたチャンプルー文化を最も色濃く受け継いでおり、沖縄県内でも本市にしかない独特な文化をその地域性の中で開花させてきた。今や沖縄の「チャンプルー文化」の代表ともいえるこうした「コザ文化（※）」は、沖縄県内のみならず、本土の人々をも魅了してやまない、本市にとって最大の地域資源となっている。

さらに「コザ文化」を象徴するのが「音楽」や「芸能」であり、そうした資源を活用したまちづくりの拠点施設として、平成 19 年にコザ・ミュージックタウンが誕生した。この施設では、様々な音楽に関するイベントが開催されるなど、「音楽のまち沖縄市」を広く県内外へと発信している。

また、本市は 15 歳未満の年少人口の割合が 20.5%（平成 17 年国勢調査）で、この割合が全国一高い市という特徴を有している。これを踏まえて本市では、将来を担うこどもたちが、夢に向かって元気でたくましく育つ環境の創出を目指した「こどものまち」を宣言しており、こうしたこどもたちの育成における、人づくり・ネットワークづくり・場づくりの拠点として、県内唯一のこどものための施設である「沖縄こども未来ゾーン（沖縄こどもの国）」の役割が強く期待されている。さらに、本市は、従前よりスポーツに係る施設が充実していることから、地域に根差したスポーツ活動を通して、健康で豊かな心とからだを育て、活気と共感に満ちたスポーツ交流のまちづくりを目指し、「スポーツコンベンションシティ」を宣言しているなど、様々な地域資源を有している。

このように、「コザ文化」と呼ばれる個性的な文化とともに、こどものまちやスポーツコンベンションといった理念を代表する機能は、いずれも中心市街地に集積しており、こうした

地域特性が今後の中心市街地のまちづくりに重要な役割を担うものと期待されている。

※チャンプルー文化：チャンプルーは、まぜる、かきまぜるの意味（沖縄の方言）。地域の文化と異文化が融合・発展して多様な文化を創出した戦後沖縄の文化を言う。

※コザ文化：戦後「基地のまち」と言われたコザで、伝統文化や異文化など多様な文化が混然一体となり、エネルギーでパワフルな新しい文化空間を創出したことから、チャンプルー文化を代表する戦後沖縄の象徴的な文化概念を言う。

## 2) 中心市街地における商業地域の特性

本市の中心市街地の商業機能は、国道 330 号に沿って、コザ十字路地域、胡屋十字路地域、山里地域の 3 拠点を中心に連綿として続いており、帯状に連なる独特な形状を軸にして、それぞれの地域特性を活かした異なる性質の商業機能をコンパクトに集積させている。

### ①コザ十字路地域（銀天街商店街）

戦後、米兵を対象とした商業により発展してきたが、これは 1951 年（昭和 26 年）に数名の有志が水田を埋め立て、テントの長屋で衣類や日用雑貨を売り始めたことが契機であると言われており、その後、庶民のまちとして栄えてきた。現在でも、沖縄の伝統行事等でまかなわれるてんぷらなど、重箱料理を中心とした飲食店が数多く立地するとともに、庶民の台所としてのコザ十字路市場も往時をしのばせている。さらに、衣料品を扱う店も多く、特に高齢者向けの衣料品が充実している。

このような歴史的背景や現状を踏まえ、当該商店街では、「庶民の台所」「高齢者の買物客が集い憩う場」として、周辺住民をはじめ中心市街地内の高齢者をターゲットとしたにぎわいの創出を目指している。



【商店街の様子】



【コザ十字路市場】



【銀天街まつり】

### ②胡屋十字路地域（一番街商店街、中央パークアベニュー、コザ・ミュージックタウン等）

嘉手納基地第 2 ゲートの門前に位置する当該地域は、戦後のアメリカ文化の影響を最も強く受けた地域である。その結果、外国人経営者の店が軒を連ねるコザゲート通りや中央パークアベニューといった、独特な景観が形成されるとともに、現在、大きな地域資源ともなっているライブハウス等が多く集積し、国際色豊かな商業地域となっている。一番街商店街も、かつては米兵相手の商売により栄えていた地域であり、中心市街地の衰退による空き店舗が目立つ一方で、現在ではオシャレな雑貨品店や衣料品店など、若者向けの店舗が増えてきている。

さらに、平成 19 年にオープンした「コザ・ミュージックタウン」では、地元地域に密着したライブから、本土でも著名なアーティストによるライブに至るまで、さまざまな音楽イベ

ントが実施され、「音楽のまち沖縄市」の新たな顔として定着しつつある。

当該地域は、まさにコザ文化を肌で感じることができる中心的な地域であり、「音楽があふれ、国際色豊かな若者が集うまち」として、地元や沖縄県内の若者を中心に、コザを愛する沖縄県民・観光客を惹きつけている。



〔一番街商店街〕

〔中央パークアベニュー〕

〔パルミラ通り〕

### ③山里地域（プラザハウスショッピングセンター）

山里地域に位置する「プラザハウスショッピングセンター」は、1954年（昭和29年）、国際感覚にあふれた日本初の世界特選品専門デパートとしてオープンした。その当時は、在沖縄の米軍人やその家族などを主な客層としていたが、1960年（昭和35年）に、アメリカ支配の下で、戦後初めて日本本土から観光客が沖縄を訪れた。それ以降、日本人観光客の県内観光コースにも組み入れられ、日米を問わず様々な客層を対象として発展してきた独特な経緯を持つ。

現在は、レンタカーによる観光手段が主流となったことなどにより、観光客の入込はかつてほどではないものの、依然として国内では珍しい諸外国の特選品を扱う専門デパートとして異彩を放っており、在沖縄の米軍人をはじめ、県内の富裕層、アメリカナイズされた雰囲気の魅力を感じた観光客などが数多く訪れるスポットとなっている。

このように当該地域は、アメリカ文化を濃厚に感じられる商業の発祥の地としての集客力を活かすとともに、こうした魅力を中心市街地全体の魅力として波及させるなど、相乗的にぎわいを生み出す可能性を秘めたエリアとしての役割が期待されている。



本市の中心市街地は、上記の各商業地域を結ぶ国道 330 号沿線に商業施設が連続して立地しており、こうした商業施設を束ねるかたちで商店街組合や通り会が存在し、かつ機能している。そして、異なる性質の商業機能が一連となって、中心市街地全体を構成する要素となっていることが、米軍統治という歴史的経緯に由来する本市の特徴となっている。

【商店街・通り会位置図】



商店街・通り会名称					
コザ十字路地域	1	沖縄市銀天街商店街振興組合	胡屋十字路地域	13	Jパレード
	2	安慶田大通り会		14	胡屋くすの木通り会
	3	コザ十字路南大通り会		15	中の町大通り会
	4	城前大通り会		16	中の町社交街
	5	銀座大通り会		17	コザショッピングセンター通り会
	6	嘉間良大通り会		18	プラザ通り会
胡屋十字路地域	7	沖縄市一番街商店街振興組合	諸見地域	19	山里中央通り会
	8	沖縄市サンシティ商店街振興組合		20	諸見南通り会
	9	沖縄市センター商店街振興組合		21	諸見北通り会
	10	コザゲート通り会		22	諸見百軒通り会
	11	胡屋大通り会		23	南新生通り会
	12	コザパルミラ通り会		24	北新生通り会
				25	グランド通り会

### 3) 地域資源のストック状況

#### ① 世界 45 カ国の外国人が暮らす国際文化観光都市

国籍別外国人登録数（平成 21 年 3 月 31 日現在住民基本台帳より） (人)

アフガニスタン	2	キューバ	1	韓国・朝鮮	56	ポルトガル	1
アルゼンチン	2	チェコ	1	マレーシア	5	ルーマニア	1
オーストラリア	1	フランス	4	メキシコ	1	ロシア	5
バングラデシュ	4	ドイツ	2	モロッコ	1	セントルシア	1
ベルギー	2	ホンジュラス	1	ネパール	2	スロバキア	1
ボリビア	2	ハンガリー	1	ニュージーランド	7	スウェーデン	5
ブラジル	22	インド	85	ナイジェリア	4	シリア	1
ブルガリア	1	インドネシア	3	パキスタン	1	タイ	6
カナダ	4	アイルランド	1	パラグアイ	2	英国	20
中国	125	イスラエル	1	ペルー	83	米国	428
コスタリカ	1	イタリア	1	フィリピン	264	ベトナム	5

※米軍所属の外国人は除く。

#### ②国際色豊かな景観資源

中心市街地の中心部にある胡屋十字路地域のコザゲート通り及び中央パークアベニュー通りは、米兵や外国人を相手とする店舗が数多く存在し、横文字の看板や夜のネオンなど、外国にきたような気分を味わうことができる。このような景観は、本市特有の資源であり、国際文化観光都市を掲げる市にとって守るべき景観資源である。



[コザゲート通り]



[中央パークアベニュー通り]

#### ③歴史的資源



##### 【プラザハウスショッピングセンター】

1954 年（昭和 29 年）、国際感覚にあふれた日本初の世界特選品専門デパートとしてオープン。主に在沖縄の米軍人及びその家族を対象とした営業であった。

1960 年（昭和 35 年）にアメリカ支配下の中、戦後初めて日本本土からの観光客が訪れて以来、日本国内でも稀有な外国商品専門ショッピングセンターとして、沖縄観光のコースに組み入れられるなど、現在では地域の人をはじめ多くの観光客が利用している。

### 【沖縄市戦後文化資料展示室ヒストリート】

戦前の農村地帯だったコザのまちが、戦後アメリカ文化の影響を強く受け、地域の生活様式や伝統芸能が渾然一体となって発展していく沖縄市の歴史を肌で感じることができる資料館として平成17年9月に「ヒストリート」がオープンし、平成21年9月には「ヒストリートII」がオープンしている。沖縄市の戦後のあゆみがすべて分かるということでコザを訪れる人々が多く来館している。



### 【ライブハウス】

戦後、基地のまちと呼ばれたコザを象徴するジャズ、ロックなどのライブハウスが多く存在している。また、オキナワンロックと呼ばれるアーティストのライブハウスもあり、外国人、日本人、観光客によって夜のにぎわいを創出しており、「音楽のまち沖縄市」を象徴する資源である。

## ④文化的資源



[エイサー]



[京太郎 (チョンダラー)]



[ウスデーク]



[獅子舞]

## ⑤その他の地域資源



### 【コザ・ミュージックタウン】

「音楽のまち沖縄市」を推進する拠点施設として平成19年にコザ・ミュージックタウンがオープンした。ここでは、音楽によるまちづくりの拠点として様々な大物アーティストのライブが開催されるほか、ミュージシャンの創作活動の支援、新人アーティストの発掘、音響や照明などの専門的な技術者の育成も行っている。

### 【コザ運動公園】

陸上競技場、体育館、野球場、武道館、トレーニングルームなど様々な運動施設が整備された複合スポーツ施設であり、市民の健康増進施設としての都市機能を果たすと同時に、イベント開催時には多くの集客があり、各商店街との連携など活性化に寄与する施設である。



### 【沖縄子ども未来ゾーン（沖縄こどもの国）】

県内唯一の動物園として、市民を中心に多くの来園者を集めている。また、子ども未来ゾーンは、沖縄市の未来を担う子どもたちの知恵や感性、想像力を育む場として、人材育成施設の役割も果たし、教育及び文化機能としての重要な施設である。

### 【沖縄市民会館】

文化活動の拠点施設として、大ホール、中ホールがあり、様々な文化活動の発表会や講演会等が開催されている。また、中央公民館を併設しており、生涯学習の場として様々なサークル活動が行われている。これら施設は、国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ（キジムナーフェスタ）の主会場として、商店街等と連携したイベントも開催されている。



#### 4) 主要イベントの実施状況

本市では、地域文化の発信及び国際交流等の各種イベントが催されており、特に「沖縄全島エイサーまつり」は、財団法人地域伝統芸能活用センターにおいて平成18年度地域伝統芸能大賞活用賞を受賞するなど、沖縄のみならず日本を代表するイベントに成長している。

また、毎年延べ約30万人の集客を数え、沖縄市民及び沖縄県民をはじめ県外からも多くのエイサーファンや一般観光客が訪れるイベントである。その他にも、「沖縄国際カーニバル」は多彩なプログラムによる県内在住外国人と市民の異文化間の交流の場となっている。

本市の中心市街地では、以下のとおり年間を通して様々なイベントが開催されている。

主要イベント名（主会場：集客数など）	
<p style="text-align: center;"><b>沖縄全島エイサーまつり</b> (沖縄市コザ運動公園)</p> <p>「エイサー」は、各地の青年会等によって旧盆に集落を練り歩く沖縄の盆踊りで、沖縄を代表する芸能のひとつである。沖縄全島エイサーまつりは、県内で活躍する青年会やサークルなどが一堂に会する。</p> <p>2009. 9. 11～9. 13 延べ約31万人：主催者発表</p>	
<p style="text-align: center;"><b>ピースフルブ・ロックフェスティバル</b> (沖縄市コザ運動公園内野外ステージ)</p> <p>県内出身アーティストや国内有名アーティストによる野外ライブが開催され、市内外の人をはじめ、県外からも観光客を集める「音楽のまち沖縄市」の真夏の一大イベントである。</p> <p>2009. 7. 4～7. 5 延べ約2,600人：主催者発表</p>	
<p style="text-align: center;"><b>沖縄こどもの国フェスティバル</b> (沖縄こども未来ゾーン (沖縄こどもの国))</p> <p>動物を見たり、乗り物を楽しむだけでなく、巨大迷路や親子ムシキング大会、ステージイベントなど様々な企画イベントがある。</p> <p>2009. 4. 29～5. 6 延べ約7万5千人：主催者発表</p>	
<p style="text-align: center;"><b>沖縄国際カーニバル、ゲート#2 フェスタ</b> (コザゲート通り、中央パークアベニュー 他)</p> <p>時代をリードする文化を発信し、市民のまつりとして定着している。国際色あふれる「コザ絵巻大パレード」、「国際大綱引」、「ストリートダンス・ライブ」、「サンバカーニバル」など多彩なプログラムがある。</p> <p>2009. 11. 21～11. 22 延べ約4万5千人：主催者発表</p>	

<p style="text-align: center;"><b>沖縄市工芸フェア</b></p> <p style="text-align: center;">(プラザハウスショッピングセンター)</p> <p>プラザハウス内の特設会場で、県内作家による作品が展示即売されるほか、一般からの染色、織物、陶芸、ガラス、木竹作品の募集もある。</p> <p style="text-align: center;">2008. 3. 13～3. 16 延べ約2.5万人：主催者発表</p>	
<p style="text-align: center;"><b>国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ</b></p> <p>(沖縄市民小劇場あしびなー、沖縄市民会館、沖縄こども未来ゾーン、コザ・ミュージックタウン音市場他)</p> <p>「キジムナーフェスタ」の愛称で、毎年7月下旬、市内13カ所で1週間にわたって繰り上げられる演劇イベントである。海外の劇団関係者が来沖し、県内、国内の劇団も含め、演劇などのステージが行われる。</p> <p style="text-align: center;">2009. 8. 1～8. 9 延べ約3.5万人：主催者発表</p>	

#### 【中心市街地で開催されるイベント】

時 期	実施イベント
1 月	広島カープキャンプ、銀天街まつり
2 月	広島カープキャンプ、銀天街まつり
3 月	アジア音楽祭、音のページェント、工芸フェア、セントパトリックスデイ、銀天街まつり
4 月	コザてりりん祭、銀天街まつり
5 月	こどもの国フェスティバル、ゴーヤーまつり、銀天街まつり
6 月	エイサーナイト、銀天街まつり
7 月	ピースフルラブ・ロックフェスティバル、エイサーナイト、七夕まつり、銀天街まつり
8 月	エイサーナイト、キジムナーフェスタ、銀天街まつり
9 月	全島エイサーまつり、越来城址まつり、銀天街まつり、沖縄市民平和の日
10 月	毛遊び、ホーンテッド、銀天街まつり
11 月	沖縄国際カーニバル、ゲート#2フェスタ、ボジョレーまつり、銀天街まつり
12 月	クリスマスファンタジー、KOZAZOK、琉九祭、銀天街まつり、生涯学習フェスティバル

#### 5) 主要集客施設利用客の入込状況

中心市街地には、多くの人を利用する以下の主要施設がある。平成19年7月にオープンした「コザ・ミュージックタウン」は、「音楽によるまちづくり」の拠点施設として年間約7万5千人の集客がある。当該施設は、様々な音楽活動の舞台となる「音市場ホール」や「音楽広場」のほか、スタジオや音楽・映像等の編集機器などを備えており、一般の人からプロに至るまで幅広く利用できる施設である。

「沖縄こども未来ゾーン（沖縄こどもの国）」は県内唯一の動物園であるとともに、こども

たちの人材育成の拠点施設としての「ワンダーミュージアム」や「チルドレンズセンター」など、こどもを視点においた施設である。ゴールデンウィーク期間中に開催される「こどもの国フェスティバル」やクリスマスイベントなど、様々なイベントが開催され、家族連れなどを中心に年間約36万人の利用者を誇る集客の拠点施設である。

また、毎年45万人以上の利用者を有する「コザ運動公園」は、都市公園として位置づけられているほか、「全島エイサーまつり」や「ピースフルラブ・ロックフェスティバル」が開催されており、多くの集客がある。また、当該施設には、陸上競技場、体育館、野球場、サッカー場、トレーニングルームなど様々な体育施設が充実しており、特に陸上競技場については第1種公認施設及びJOC陸上競技強化センターとして認定されているほか、多くの県内外からのスポーツの合宿の地ともなっている。

さらに、平成22年度には全国高校総体（インターハイ）が沖縄県で開催されることから、体育館の建替えと（仮称）多目的センターの建設が進められている。この体育館については、冷房を完備した大規模の施設であることから、高校総体のみならず、プロスポーツの試合を含めた多様な屋内スポーツ等に活用していくことにより、今後は更なる集客が見込まれるところである。

沖縄市民会館は、施設内設備の老朽化により近年は施設利用者が減少傾向となっている。しかし、当該施設は「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ（キジムナーフェスタ）」をはじめとした様々な文化活動が行われており、文化創造の拠点施設として重要な役割を果たしている。

#### 【主要施設における年間利用者数】

施設名	H18	H19	H20	備考（対象施設）
コザ・ミュージックタウン	—	73,699	75,454	音市場ホール、音楽広場
沖縄こども未来ゾーン （沖縄こどもの国）	325,909	367,280	368,805	動物園、ワンダーミュージアム、チルドレンズセンター、絵本の国等
コザ運動公園	475,091	493,440	460,812	公園、体育施設 野外ステージ等
沖縄市民会館	208,017	190,668	184,070	大ホール、中ホール
合計	1,009,017	1,125,087	1,089,141	

#### 6) 各集客施設のターゲット層

「コザ・ミュージックタウン」については、「コザ文化」を象徴する近隣のライブハウスや胡屋十字路周辺の国際色豊かな街並みなどと相俟って、市内のみならず、県内外や海外からも集客がある。こうしたことから、当該施設は県内住民を主な対象としつつも、本土からの観光客や在沖縄の米軍人といった外国人にまで、幅広く音楽を通じた「コザ文化」を発信していくことのできる施設として、その役割が期待されている。

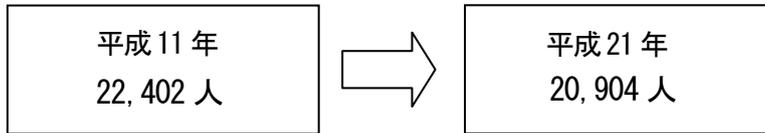
一方、「沖縄こども未来ゾーン（沖縄こどもの国）」や「コザ運動公園」等については、沖縄県内のみならず本土からの観光客にも利用されているものの、沖縄市民による利用の割合が高く、中心市街地やその郊外に居住する沖縄市民にとって親しみのある身近な施設という色彩が濃厚である。したがって沖縄市における重要な都市福利施設としての役割が今後も一層期待されることである。

### [3] 中心市街地の現状分析

#### (1) 人口

##### ① 現状

##### ○ 中心市街地における人口減少

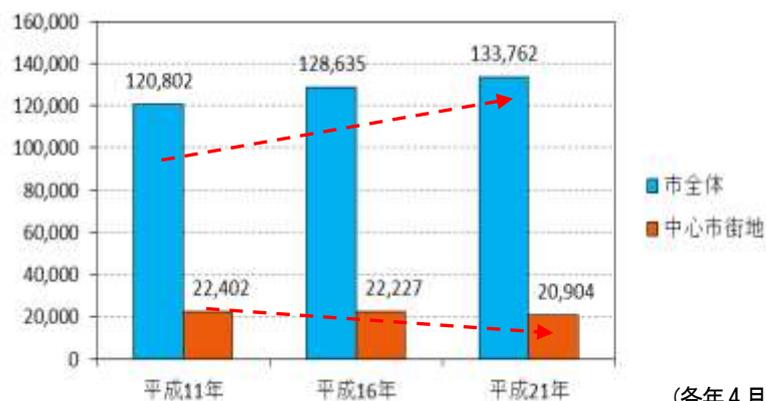


平成11年と平成21年（各4月1日現在）の住民基本台帳による人口を比較すると、市全体が10.7%増加している一方で、中心市街地は6.7%減少しており、市全体と中心市街地では相反する傾向を示している。また、市全体に占める中心市街地の人口割合は、平成11年では18.5%であるが、平成21年は15.6%となっており、2.9%低下している。

市全体の人口が増加している一方で、中心市街地において人口が減少している状況は、単に本市の郊外部における流入人口が増加しているだけでなく、一面として、中心市街地から郊外部へと人口流出が進んでいる傾向を裏付けるものと考えられる。その要因としては、近年、郊外部において市街化等が進んだ結果、中心市街地の都市機能が相対的に低下していることが指摘されるところである。例えば、相当の都市機能が集積しているとはいうものの、既存都市福利施設の老朽化や、多世代にわたる生活環境が必ずしも十分ではない状況などを勘案すれば、モータリゼーションの進展等社会情勢の変化に伴うにぎわいの喪失などと相俟って、中心市街地の相対的地位の低下を助長しているものと考えられる。

	人口（人）				世帯数（世帯）			
	平成11年	平成16年	平成21年	増減率	平成11年	平成16年	平成21年	増減率
市全体	120,802	128,656	133,762	10.7%	41,082	46,798	51,684	25.8%
中心市街地	22,402	22,227	20,904	-6.7%	8,428	8,992	9,091	7.9%
市内シェア	18.5%	17.3%	15.6%		20.5%	19.2%	17.6%	

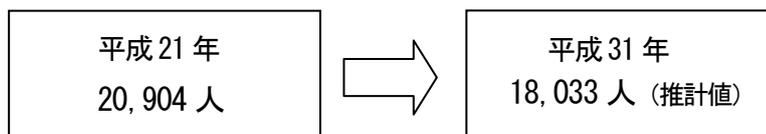
市全体及び中心市街地の人口 単位（人）



（各年4月1日現在）  
資料：住民基本台帳

## ②人口推計

### ○中心市街地は今後も人口減少が続く



※市全体の人口は増加する見込み

平成 16 年及び平成 21 年の住民基本台帳による人口をもとに、将来について 5 年ごとに 10 年後の人口をコーホート変化率法※を用いて人口の推計を行ったところ、市全体の人口が毎年増加傾向にあることに対して、中心市街地の人口は、毎年減少することが予想される。

また、人口を 5 歳刻みにした年齢階層別による 3 階層別人口について、平成 21 年と 10 年後の平成 31 年を増減率で比較した場合、年少人口については、市全体・中心市街地ともに減少となるが、市全体は -1.3% に対し、中心市街地は -24.8% である。生産年齢人口については、市全体が 1.8% であるのに対し、中心市街地は -20.0% である。さらに高齢者人口については、市全体・中心市街地ともに増加するが、市全体は 34.4% であるのに対して、中心市街地は 10.4% である。

こうした結果から中心市街地においては、年少人口及び生産年齢人口の減少が市全体と比べ際立って進むことが予想される。これは、少子化や世帯分離による若年層の郊外流出などが要因の一つとして考えられる。

中心市街地から郊外部への人口流出に歯止めをかけ、中心市街地内における均整のとれた街として定住人口を維持していくことが必要と考えられる。

※コーホート変化率法 …… 各コーホート（同じ年又は同じ期間に生まれた人々の集団）について、過去における実績人口の動態から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法

#### 【市全体】

単位（人）

	平成 16 年	平成 21 年	平成 26 年	平成 31 年	増減率 (H21→H31)
年少人口	26,767	26,708	26,483	26,360	-1.3%
生産年齢人口	84,644	86,835	89,136	88,365	1.8%
高齢者人口	17,245	20,219	22,843	27,183	34.4%
全 体	128,656	133,762	138,462	141,908	6.1%

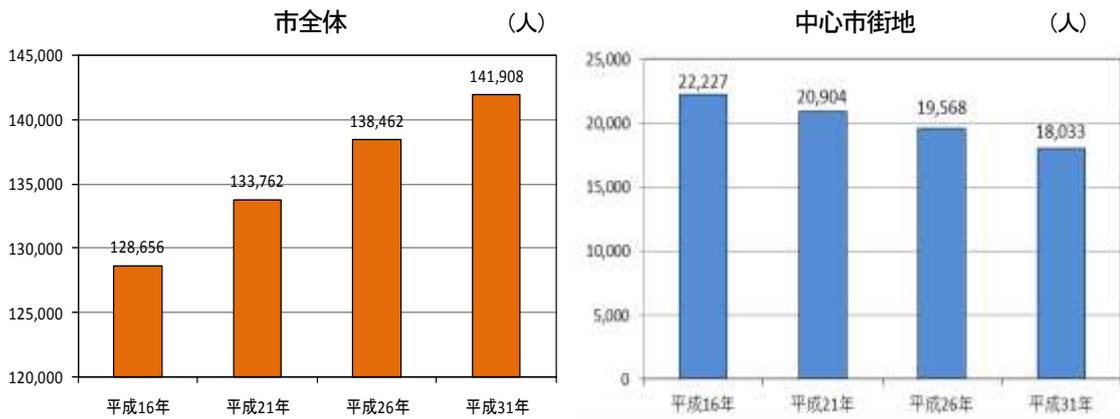
#### 【中心市街地】

単位（人）

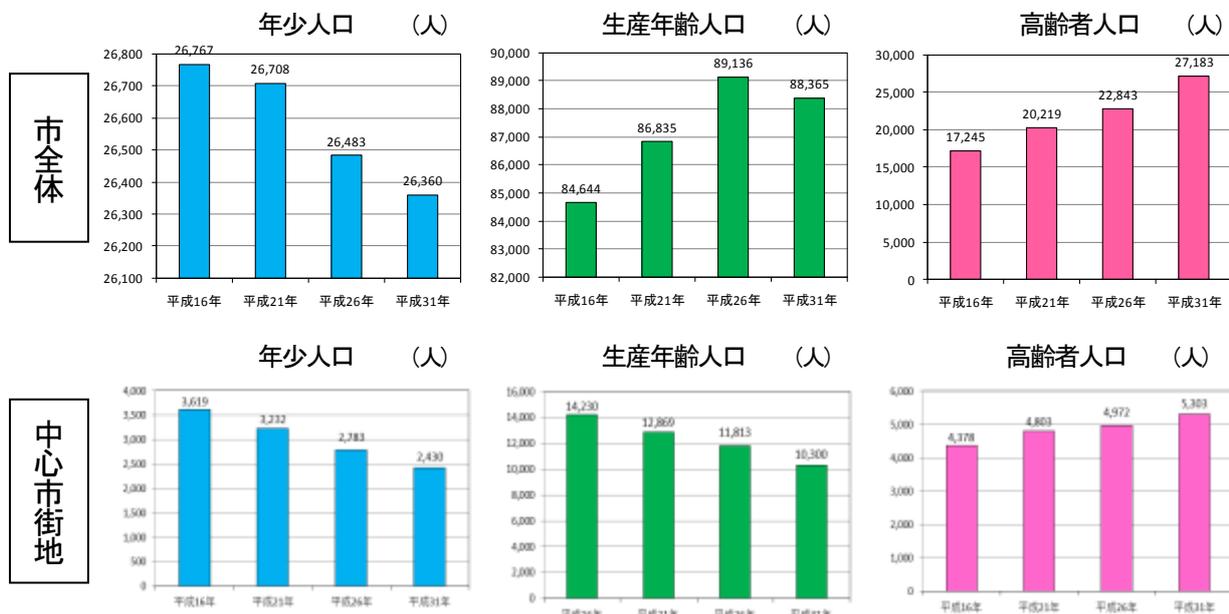
	平成 16 年	平成 21 年	平成 26 年	平成 31 年	増減率 (H21→H31)
年少人口	3,619	3,232	2,783	2,430	-24.8%
生産年齢人口	14,230	12,869	11,813	10,300	-20.0%
高齢者人口	4,378	4,803	4,972	5,303	10.4%
全 体	22,227	20,904	19,568	18,033	-13.7%

H16・H21 住民基本台帳による人口を基に推計（コーホート変化率法）

## 【人口】



## 【3階層別人口】



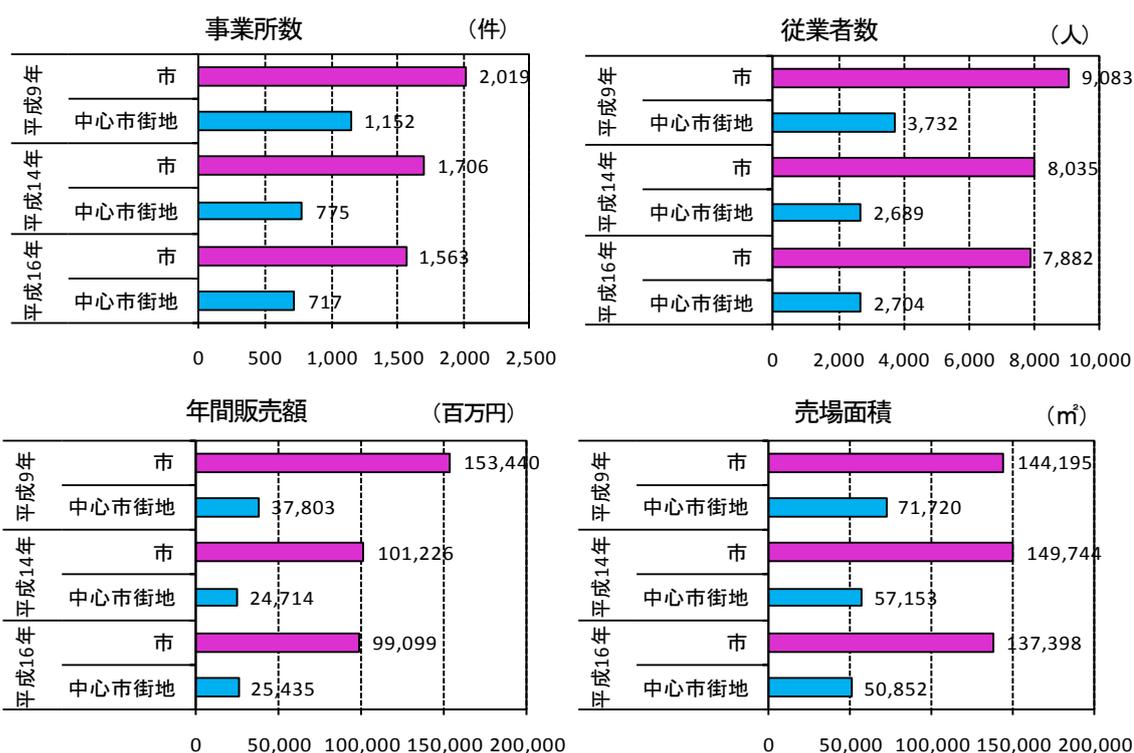
## (2) 中心市街地の商業の状況

### 1) 小売業事業所数、従業者数、年間販売額、売場面積の推移

平成16年商業統計調査による本市の事業所総数は1,563事業所、従業者数は7,882人、年間販売額は約991億円となっている。一方、中心市街地における事業所総数は717事業所、従業者数は2,704人、年間販売額は約254億円となっており、市全体に対するシェアは事業所数で5割弱(45.9%)、従業者数で3割強を占めるものの、年間販売額では3割弱となっている。

平成9年からの推移をみると、事業所数が市全体・中心市街地ともに一貫して減少している中で、平成14年から平成16年にかけて、中心市街地における従業者数及び年間商品販売額が若干増加している。

### 【小売業事業所数等の推移】



年	区分	事業所数 (件)		従業者数 (件)		年間販売額 (百万円)		売場面積 (㎡)	
		数	増減率	数	増減率	数	増減率	数	増減率
平成9年	市全体	2,019	( - )	9,083	( - )	153,440	( - )	144,195	( - )
	中心市街地	1,152	( - )	3,732	( - )	37,803	( - )	71,720	( - )
	市内シェア	57.1%		41.1%		24.6%		49.7%	
平成14年	市全体	1,706	(-15.5%)	8,035	(-11.5%)	101,226	(-34.0%)	149,744	(-15.5%)
	中心市街地	775	(-32.7%)	2,689	(-27.9%)	24,714	(-34.6%)	57,153	(-32.7%)
	市内シェア	45.4%		33.5%		24.4%		38.2%	
平成16年	市全体	1,563	(-8.4%)	7,882	(-1.9%)	99,099	(-2.1%)	137,398	(-8.4%)
	中心市街地	717	(-7.5%)	2,704	(-0.6%)	25,435	( 2.9%)	50,852	(-7.5%)
	市内シェア	45.9%		34.3%		25.7%		37.0%	

資料：商業統計調査

※中心市街地については、商業統計調査立地環境特性格別統計編における「商業集積地区（美里中央通り、泡瀬中央通り会を除く）」による集計

※（ ）内は前回調査時からの増減率

### 2) 空き店舗数の推移

中心市街地周辺の主な商店街・通り会における空き店舗・閉鎖店舗の推移を見ると、平成9年から平成19年にかけて107件増加している。平成20年には若干の増加は見られるものの、依然として厳しい状況である。

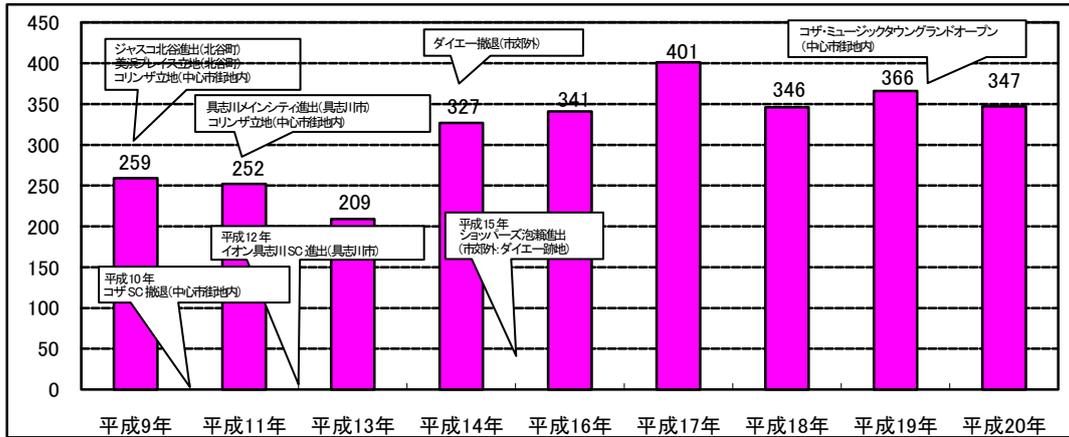
平成11年の具志川メインシティ、平成12年のイオン具志川SCオープン後1~2年の間に中心市街地内の店舗の閉鎖が相次いでおり、平成13年から平成17年までの5年間に192店舗が空き店舗・閉鎖店舗※となっていることから、中心市街地の商店街への明らかな影響がみられる。こうした要因の一つとしては、老朽化した社会インフラ、店主の高齢化と後継者不

足などの影響が考えられる。

さらに、平成20年4月にオープンしたイオンタウン読谷SCはもとより、平成24年に本市中心市街地中心に位置している胡屋十字路より2.5km以内に進出する大規模ショッピングモールの影響は計り知れない。したがって、本市中心市街地においては、これら大型商業施設との差別化を図り、個性的で魅力ある商業活性化を展開していく必要がある。

- ※ 空き店舗・・・権利者が貸す意思はあるが、借り手がない店舗
- 閉鎖店舗・・・権利者が貸す意思がなく、倉庫や車庫等店舗以外の用途の店舗

【地域別空き店舗・閉鎖店舗数の推移 (※平成9年以降、データがそろっている商店街・通り会のみ)】



【主要商店街・通り会別空き店舗・閉鎖店舗数の推移】

単位 (軒)

商店街・通り会名	平成9年度	平成11年度	平成13年度	平成14年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度				
	空き店舗数	空き店舗数	空き店舗数	空き店舗数	空き店舗数	閉鎖店舗数	空き店舗数	閉鎖店舗数	空き店舗数	閉鎖店舗数			
1 諸見地域													
1 プラザ通り会	19	21	12	14	10	7	9	5	9	8	3	6	10
2 諸見南通り会	23	27	7	25	25	8	23	7	14	5	17	2	15
3 諸見北通り会	27	15	18	20	5	5	11	7	9	6	13	11	8
4 諸見百軒通り会	1	0	3	3	3	3	3	2	3	4	3	1	3
諸見地域 計	70	63	40	62	43	23	46	21	35	23	36	20	36
5 胡屋地域													
5 一番街	9	12	14	21	25	35	3	35	3	32	1	32	0
6 サンシティ	11	13	10	10	15	13	1	13	1	14	0	16	1
7 パークアベニュー	14	15	5	24	7	4	2	5	2	22	1	28	1
8 中の町大通り会	11	11	6	9	22	18	12	13	9	5	10	9	8
9 コザゲート通り会	0	4	3	3	7	3	3	3	6	0	6	5	4
10 胡屋大通り会	13	22	21	27	22	17	3	12	7	11	7	10	6
11 コザパルミラ通り会	8	2	2	7	2	2	0	2	1	3	3	3	3
12 コザSC通り会	2	2	7	10	4	1	1	0	8	2	10	2	8
13 Jパレード	3	3	3	8	9	1	4	6	3	7	5	4	3
14 胡屋くすの木通り会	11	3	7	10	13	5	4	2	3	4	10	0	0
胡屋地域 計	82	87	78	129	126	99	33	91	43	100	53	109	34
15 銀天街	20	27	30	25	69	16	18	13	16	11	16	6	6
16 コザ十字路地域													
16 安慶田大通り会	14	10	9	11	12	13	16	4	7	7	3	4	4
17 コザ十字路南大通り会	31	22	13	22	20	10	23	12	15	17	15	23	18
18 城前通り会	10	5	11	19	26	11	28	9	29	8	28	7	20
19 銀座通り会	5	5	3	7	7	3	2	1	6	3	2	1	8
20 嘉間良大通り	11	19	13	30	28	8	18	6	21	7	16	6	20
21 美里中央通り	16	14	12	22	10	12	22	9	8	9	12	9	16
コザ十字路地域 計	107	102	91	136	172	73	127	54	102	62	92	56	92
合計	259	252	209	327	341	195	206	166	180	185	181	185	162

資料：沖縄商工会議所

### 3) 大規模集客施設等の立地状況と地元購買率、吸引率の推移

本市における面積10,000㎡を超える大規模集客施設及びその他面積1,000㎡以上の集客施設の立地状況は以下の通りである。中心市街地の区域内に3件、その他の市域に8件、計11件が立地している。

市内及び近隣自治体における4,000㎡以上の大型店の立地状況(大規模小売店舗届出一覧：沖縄県：平成20年3月31日現在)は図に示すとおりであり、胡屋十字路から半径5km以内(車で5分～10分)に14店舗(うち市外8店舗)、10km以内(車で10分～20分)の範囲までとすると24店舗(うち市外18店舗)の大型店が立地している。

特に、うるま市・北谷町・読谷村については下表に示すように、本市を取り囲むように大規模集客施設が軒並み立地している。

自治体名	名称	時期	店舗面積	中心市街地からの距離※
うるま市	具志川メインシティ	平成11年	22,197㎡	5km以内
	イオン具志川ショッピングセンター	平成12年	28,756㎡	5km以内
北谷町	ハンビータウン	平成2年	10,863㎡	7.5km以内
	イオン北谷ショッピングセンター	平成9年	18,949㎡	5km以内
	美浜プレイス	平成9年	11,162㎡	5km以内
読谷村	イオン読谷ショッピングセンター	平成20年	10,347㎡	7.5km以内

※中心市街地の中心部である胡屋地域からの距離

平成19年度沖縄県買物動向調査による本市の購買人口は52,068人となっている。自治体の吸引力を示す吸引力指数は0.41で、近隣の主な市町の中でも低い状況にある。近隣市町のなかでも、北谷町が3.99、うるま市が1.90と高くなっており、これらの市町に購買人口が吸引されているため、本市の吸引力指数が低くなっていることが伺える。

平成16年度からの推移でみると、3年間で、本市の購買人口は約12,759人減少し、吸引力指数も低下傾向にある。このことから沖縄県第2位の人口を有する本市が近隣自治体における大型店の商圏ターゲットとなっていることが推測される。

さらに隣接する北中城村が本市との境界(本市中心市街地の中心部である胡屋地域から2.5kmの距離)に大規模ショッピングモールの出店計画が進められている(平成24年予定)。新聞報道などによると、この大規模ショッピングモールは、敷地面積約170,000平方メートルで飲食店などの専門店が約300店、約6,000台の駐車場を建設する予定である。

近年は、このように本市のコントロールの及ばない地域(特に本市との境界付近)での大型店の立地が相次いでおり、本市中心市街地の商業は、甚大な影響を受けている。

#### 【近隣主要市町における地元購買人口等の推移(買回品総合)】

	平成16年度				平成19年度			
	購買人口(人)	行政人口(人)	吸引力指数	地元購買率	購買人口(人)	行政人口(人)	吸引力指数	地元購買率
沖縄市	64,827	125,529	0.52	39.8%	52,068	128,047	0.41	32.7%
うるま市	206,297	112,752	1.83	87.9%	216,132	114,038	1.90	92.1%
北谷町	110,278	26,660	4.14	76.5%	108,270	27,134	3.99	71.2%

資料：平成16年度沖縄県買物動向調査報告書  
平成19年度沖縄県買物動向調査報告書

### 【市内及び近隣市町村における大規模集客施設等の立地状況】

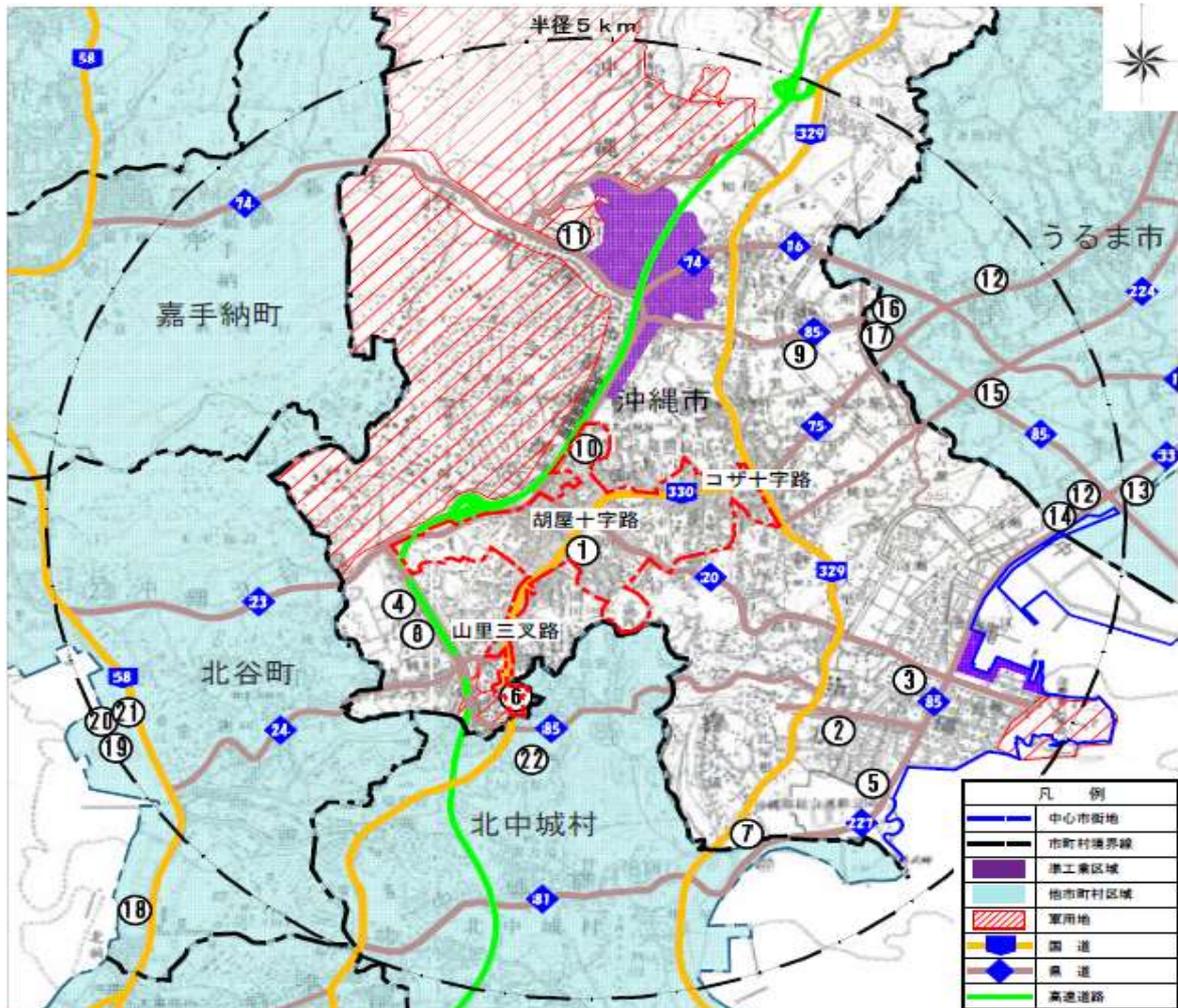
番号	大規模小売店舗名	所在地	区分	時期	店舗面積の合計(㎡)	沖縄市 胡屋十字路中心
1	サンエー中の町タウン	沖縄市胡屋2丁目1番56号	改修	平成13年6月9日	4,468	半径約5.0Km以内
2	ショッパーズ泡瀬店	沖縄市字高原625番地	改修	平成14年4月1日	15,394	半径約5.0Km以内
3	イオンタウン泡瀬	沖縄市泡瀬1420番地の4	改修	平成15年2月21日	2,979	半径約5.0Km以内
4	ホームセンターさくもとコザ店	沖縄市南桃原4丁目28番1号	改修	平成15年6月11日	2,173	半径約5.0Km以内
5	マンガ倉庫泡瀬店	沖縄市字与儀571番地	新規	平成17年12月1日	2,928	半径約5.0Km以内
6	ブラザハウスショッピングセンター	沖縄市久保田三丁目1番12号	改修	平成18年5月13日	9,202	半径約5.0Km以内
7	Viviホーム大川中部店	沖縄市字与儀716番地の1	改修	平成20年3月7日	12,540	半径約5.0Km以内
8	コープ山内	沖縄市南桃原4丁目1番1号	改修	平成17年10月3日	1,666	半径約5.0Km以内
9	コープ美里	沖縄市字松本975番地	改修	平成17年10月3日	1,656	半径約5.0Km以内
10	コリンザ	沖縄市中央2丁目28番1号	旧法届出のみ	—	10,206	半径約5.0Km以内
11	ホームセンターサンシー	沖縄市字知花1662	新規	昭和57年3月1日	4,323	半径約5.0Km以内
12	イオン具志川ショッピングセンター	うるま市字前原303番	改修	平成14年8月9日	28,756	半径約5.0Km以内
13	具志川ショッピングセンター(ヤマダ電機)	うるま市字前原167番1	新規	平成16年4月30日	6,325	半径約5.0Km以内
14	ニトリうるま店	うるま市字前原徳森原354-1	新規	平成20年5月29日	8,805	半径約5.0Km以内
15	メイクマン具志川店	うるま市字江洲648	新規	—	4,157	半径約5.0Km以内
16	うるまシティプラザ	うるま市江洲487番地	新規	平成21年7月10日	7,370	半径約5.0Km以内
17	具志川メインティ	うるま市字江洲455番地	改修	平成16年10月25日	22,197	半径約5.0Km以内
18	ハンビータウン	北谷町北前1丁目2番3号	改修	平成13年11月10日	10,863	半径約7.5Km以内
19	イオン北谷ショッピングセンター	北谷町字美浜8番地5	改修	平成14年8月9日	18,949	半径約5.0Km以内
20	美浜プレイス	北谷町字美浜9番地2	旧法届出のみ	—	11,162	半径約5.0Km以内
21	アミューズメントパークミハマ	北谷町字美浜15番68、69	旧法届出のみ	—	7,320	半径約5.0Km以内
22	(仮称)北中城村イオンショッピングセンター	北中城村比嘉	未定	—	82,000	半径約7.5Km以内

※ 経済産業省HP 流通・物流基盤整備「大店立地法の届出状況」より参照

※ 沖縄市以外の近隣市町村の店舗面積は、4,000㎡以下非表示

□ は中心市街地内

### 【大規模集客施設等位置図】



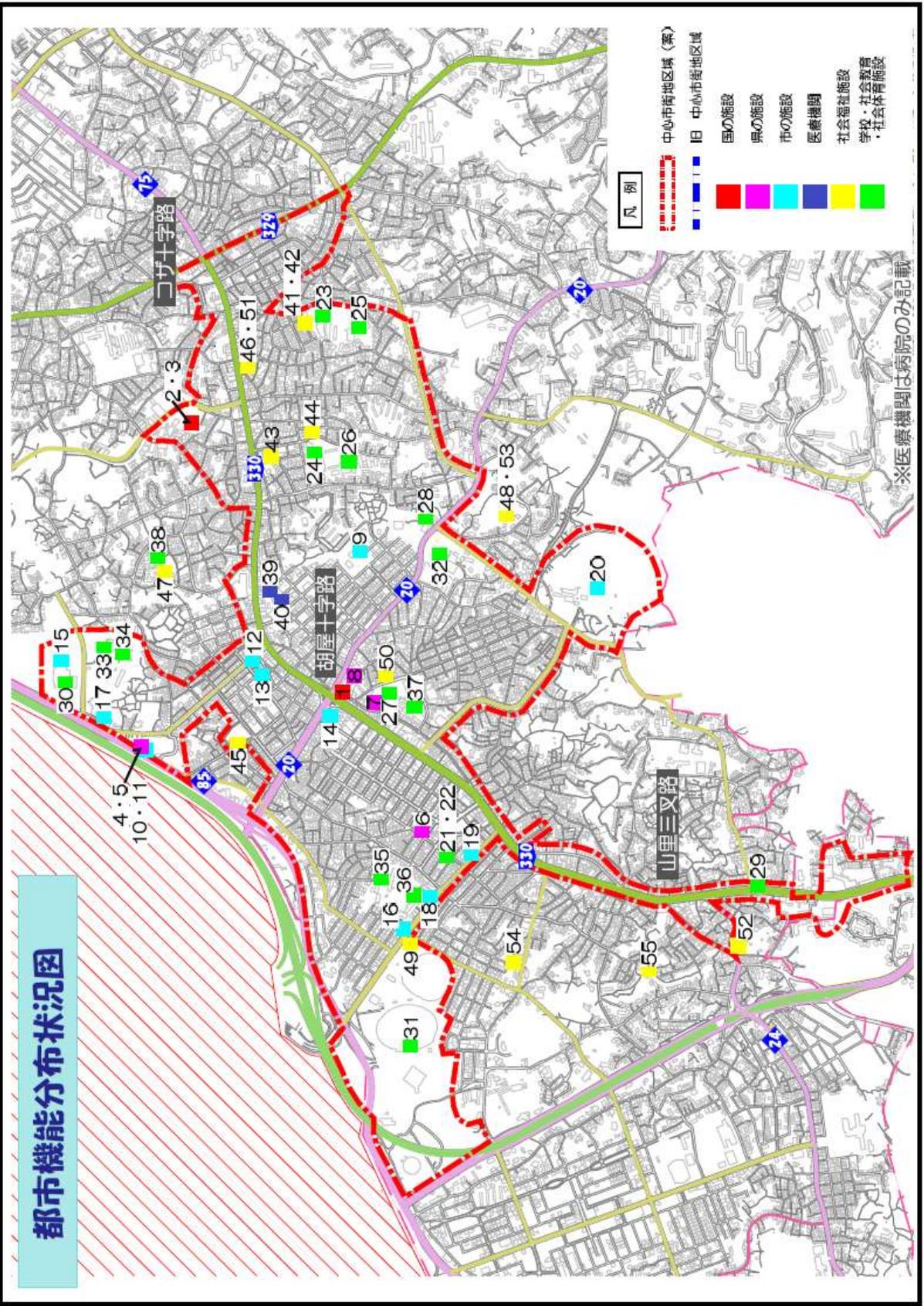
### (3) 都市機能分布の状況

本市の中心市街地内とその周辺には、以下のような国・県・市の各種行政施設や文化施設、病院等の医療・福祉施設等が数多く集積している。

#### 【中心市街地内及び周辺における主要施設】

施設区分		中心市街地内及び中心市街地周辺			
主要施設	国	1	沖縄地区税関支署		
		2	沖縄労働基準局		
		3	沖縄公共職業安定所		
	県	4	女性就業援助センター沖縄相談所（コリンザ内）		
		5	コザ中小企業労働相談所（コリンザ内）		
		6	コザ県税事務所		
		7	コザ社会保険事務所		
		8	沖縄警察署		
	市	9	沖縄市役所	15	沖縄市民会館
		10	沖縄市民小劇場 あしびなー	16	沖縄市青少年センター
		11	沖縄市テレワークセンター	17	沖縄市働く婦人の家
		12	沖縄市戦後文化資料展示室（ヒストリート）	18	沖縄市教育委員会教育研究所
		13	沖縄市戦後文化資料展示室（ヒストリートⅡ）	19	中部広域市町村圏事務組合
		14	コザ・ミュージックタウン	20	財団法人沖縄こども未来ゾーン運営財団
学校・社会教育・ 社会体育施設	21	沖縄市立 郷土博物館	30	沖縄市立 中央公民館	
	22	沖縄市立 図書館	31	沖縄市 コザ運動公園	
	23	沖縄市立 安慶田小学校	32	沖縄市立 コザ中学校	
	24	沖縄市立 室川小学校	33	沖縄市立 コザ小学校	
	25	沖縄市立 安慶田幼稚園	34	沖縄市立 コザ幼稚園	
	26	沖縄市立 室川幼稚園	35	沖縄市立 中の町小学校	
	27	沖縄市立 諸見小学校	36	沖縄市立 中の町幼稚園	
	28	愛星幼稚園	37	沖縄市立 諸見幼稚園	
	29	星洲国際高等学校沖縄学習センター	38	コザ聖母幼稚園	
医療機関	39	潮平病院		なかのまちクリニック	
	40	上村病院		なおまさクリニック	
		安座間胃腸科内科		宮城内科・小児科医院	
		金城皮膚性病科医院		コザ胃腸科外科医院	
		源町病院		諸見整形外科医院	
		コザクリニック		山里整形外科医院（代）	
		佐久本内科小児科		中部産婦人科（代）	
		島袋医院		桑江皮膚科医院	
		島袋内科医院		アイクリニック中の町	
		富名腰医院		なかのいま耳鼻咽喉科	
	嘉数医院		ガキヤ眼科		
社会福祉施設	41	沖縄市福祉文化プラザ あげだ児童館	49	沖縄市老人福祉センター 寿楽園	
	42	沖縄市立 安慶田保育所	50	胡屋保育所	
	43	室川保育園	51	ミッドリンク共同作業所	
	44	室川夜間保育園	52	希織分場	
	45	沖縄市 あげぼの福祉作業所	53	沖縄市地域子育て支援センター	
	46	ワークプラザユニティー	54	沖縄市立 諸見保育所	
	47	沖縄市立 嘉間良保育所	55	光の子保育園	
	48	沖縄市立 あげぼの保育所		沖縄市母子生活支援施設レインボーハイツ	

# 都市機能分布状況図

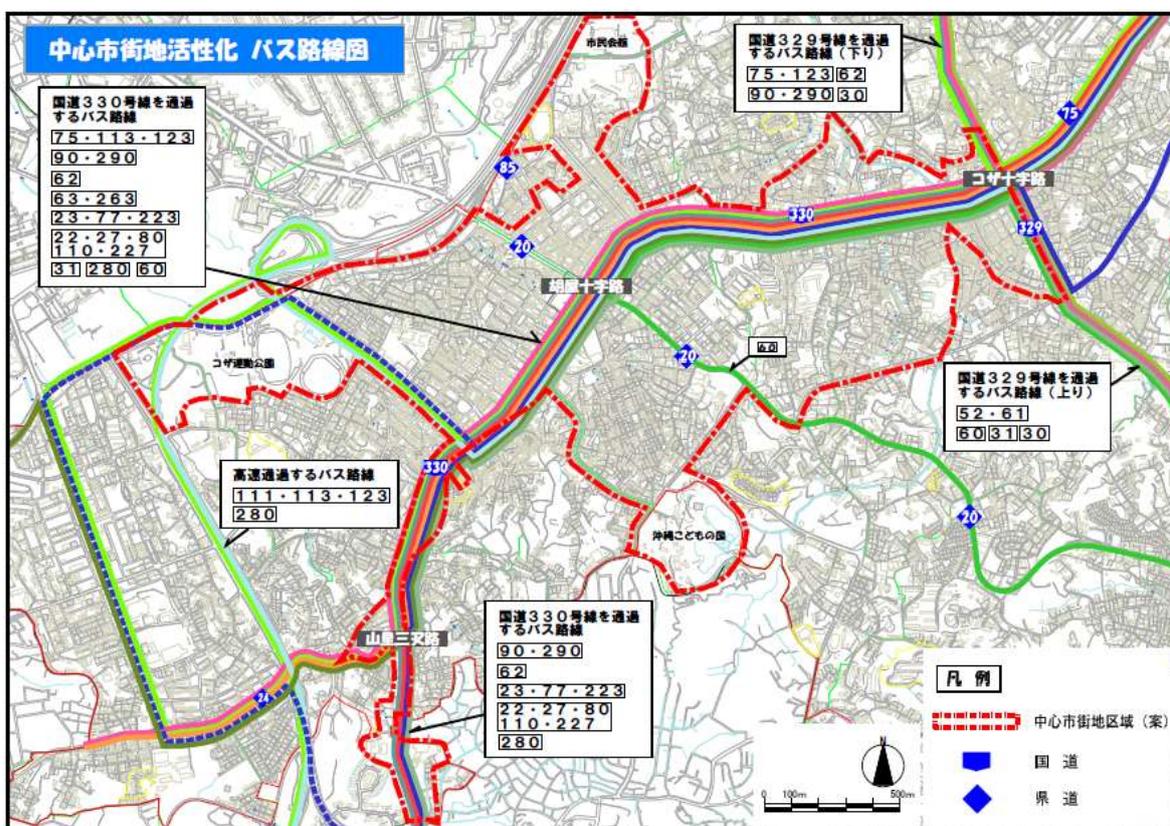


#### (4) 公共交通の現況

本市中心市街地内においては、国道330号を主要軸として県内4つのバス会社による26系統のバスが運行している。1日あたり平均540本、1時間あたり約34本のバスが本市中心市街地を通過しており、市街地におけるバス路線のサービス水準は県内でも高いものである。

しかし、近年におけるモータリゼーションの進展によって買物や移動等における交通手段が、自家用車へとシフトしてきたことによって、バスの利用者は年々減少している。また、その他にも渋滞等の交通事情により、スケジュール通りバスが運行されていないことやバス路線が国道330号に集中し、中心市街地内を循環するような路線が確保されていないことも要因のひとつである。

【中心市街地を運行するバス路線図】



### (5) 歩行者通行量の推移



歩行者通行量は、大部分の調査地点で減少傾向にあり、特に平日の銀天街や休日の中央パークアベニューなどで大幅に減少している。

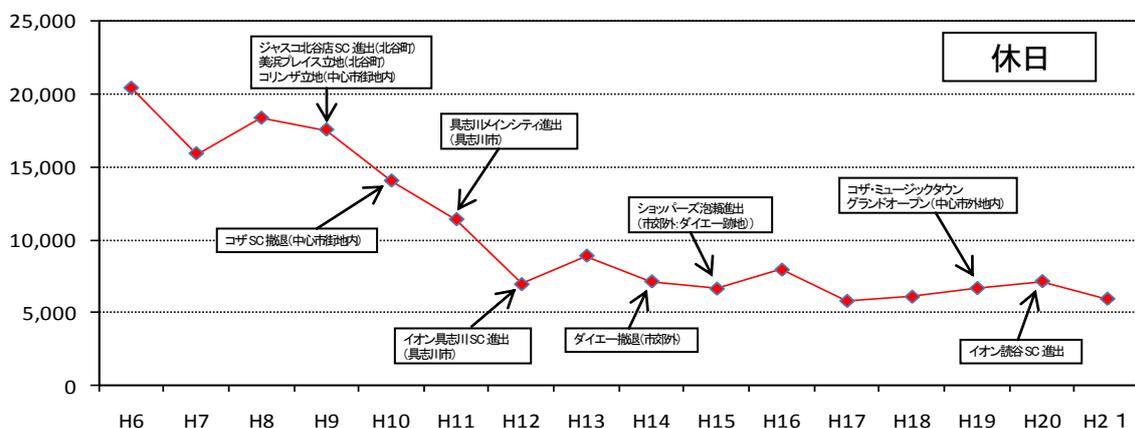
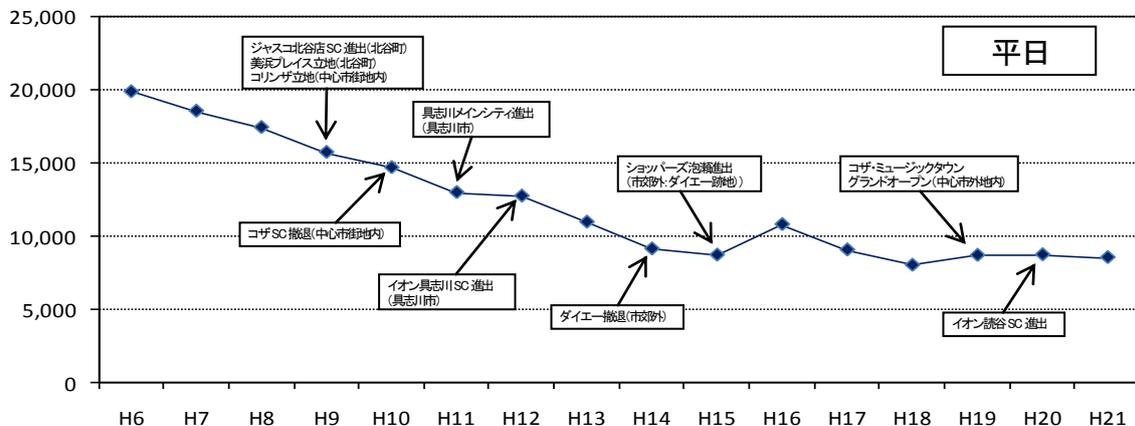
平成5年に本市郊外への大型商業施設としては初の「ダイエーハイパーマート（本市中心市街地の中心部である胡屋地域から5km以内）」が立地している。立地初年度は中心市街地での歩行者通行量を高水準で保っていたものの2年目以降にその影響が確実に始まっている。

さらに、平成9年にイオン北谷SC（同5km以内：北谷町）の進出と美浜プレイス（同5km以内：北谷町）が立地した頃から顕著に歩行者通行量が減り始め、平成10年の中心市街地内の大型ショッピングセンターの撤退や平成11年の具志川メインシティ（同5km以内：うるま市）、平成12年のイオン具志川SC（同5km以内：うるま市）の相次ぐ立地により歩行者通行量が激減し、平成13年以降は、平日の歩行者通行量が1万人を下回っている。

特に、平成12年のイオン具志川SCの進出後に「休日の歩行者通行量」の激しい落ち込みがみられる。

#### 【歩行者通行量の推移】

資料：沖縄商工会議所



単位 (人)

			平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
サンシティ	沖縄市観光協会前	平日	3,582	2,790	2,566	2,454	2,582	1,946	1,648	1,390
		休日	2,132	2,270	2,090	1,794	1,600	1,042	612	732
一番街	普久原レコード店前	平日	3,326	3,568	3,548	2,234	2,150	2,370	1,920	1,542
		休日	3,448	3,982	3,068	2,616	1,994	1,900	1,066	1,450
中央パーク アベニュー	一番街入口 トモヤス時計店前	平日	4,596	4,470	4,386	4,208	3,532	2,838	3,066	2,324
		休日	7,694	3,490	6,900	6,642	5,342	3,592	2,292	2,182
中の町地域	中頭スポーツ店前	平日	1,540	1,618	1,444	1,658	1,448	1,356	1,786	1,780
		休日	1,218	1,460	1,418	1,542	1,358	998	864	1,640
コザゲート 通り	明光めがね店前	平日	1,152	1,342	1,126	1,224	1,098	1,134	1,054	1,116
		休日	1,464	1,386	1,166	1,410	850	1,422	646	970
銀天街	タカエス薬局前	平日	1,744	1,092	914	840	972	774	750	644
		休日	854	526	478	452	436	446	256	370
ミュージック タウン	ミュージックタウン前	平日	1,257	1,173	1,103	995	929	821	806	694
		休日	711	555	640	612	490	398	243	311
山里	山里バス停前	平日	2,674	2,496	2,346	2,117	1,977	1,748	1,715	1,476
		休日	2,872	2,241	2,584	2,470	1,979	1,606	980	1,255
計		平日	19,871	18,549	17,433	15,730	14,688	12,987	12,745	10,966
		休日	20,393	15,910	18,344	17,538	14,049	11,404	6,959	8,910
対前年比		平日		0.93	0.94	0.90	0.93	0.88	0.98	0.86
		休日		0.78	1.15	0.96	0.80	0.81	0.61	1.28

			平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
サンシティ	沖縄市観光協会前	平日	1,508	1,380	1,390	1,180	1,140	1,198	886	758
		休日	782	798	622	454	508	502	502	352
一番街	普久原レコード店前	平日	1,270	1,198	952	780	840	1,128	812	664
		休日	908	642	650	428	838	790	706	332
中央パーク アベニュー	一番街入口 トモヤス時計店前	平日	1,808	1,450	1,670	1,342	1,532	1,362	1,054	1,080
		休日	1,952	1,774	1,500	996	1,220	1,156	936	784
中の町地域	中頭スポーツ店前	平日	1,426	1,692	3,260	2,960	1,694	2,442	3,042	3,156
		休日	1,152	1,216	2,324	1,966	1,184	2,210	2,550	2,712
コザゲート 通り	明光めがね店前	平日	656	902	1,120	706	734	608	716	580
		休日	856	908	1,210	840	896	658	844	710
銀天街	タカエス薬局前	平日	662	370	276	306	496	240	498	202
		休日	246	144	248	110	382	200	368	26
ミュージック タウン	ミュージックタウン前	平日	578	551	683	574	507	550	553	674
		休日	249	232	277	203	213	233	250	208
山里	山里バス停前	平日	1,230	1,173	1,454	1,220	1,080	1,171	1,176	1,434
		休日	1,007	937	1,120	819	859	943	1,009	840
計		平日	9,138	8,716	10,805	9,068	8,023	8,699	8,737	8,548
		休日	7,152	6,651	7,951	5,816	6,100	6,692	7,165	5,964
対前年比		平日	0.83	0.95	1.24	0.84	0.88	1.08	1.00	0.98
		休日	0.80	0.93	1.20	0.73	1.05	1.10	1.07	0.83

※ 平成21年よりコザ・ミュージックタウン前及び山里バス停前を調査地点に追加している。当該調査地点に係る平成6年から平成20年までの数値は、他調査地点のトレンドによる推計値である。

【歩行者通行量調査地点図】



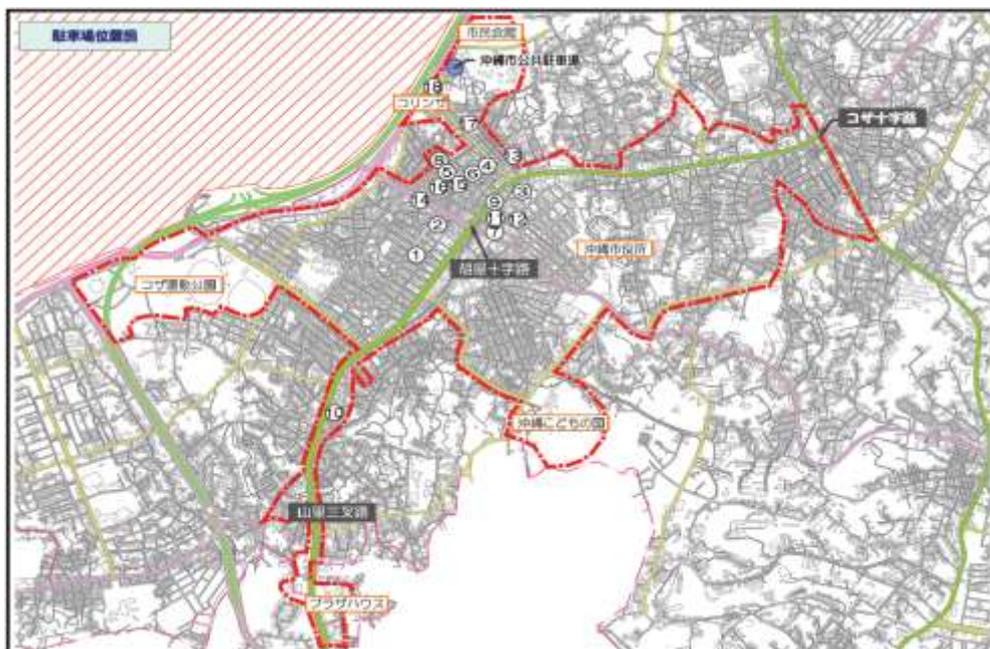
## (6) 駐車場の利用状況

中心市街地内の駐車場利用状況は以下のとおりであり、中心市街地には公共の駐車場を含め多くの民間駐車場が点在している。しかし、その稼働率は平日・休日とも30%以下となっており、ほとんどが活用されていない状況である。これは、点在する駐車場の位置や料金等の情報不足によるものと考えられ、来街者には駐車場不足という印象を与えている。今後は、これらストックを有効に活用するための駐車場の位置情報等を発信する駐車場誘導システムを構築し、まちのにぎわい回復を図る必要がある。

名 称	駐車可能台数(台)	収容能力 (収容台数 × 9H) (台)	平成 18 年 10 月 29 日(日)		平成 18 年 10 月 30 日(月)		備考	
			利用台数 (台)	稼働率	利用台数 (台)	稼働率		
1	SS有料駐車場	9	81	18	22.2%	83	102.5%	有料
2	中の町24時駐車場	12	108	63	58.3%	98	90.7%	有料
3	善久原有料駐車場	14	126	62	49.2%	69	54.8%	有料
4	NK有料駐車場	15	135	61	45.2%	68	50.4%	有料
5	富里有料駐車場	15	135	55	40.7%	80	59.3%	有料
6	JK有料駐車場	15	135	35	25.9%	61	45.2%	有料
7	島袋有料駐車場	15	135	0	0.0%	102	75.6%	有料
8	中央パーキング	18	162	2	1.2%	4	2.5%	有料
9	ゴヤコインパーキング	19	171	24	14.0%	50	29.2%	有料
10	園田パーキング	22	198	155	78.3%	149	75.3%	有料
11	中駐車場	35	315	92	29.2%	200	63.5%	有料
12	胡屋有料駐車場	40	360	85	23.6%	235	65.3%	有料
13	BC有料駐車場	43	387	147	38.0%	244	63.0%	有料
14	コザゲート通り公共コインパーキング(ゲート側)	47	423	109	25.8%	39	9.2%	有料
15	センター駐車場	80	720	52	7.2%	98	13.6%	有料
16	一番街パーキング	96	864	73	8.4%	104	12.0%	有料
17	中央パークアベニュー共同駐車場	135	1215	117	9.6%	56	4.6%	有料
18	コリンザ4F	400	3,600	536	14.9%	918	25.5%	時間制有料
合 計		1,030	9,270	1,686	18.2%	2,658	28.7%	

※上記駐車場はすべて時間貸し

資料：沖縄市TMO協議会 沖縄市商業活性化推進協議会  
(平成18年度沖縄市中心商店街駐車場利用実態調査結果報告書)



## [4] 地域住民のニーズ等の把握・分析

### (1) 沖縄市の中心市街地のまちづくりに関わるアンケート調査

本アンケート調査は、市民の中心市街地に対する現状認識や中心市街地の利用状況、活性化に向けた意向等を把握し、基本計画策定のための基礎資料とすることを目的に実施したものである。

#### 1) 調査実施概要

##### ① 調査実施方法

本調査は、市内に居住する3,000世帯を無作為に抽出し、郵送により配布・回収を行った。

◆配布日：平成19年9月14日（金）

◆回収期限：平成19年9月28日（金）（差出有効期限：平成19年10月31日（水））

##### ② 調査票の配布・回収状況

◆配布数：3,000世帯へ配布

◆回収数：549件（回収率：18.3%）

##### ③ 回答者の属性

###### 【年齢】

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
2.2%	11.5%	17.3%	15.8%	20.0%	16.0%	16.8%

###### 【性別】

男性	女性
46.8%	45.5%

###### 【居住地】

中心市街地内	中心市街地外
26.6%	63.9%

#### 2) 調査結果

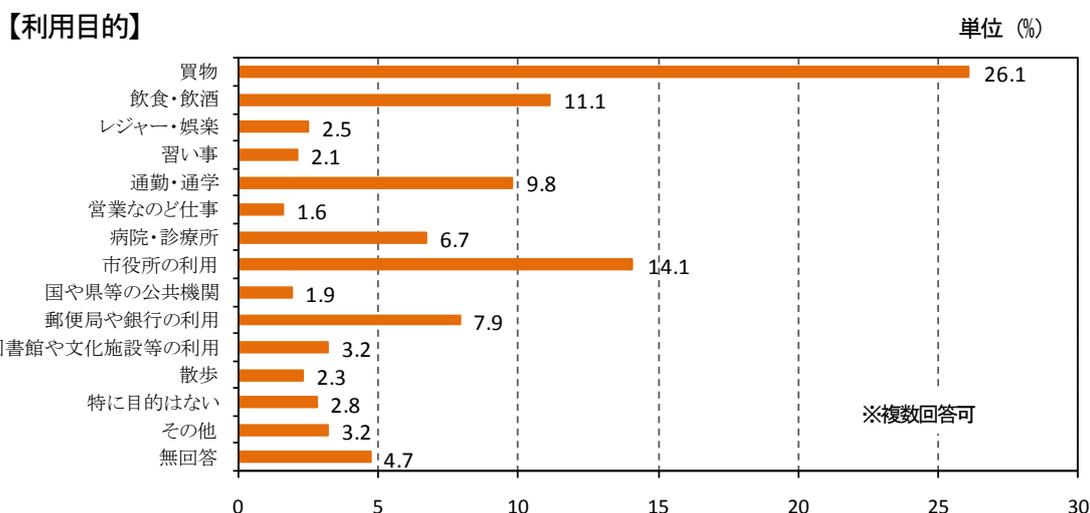
##### ① 中心市街地の利用頻度について

中心市街地の利用頻度は、「ほぼ毎日」が最も多く25.9%、次いで「ほとんど行かない」が14.4%、「週2～3回」が12.2%となっている。週1回以上利用するという回答は全体の49.2%を占めている。年齢別に見ると、50歳代が50.8%、60歳代が55.7%で週1回以上利用するという割合が多くなっている。

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
ほぼ毎日	25.5%	23.8%	29.5%	33.3%	28.2%	23.9%	16.3%	25.9%
週2～3回	8.3%	6.3%	10.5%	5.7%	11.8%	19.3%	18.5%	12.2%
週1回	16.7%	11.1%	11.6%	5.9%	11.8%	12.5%	12.0%	11.1%
月2～3回	0%	7.9%	9.5%	16.1%	9.1%	14.8%	8.7%	10.7%
月1回	0%	17.5%	8.4%	8.0%	9.1%	5.7%	12.0%	9.5%
2～3カ月に1回	8.3%	11.1%	12.6%	10.3%	5.5%	3.4%	12.0%	8.9%
半年に1回	16.7%	1.6%	3.2%	8.0%	4.5%	8.0%	5.4%	5.5%
ほとんど行かない	25.0%	19.0%	12.6%	11.5%	17.3%	12.5%	13.0%	14.4%
無回答	0%	1.6%	2.1%	0%	2.7%	0%	2.2%	1.8%
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

## ②中心市街地の利用目的について

利用目的の上位は「買物」、「市役所の利用」、「飲食・飲酒」、「通勤・通学」、「銀行や郵便局の利用」となっている。年齢別に見ると、60歳代、70歳代で「買物」との回答が多くなっており、中心市街地が高年齢層の身近な買物の場となっていることが伺える。また、30歳代では「飲食・飲酒」といった回答が他の年代と比べて多くなっている。



## 【年齢別利用目的】

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
買物	26.3%	18.4%	21.6%	24.6%	26.3%	30.3%	33.6%	26.1%
飲食・飲酒	5.3%	16.3%	20.9%	10.9%	10.2%	11.3%	0.7%	11.1%
レジャー・娯楽	10.5%	5.1%	3.4%	1.5%	0.5%	2.1%	2.1%	2.5%
習い事	10.5%	1.0%	0.7%	2.2%	1.2%	2.8%	3.6%	2.0%
通勤・通学	26.3%	16.3%	14.9%	10.0%	12.6%	3.2%	0.8%	9.8%
営業などの仕事	0%	0%	1.4%	3.6%	3.0%	1.2%	0%	1.6%
病院・診療所	0%	5.1%	3.4%	5.1%	4.2%	6.3%	17.1%	6.7%
市役所の利用	0%	15.3%	12.8%	19.6%	13.8%	13.4%	12.1%	14.1%
国や県等の公共機関	0%	1.1%	2.0%	2.9%	1.2%	1.4%	2.9%	1.9%
郵便局や銀行の利用	0%	9.2%	4.7%	8.7%	9.0%	6.3%	10.7%	7.9%
図書館や文化施設等の利用	0%	3.1%	5.4%	2.9%	2.4%	4.2%	1.4%	3.2%
散歩	0%	0%	0%	0%	3.6%	7.0%	2.9%	2.3%
特に目的はない	10.5%	2.0%	0.7%	2.2%	1.2%	2.8%	7.1%	2.8%
その他	10.5%	5.1%	3.4%	2.2%	3.6%	2.1%	3.6%	3.2%
無回答	0%	2.0%	4.7%	3.6%	7.2%	5.6%	1.4%	4.7%
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

## 【居住地と利用目的の関係】

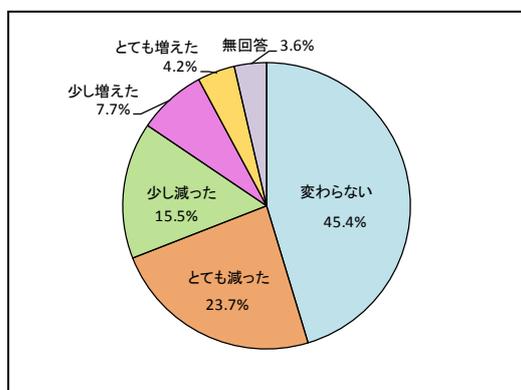
	中心市街地内	中心市街地外		中心市街地内	中心市街地外
買物	36.5%	22.4%	国や県等の公共機関	0%	2.4%
飲食・飲酒	11.1%	12.4%	郵便局や銀行の利用	11.5%	6.2%
レジャー・娯楽	1.3%	2.8%	図書館や文化施設等の利用	2.1%	3.6%
習い事	2.1%	1.7%	散歩	3.8%	1.5%
通勤・通学	11.1%	10.5%	特に目的はない	1.3%	3.6%
営業などの仕事	1.3%	2.1%	その他	2.6%	3.6%
病院・診療所	5.5%	6.0%	無回答	5.1%	4.1%
市役所の利用	4.7%	17.1%			

### ③中心市街地訪問回数の変化について

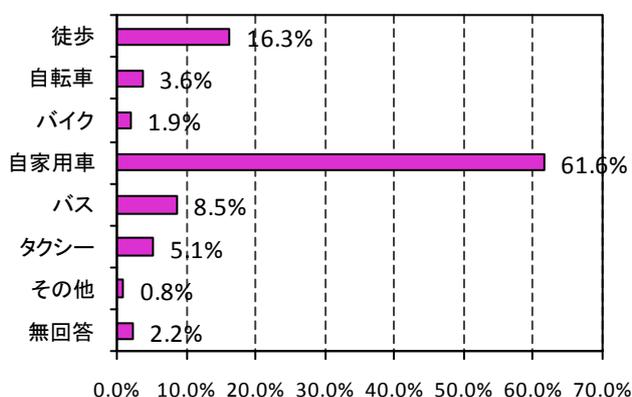
中心市街地に出かける回数の変化（5年前と比較）については、「変わらない」が最も多く45.4%となっている一方で、「とても増えた」、「少し増えた」の合計が11.9%であるのに対し、「とても減った」、「少し減った」の合計は39.2%となっている。減った理由としては、「駐車場不足」、「魅力的な店舗が無く、品揃えも不十分」、「郊外の大型店舗に行くようになった」との回答が多くあげられている。

また、来街の際の交通手段では、自家用車が圧倒的に多く、国道330号を軸に公共交通（基幹バス）は充実しているものの、沖縄における交通手段のほとんどが自家用車であることが分かる。そのため「駐車場不足」と答える人が最も多い結果となっている。中心市街地内には民間の駐車場が数多くあるが、なかなかその稼働率が上がらない状況にあり、今後は既存のストックを有効活用するとともに、基幹バス等の公共交通の利用促進を図る取り組みを行う必要がある。

【中心市街地に出かける回数の変化】 5年前と比較

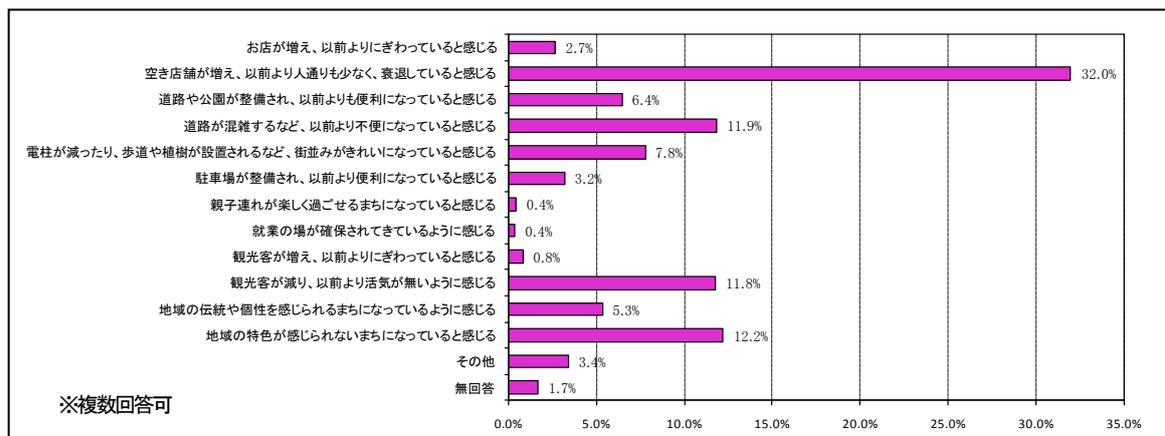


【来街の際の交通手段】



### ④中心市街地の現状に対する印象について

【現在の中心市街地に対する印象】



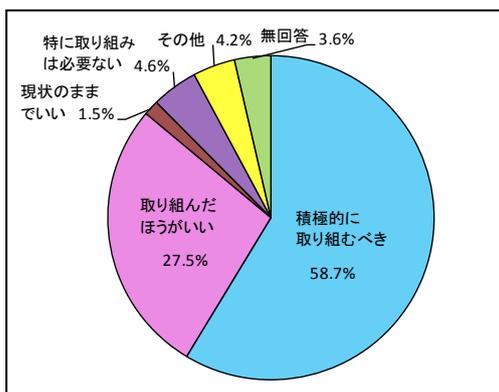
まちの印象については1,347件の回答があげられ、そのうち良い印象に分類されるものが364件、悪い印象に分類されるものが914件の回答となっている。この問いについてはまちの景観やにぎわいについての印象を問うものであるが、これは、空き店舗や閉鎖店舗等が増

えたことや近隣市町村への相次ぐ大型商業施設の立地により、買物客などがそうした大型施設へ流れ、本市中心市街地の人通りが減り、以前よりも活気がなく、中心市街地が衰退しているというイメージを持っている人が多いことが伺い知れる。一方で「道路や公園、駐車場の整備により便利になった」、「街並みがきれいになった」との回答もあげられており、一定の事業効果が現れてきているものの、今後も継続してまちの活性化を図る必要がある。中心市街地における悪い印象を払しょくし、まちににぎわいを取り戻し、市民又は来街者が、まちが良くなった、変わったなどという良いイメージに変えていくことが重要である。

### ⑤中心市街地活性化の必要性について

「積極的に取り組むべきである」と「取り組んだほうが良い」を合わせると86.2%に達し、大多数の市民が中心市街地活性化の必要性を感じている。さらに最も力を入れるべき場所としては、「胡屋十字路周辺」が33.5%と最も多く、「胡屋・コザ・山里のすべて」が26.9%となっている。

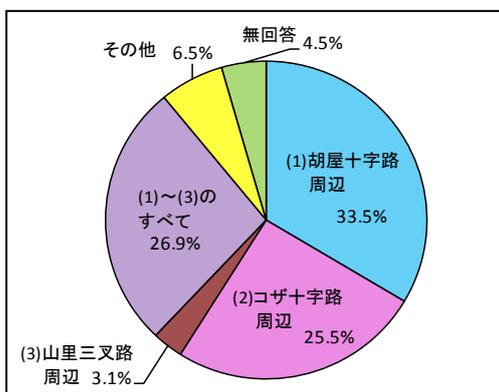
【取り組みの必要性】



【居住地と取り組みの必要性の関係】

	中心市街地内	中心市街地外	全体
積極的に取り組むべき	65.7%	58.1%	58.7%
取り組んだほうが良い	23.8%	28.5%	27.5%
現状のままでいい	1.4%	1.7%	1.5%
特に取り組みは必要ない	0.7%	5.4%	4.6%
その他	3.5%	3.7%	4.2%
無回答	4.9%	2.6%	3.6%

【最も力を入れるべき場所】



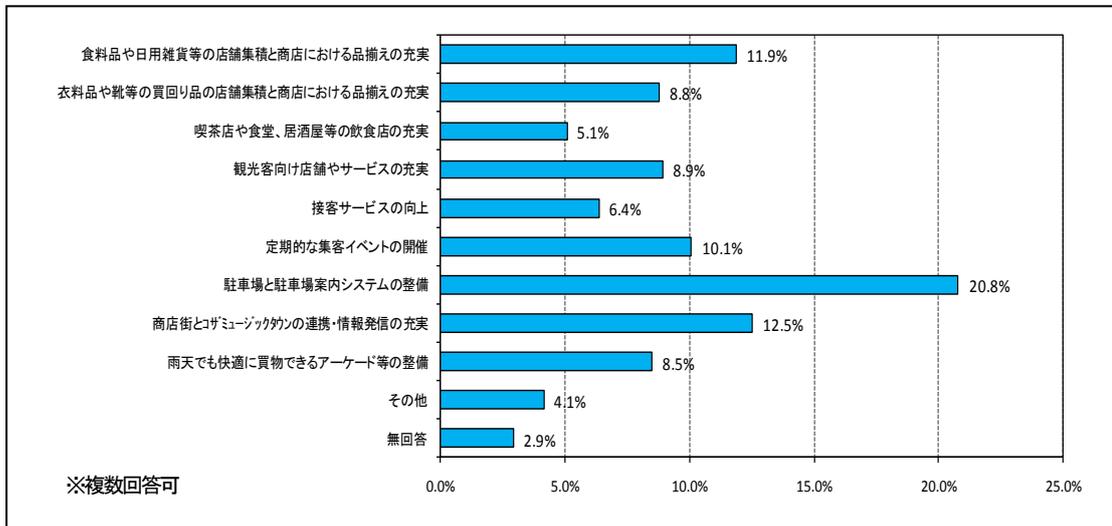
【居住地と力を入れる場所の関係】

	中心市街地内	中心市街地外	全体
(1)胡屋十字路周辺	65.7%	58.1%	33.5%
(2)コザ十字路周辺	23.8%	28.5%	25.5%
(3)山里三叉路周辺	1.4%	1.7%	3.1%
(1)~(3)のすべて	0.7%	5.4%	26.9%
その他	3.5%	3.7%	6.5%
無回答	4.9%	2.6%	4.5%

## ⑥商店街活性化に向けた取り組みについて

この質問では、中心市街地内における商店街の活性化について意見を伺っている。やはりここでも、「駐車場と駐車場案内システムの整備」を望む意向が最も多く、主な交通手段が自家用車であることが分かる。また、次に多い取り組みとして「商店街とコザ・ミュージックタウンの連携、情報発信の充実」があがっており、平成19年に「コザ・ミュージックタウン」がオープンし、活性化の核施設として、そこに人が集まり、にぎわいが創出されることを市民が期待している現れだと言える。今後は「コザ・ミュージックタウン」を拠点として、そこに集まる人々について、情報発信の強化や魅力ある店舗の創出、イベントの効果的实施などにより、商店街と連携し回遊させる仕組みづくりが必要である。さらに、食料品や日用雑貨、衣料品などの買回り品の品揃えの充実を望む声も多く、活性化に向けた商店街個店の一層の自助努力も必要である。

### 【商店街活性化に向けた今後の取り組み】



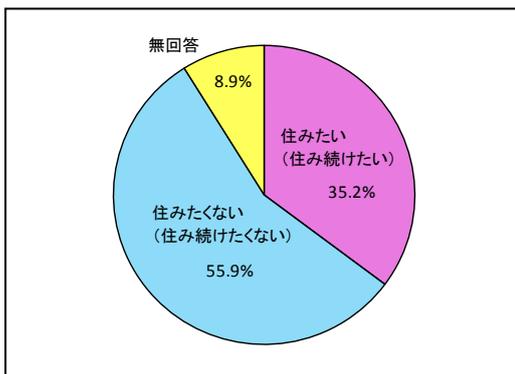
## ⑦中心市街地への居留意向について

中心市街地への居留意向については、「住みたい（住み続けたい）」が35.2%、「住みたくない（住み続けたくない）」が55.9%となっている。

全体の結果では、住みたくない（住み続けたくない）という回答が半数以上を占めているが、居住地との関係を見ると、中心市街地内の人については、約7割が住み続けたいと答えており、中心市街地内における居住環境がある程度良好であるものと考えられる。一方、中心市街地外の方は、約7割が中心市街地に住みたくないと答えており、外から見た中心市街地の居住環境のイメージが④「中心市街地の現状に対する印象について」の結果と同様、あまり良くない印象であることが伺える。

現在中心市街地における人口減少が深刻な問題となっており、今後はまちの印象を良くするなど、人口の減少に歯止めをかけるための取り組みが必要である。

### 【中心市街地に対する居留意識】



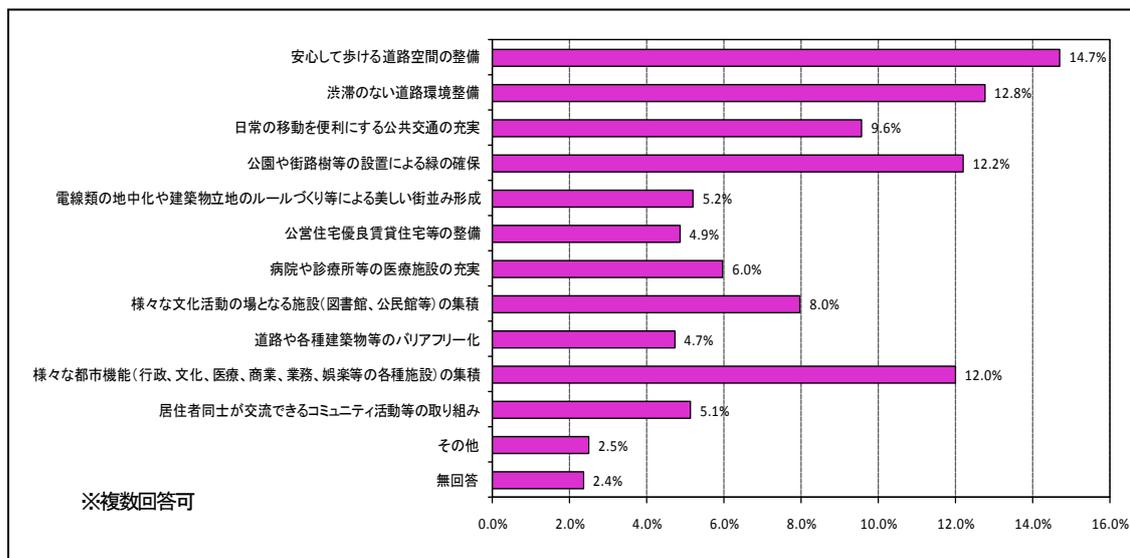
### 【居留意識と居住地の関係】

	中心市街地内	中心市街地外	全体
住みたい (住み続けたい)	69.9%	21.4%	35.2%
住みたくない (住み続けたくない)	21.7%	70.4%	55.9%
無回答	8.4%	8.3%	8.9%

### ⑧商業活性化以外の必要事項について

「安心して歩ける道路空間の整備」が最も多く、次いで「渋滞のない道路環境整備」、「緑の確保」や「様々な都市機能の集積」を望む意向も多くなっている。このことから今後の中心市街地の活性化に向けては、商業の活性化とともに道路や公園、都市福利施設など様々な環境整備と一体的に取り組んでいく必要がある。

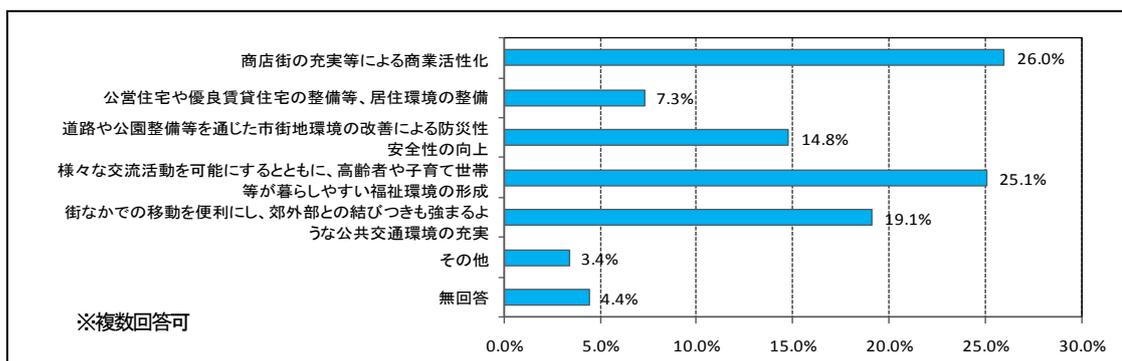
### 【商業活性化のほかに必要な取り組み】



### ⑨早い時期から重点的に取り組むべき事項について

早い時期から重点的に取り組むべき事項としては、「商店街の充実等による商業活性化」が最も多く、次いで「様々な交流活動を可能にするとともに、高齢者や子育て世帯等が暮らしやすい福祉環境の形成」となっている。中心市街地については商業活動の中心という大きな役割を果たしているが、今後は商業だけでなく、交流の場、生活の場として一体的な活性化の推進が重要である。

## 【今後早い時期から重点的に取り組むべきこと】



### ⑩空き店舗の活用方法について

空き店舗の活用方法としては、「無料駐車場としての活用」を望む意向が最も多く、その他「人々が集まれる広場の整備」、「ターゲットを絞った店舗の出店」等も多くあげられている。

### 3) 総括

沖縄市の中心市街地のまちづくりに関わるアンケートから読み取れる主な市民意向などについて以下に整理する。

#### ①中心市街地に対する市民の印象と、その活性化への支持

多数の空き店舗、来街者の減少、活気の無い雰囲気などから、約7割の市民が中心市街地に対してマイナスの印象を抱いている。その一方で、9割近い市民が中心市街地活性化を支持しており、胡屋十字路周辺を中心にコザ十字路周辺、山里地区に及ぶ軸での活性化を期待している。

#### ②中心市街地内外の市民における中心市街地への居住意向

中心市街地内の居住者の約7割が「このまま中心市街地に住み続けたい」と回答している反面、中心市街地郊外部の居住者については、約7割が「中心市街地には住みたくない」と回答。沖縄市は、全国の「住みたい街ランキング」（生活ガイド.com 地域別）において上位にランクされるなど、市全体では良好なイメージを保っていると考えられるが、中心市街地への居住意向は総じて弱く、中心市街地における人口の減少傾向を裏付けている。

#### ③自家用車による中心市街地へのアクセス性に対する要望

鉄軌道がない沖縄市にとっては、その移動手段を主に自家用車に依存しており、郊外部から中心市街地への来街手段は圧倒的に自家用車である。このため中心市街地における駐車場不足あるいはその案内不足を認識している人が多く、駐車場整備や駐車場案内システムに対する要望が非常に多い。

#### ④中心市街地の活性化策への期待

商店街の充実を求める声がある一方で、音楽のまちづくりに関する基幹施設である「コザ・ミュージックタウン」の更なる活用に対する期待や、「街の特徴や地域資源を積極的に活用した中心市街地の活性化の推進」に対する支持も多い。さらに「店舗の集積」や「更なるイベントの開催」のほか、「都市機能の充実」や高齢者や子育て世代などの「多世代にわたる生活環境の充実」などを望む意向も強く見られ、郊外部とは一線を画す、中心市街地の特徴を活かした都市機能の拡充等に対する市民ニーズがあると分析される。

## (2) 市政懇談会における市民ニーズ

本市は、市民が市政の主人公であるという市政運営の基本に立って、市民の声を市政に具体的に反映するとともに、まちづくりへの市民の積極的な参加と市民と行政との協働による市政運営を図るために、4年または5年ごとに市長をはじめ市幹部が直接市民と意見交換を行う市政懇談会を実施している。当懇談会において中心市街地に関連する意見・要望等を以下のとおり抜粋する。

### 【市政懇談会における市民意見・要望等】(報告書より抜粋)

- ・ミュージックタウンの活用方法について、音楽だけにこだわらず子ども向けのイベント(映画等)をさらに増やせば、親や祖父母などの大人も巻き込んだ活性化ができるのではないか。
- ・学校の空き教室を地域に積極的に活用させてほしい。
- ・年間を通した持続した健康づくりを企画し、市民の健康づくりに取り組んでもらいたい。また、健康づくりのための公共施設の使用料免除などについても検討してほしい。
- ・子ども達がこどもの国の年間パスポートを購入してから良く行くようになった。家に帰ってきていろいろな動物の話や出来事を話ってくれるのでとても嬉しく思っている。一時期衰退しているようにも見えたが、市や園の方々の努力でまた盛り上がっていることは喜ばしいことで、子ども達の教育の場としても素晴らしい施設だと感謝している。
- ・コミュニティバスが運行されてとても喜んでいる。市の運動公園や婦人の家、市民会館といった私たちが文化活動をする場所への移動が容易になり、便利になっていたが、試験運行が終わって今後はどのような見通しなのか。
- ・自治会における子ども達の居場所づくりということで毎週木曜日にも市の協力をいただいて出前児童館を公園で開いている。子どもたちの健全育成のためにも回数を増やすとか、他の自治会においても実施を奨励したほうが良いと思う。
- ・市立図書館の別館を建設してほしい。
- ・安慶田市営住宅跡地に運動公園の建設をしてほしい。
- ・こどもの国は宝の宝庫である。役所も発想を柔軟にして付加価値を高めていくようにしていただきたい。
- ・コザ運動公園の植物を活かし、動植物の観察ができる公園をつくってほしい。
- ・中央パークアベニュー通りに無料の駐車場を整備してほしい。
- ・沖縄市はスポーツコンベンションを宣言し、スポーツランド都市づくりに鋭意努力している。県内ではプロ野球チーム7球団がキャンプを行っており、ドーム型球場の建設について促進してほしい。

以上が中心市街地に関わる市政懇談会における市民意見である。その中で、こどもの比率(15歳未満の年少人口比)が全国一高い市という特性を有する本市において、子ども達の居場所づくり(こどもの国、児童館、図書館等)への意見・要望が多く寄せられている。また、こどもの国やコザ運動公園などの既存の都市福利施設に対する意見・要望が比較的多い結果である。

今後、中心市街地の活性化を図るにあたっては、商業等の活性化に加え、これら市民ニーズを踏まえて、既存の都市福利機能を有した施設の充実や強化を積極的に促進していく必要がある。

### (3) 「市町村の中心市街地活性化の取組に対する診断・助言事業」からの提言

平成 19 年度に経済産業省流通政策課中心市街地活性化室によって行われた「平成 19 年度中心市街地商業等活性化支援業務 市町村の中心市街地活性化の取組に対する診断・助言事業」の中で、主要な事項について SWOT フレームに落とし込み、以下のような課題が整理されている。

#### 【中心市街地の SWOT】

- ①地域への影響がポジティブ（好）でコントロールしやすいもの ……強み
- ②地域への影響がネガティブ（悪）だがコントロールしやすいもの ……弱み
- ③地域への影響がポジティブ（好）でコントロールしにくいもの ……機会
- ④地域への影響がネガティブ（悪）でコントロールしにくいもの ……脅威

		コントロールの可能性	
		高い（主に内部環境）	低い（主に外部環境）
地域への影響	ポジティブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地には特色のある街が存在している。</li> <li>・ライブハウスなど特色ある店が立地しており、観光客等も惹きつけている。</li> <li>・国道 330 号を中心にバス路線が発達しており、公共交通に対する利便性が高い。</li> <li>・街づくりに関わる活動を行っている人が多く見られる。</li> <li>・音楽によるまちづくりの拠点施設として、「コザ・ミュージックタウン」がオープンした。</li> <li>・胡屋十字路口周辺の商店街が連携し、一つの組織体が形成されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄本島においては、那覇市と北部の中間に沖縄市が位置しており、独自の地域形成が可能な条件を持っている。</li> <li>・沖縄県は音楽に係わる集積が高い地域であり、全国的にも注目されている。</li> <li>・高速道路や国道が市内を貫通しており、広域との連携に係わるポテンシャルが高い。</li> <li>・沖縄県には年間 600 万人弱の観光入込が見られ、観光客が形成するマーケットが大きなものとなっている。</li> </ul>
	ネガティブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胡屋十字路口、コザ十字路口ともに周辺の商店街で空き店舗が目立ってきている。</li> <li>・商業や、事業所の立地など、中心市街地の空洞化が著しい。</li> <li>・まちづくりに関わる活動を行う人は多いが、プロデューサー的な人が不在であり、また組織的な動きにもなっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接する北中城村において、大規模ショッピングモールの建設予定がある。</li> <li>・沖縄市を取り巻くように、周辺の市町村において大型ショッピングセンター等が多く立地している。</li> <li>・音楽イベントについては北谷町も近年力を入れており、沖縄市としての独自性を一層明確にする必要が高まっている。</li> <li>・沖縄観光という点では、沖縄市是那覇から北部への通過地点となっている。</li> </ul>

### (4) 沖縄市活性化 100 人委員会「中心市街地活性化部会」からの提言

#### ◆沖縄市活性化 100 人委員会とは

本市が、市民と行政がともに考えながら議論を深め、まちづくりのビジョンや課題を共有する仕組みとして設置したものであり、市民の持っている豊富な知識・経験・感性を結集することにより、「ひと輝く げんきな沖縄市」を実現することをめざしている。

沖縄市活性化 100 人委員会は、中心市街地活性化部会、こどものまち宣言部会、公立保育所

のこれからの役割を考える部会が提言を終え、現在は沖縄市の将来ビジョンづくり部会を設置し、定期的に議論を重ねている。

#### ◆沖縄市活性化100人委員会「中心市街地活性化部会」からの提言要旨

沖縄市活性化100人委員会「中心市街地活性化部会」は、平成19年1月30日の発足以来、16回の部会を開催し、市の中心市街地の活性化に向けた議論が行われ、11月16日に提言書が市長へ提出された。

この提言は、

(1) 心のよりどころとしての街の魅力と機能の回復（コミュニティの再生）

(2) 市と市民との協働による街づくり手法の確立

の観点からなされている。すなわち、沖縄市の成り立ちの経験等を踏まえ、その独特のコザ文化とも言うべき文化を再構築し、行政（沖縄市）と市民が協働することにより、21世紀型の国際文化観光都市を目指そうとするものである。そのために「器（拠点）」と「担い手（人）」及び「連携（ネットワーク）」づくりに主眼を置いている。提言では、胡屋地区、銀天街地区それぞれについて、以下のような内容がまとめられている。

#### ≪胡屋地区≫

##### 【緊急に必要な整備課題について】

- ①情報・交流センター的機能を持った施設の必要性
- ②胡屋地区のコンセプトを明確にし、トータル的な街おこしをコーディネートできる人材の必要性
- ③地域の方々と共に汗をかいてくれる人材の不足（イベント等のマンパワー不足）

##### 【平成20年度における事業提案】

- ①空き店舗情報センター（仮称）
- ②タウンマネージャーの派遣
- ③FMコザの積極活用
- ④商店街の美観の演出

#### ≪銀天街地区≫

##### 【緊急に必要な整備課題について】

- ①アーケードの老朽化対策
- ②銀天街の道路に対する滑り止め対策

##### 【提言内容】

『食とアートと交流の街づくり』

#### 1) 銀天街まちづくりセンター

『食とアートと交流の街づくり』を総括し、下記①、②、③、④を備えた中核施設である。

- ①銀天大学本部
- ②人材センター機能
- ③情報発信機能
- ④銀天大学寮

## 2) 食の街づくり

- ①屋台街構想
- ②ワンデイシェフ事業

## 3) コザブランド創設

- ①アートで街並み再生
- ②銀天大学ギャラリー&セレクトSHOP

## 4) 生涯学習の街づくり

- ①銀天大学研修室
- ②銀天大学多目的ホール
- ③銀天大学研修室・銀天大学多目的ホールの貸し出しについて
- ④寺子屋図書館

上記提案のうち、胡屋地区における「空き店舗情報センター」、「タウンマネージャーの派遣」、銀天街地区における「食とアートと交流の街づくり」が、実際に平成20年度に市の新規事業として組込まれている。

今後は、21年度までに新規に展開した「空き店舗情報センター」、「タウンマネージャーの派遣」、「食とアートと交流の街づくり」、「情報・交流機能を持った施設」、「銀天大学」等の事業については、拡充も含め積極的に事業の継続を行い、その他新たな新規事業として、地区計画の策定を行い、中心市街地活性化の事業化に向けて取り組む必要がある。

## [5]旧中心市街地活性化基本計画の検証

### (1) 旧計画における基本方針への対応状況

本市では、平成11年7月に旧中心市街地活性化基本計画を策定し、活性化のテーマ及び基本方針を以下のとおり定め、まちづくりを推進してきたが、大規模店舗の郊外立地による商店街の衰退、空き店舗の増加、歩行者通行量の減少によるにぎわいの喪失等数多くの問題が解決されていないのが現状である。

#### 【旧計画における活性化のテーマと基本方針】

テーマ：『コザ文化の醸成とコミュニケーションのまちづくり』

- 基本方針： 1. 文化の再整備      2. 街のアメニティの整備  
3. 集客方法の整備      4. 商業力のアップ  
5. 核となる新3次産業の創出

上記5つの基本方針のポイントと、各々の取り組み状況は以下のとおりである。

5つの基本方針	基本方針のポイント	取り組み状況
1. 文化の再整備	①埋もれている地域資源を磨く ②埋もれている地域資源を繋ぎ合わせて文化を再構築	コザ文化を活用したイベント等が活発に行われたが、それらが有機的に繋がれ、まちの活性化が図られるまでには至っていない。
2. 街のアメニティの整備	①生活を快適にするための基盤整備や施設整備を推進 ②バリアフリーについても十分に考慮	生活基盤や施設整備として、都市計画道路や公共駐車場等の整備を推進し、アンケートでは街の快適性向上に対する一定の成果も認められている。一方で、駐車場整備や緑の多い歩きやすいまちづくり、バリアフリーへの配慮が求められている。
3. 集客方法の整備	①集客の仕掛け、輸送、受け皿づくりの3つのステップを総合的に整備 ②短期的には中心部（胡屋十字路とコザ十字路の間）を主として集客を図る。	集客の仕掛けの一つとして、コザ・ミュージックタウンが整備され、集客イベント等も複数実施されているが、輸送、受け皿の充実には至っていない。
4. 商業力のアップ	①中心部のテナントミックス等、街を一つのショッピングモールに見立てた中心部全体の商業力の再構築 ②個店レベルでのマーケティング ③空き店舗を活用した特産品のアンテナショップや観光情報の提供等、外部への積極的な情報発信	テナントミックスは実施されていないものの、個店レベルの強化等により、中心市街地の従業者数及び年間販売額は微増傾向にある。一方で空き店舗の増加には歯止めがかかっていない。
5. 核となる新3次産業の創出	①「つくる」、「見せる」、「体験する」、「得る」という要素を軸とした循環拡大型産業の創出 ②マルチメディア関連産業の誘致	マルチメディア産業は誘致され、沖縄市における新3次産業として「音楽の産業化」に向けた動きも見出しているが、循環拡大型産業の創出といった所までは至っていない。

## (2) 旧計画に位置づけられた事業の実施状況

旧基本計画においては、「市街地の整備改善のための事業」計 42 事業、「商業等の活性化のための事業」計 33 事業、合計 75 事業が位置づけられている。

これらの事業について、現状評価から事業の進捗状況を整理すると、「A:計画に即して展開した、又はしている」と「B:計画内容を多少変えて展開した、又はしている」をあわせた『展開した、又はしている』事業は合計 48 事業・64.0%となっている。

一方、「C:取り組めていない」事業のうち、調査や計画策定、市民等との協議など、一定の取り組みは行われたものの、現状として実現に至っていない事業（『計画等に取り組んだが実現していない事業』）は合計 16 事業・21.3%、また、種々な事由により、この間『取り組めていない事業』は合計 11 事業・14.7%となっている。主に旧基本計画において実施時期や実施主体が未定とされていた事業については取り組みが行われておらず、また、市の予算の関係で取り組めていない事業もみられる。

### 【旧基本計画に位置づけられた事業の進捗状況】

	事業数	展開した、又はしている事業数(率)	計画等に取り組んだが実現していない事業数(率)	取り組めていない事業数(率)
市街地の整備改善のための事業	42	25 (59.5 %)	10 (23.8 %)	7 (16.7 %)
商業等の活性化のための事業	33	23 (69.7 %)	6 (18.2 %)	4 (12.1 %)
合計	75	48 (64.0 %)	16 (21.3 %)	11 (14.7 %)

## (3) 旧計画に位置付けられた取り組み事業の総括

旧中心市街地活性化基本計画に位置付けられた事業の取り組みについての総括を、「市街地の整備改善のための事業」と「商業等の活性化のための事業」の二つに分類し次のとおり総括する。個別事業の実施状況について、「展開した、又はしている事業」は○、「計画等に取り組んだが実現していない事業」は△、「取り組めていない事業」は×で表示している。）

### 【市街地の整備改善のための事業】

#### 1) 道路・街路・交通施設・河川等

- ①諸見里・桃原線整備事業 (○)
- ②国道 330 号電線類地中化 (○)
- ③県道 20 号線シンボルロード事業 (○)
- ④センター中央通り線整備事業 (○)
- ⑤市道センター39 号線整備事業 (○)
- ⑥バスバース・バス待合室整備事業 (×)
- ⑦市庁舎前線シンボルロード事業 (○)
- ⑧安慶田中線(南伸) 整備事業 (○)
- ⑨室川線整備事業 (○)
- ⑩照屋中通り線整備事業【室川照屋中通り線整備事業】 (×)

- ⑪県道 20 号線電線地中化事業 (×)
- ⑫水辺プラザ整備事業 (○)
- ⑬安慶田中線整備事業 (○)
- ⑭住吉・八重島線整備事業【住吉入口八重島線整備事業】 (×)
- ⑮越来中央線整備事業 (△)
- ⑯比嘉中央公園線整備事業 (○)
- ⑰中の町 51 号線外 1 整備事業 (○)
- ⑱街路 2-3-10 線整備事業 (△)
- ⑲(仮称)市道中の町 5 号線整備事業【上地線整備事業】 (○)
- ⑳沖縄環状線整備事業 (○)
- ㉑パステリアンデッキ整備事業 (×)
- ㉒国道 330 号拡幅整備事業 (△)

## 2) 公園・広場

- ①イベント広場事業 (○)
- ②都市公園の整備 (×)
- ③銀天街地区イベント広場整備事業 (○)
- ④公共空地整備事業 (△)

## 3) 駐車場・交通システム

- ①駐車場整備事業【嘉手納飛行場周辺公共空地(公共駐車場)設置助成事業】 (○)
- ②駐車場誘導システム整備 (△)

## 4) 市街地再開発・区画整理

- ①山里第 1 地区市街地再開発 (△)
- ②中の町地区市街地再開発事業(先行プロジェクト事業)【中の町 A 地区第一種市街地再開発事業】 (○)
- ③中の町 A・B 地区市街地再開発事業 (△)
- ④中の町街なか再生土地区画整理事業 (△)
- ⑤安慶田街なか再生土地区画整理事業 (△)

## 5) 住宅整備

- ①室川市営住宅建替事業 (○)
- ②バリアフリータウン整備 (△)

## 6) 福祉・健康・交流施設

- ①イベントホール (○)
- ②戦後文化資料館建設事業 (○)
- ③ベンチャー支援センター (○)
- ④(仮称)クリソノ・ピース・メモリアル・プラザ整備事業 (○)
- ⑤子ども未来館(仮称)及びその周辺整備事業 (○)
- ⑥ファッション工房整備事業 (×)
- ⑦沖縄音楽市場【中の町・ミュージックタウン整備事業】 (○)

### <事業成果>

市街地の整備改善のための事業としては、道路・歩道整備事業による歩行者の安全確保をはじめ、道路景観の改善、交通渋滞の緩和、都市河川と一体的に整備した水辺プラザ整備事業、イベント広場を併設した公園整備事業による水と緑による憩いの空間創出、各種イベントの開催による集客効果、公共駐車場整備事業による中心市街地に不足している駐車場の確保などを実施し、市街地の環境改善に一定の成果を上げることができた。また、「ワンダーミュージアム」や「コザ・ミュージックタウン」の整備などにより、施設利用者数や歩行者通行量の増加に一定の成果も見られる。

### <課題>

市街地の整備改善に関わる事業について、新たな居住ストックの確保はもとより、都市福利施設の整備等、生活環境のレベルアップに繋がる、多面的な街としての魅力・付加価値に資する事業が十分であったとはいえ、郊外部における市街地化の進展と相俟って、中心市街地の人口減少に歯止めがかかっていない状況である。

### <反省点>

旧計画における市街地の整備改善に関わる事業では、人口減少の抑制に資する再開発事業や区画整理事業を計画に位置付けたものの、権利関係の輻輳から地権者との合意形成に時間を要し、結果として実施に至らなかったものがあるなど、事業の未実施及び遅延が反省点の一つである。さらに、市街地の整備、商業の活性化を計画の軸に据えた半面、多面的な都市機能の充実への視点が欠落していた。

### <対応策>

沖縄こども未来ゾーン（沖縄こどもの国）やコザ運動公園、市民会館など様々な都市機能を有した拠点施設の充実と、これらの施設と中心部とを結ぶ「まちなか回遊性」に係る仕組みづくり、平成19年にオープンした「コザ・ミュージックタウン」との連携、既存の公共・民間駐車場を有効活用するための情報発信システムの構築など、にぎわいの創出に向けた取り組みが必要である。

さらに、主要幹線軸の道路整備事業や景観形成、市街地再開発、土地区画整理事業、公営住宅の整備等の各種面整備の強化等、人口減少に歯止めをかけるための取り組みが重要である。

## 【商業等の活性化のための事業】

### 1) 組織

- ①沖縄市TMOの設立 (○)
- ②街づくり人材育成支援事業 (○)
- ③沖縄市商業ビジョンの策定 (△)

### 2) 商業環境

- ①市内・店舗・駐車場の案内板の設置 (中小小売商業高度化事業) (△)
- ②公衆トイレの整備 (中小小売商業高度化事業) (○)
- ③ファサド整備事業 (中小小売商業高度化事業) (△)
- ④パティオ整備事業 (中小小売商業高度化事業) (△)
- ⑤アーケード整備事業カー舗装 (中小小売商業高度化事業) (○)
- ⑥衽街整備事業 (中小小売商業高度化事業) (×)

### 3) 集客力

- ①ストリート・スポーツイベント事業 (△)
- ②コザ音楽祭 (○)
- ③島唄まつり (○)
- ④ストリート・ライブ (○)
- ⑤フリーマーケット (○)
- ⑥ゲート#2フェスタ (○)
- ⑦コザひかりのまち創造事業 (○)
- ⑧花車ナイトバザール (×)
- ⑨BGM及び商店街情報の提供 (○)
- ⑩シャトルバスの運行 (○)
- ⑪バス路線の開設 (○)
- ⑫コミュニティバス事業 (○)
- ⑬介護サービス事業 (○)
- ⑭空き店舗対策及び活用事業 (○)
- ⑮観光による活性化 (○)
- ⑯音楽エンターテイメント産業化事業 (○)
- ⑰コザ文化研究事業 (○)
- ⑱大型クルーズ船拠点整備 (×)

### 4) 販売機能

- ①テナントミックス事業 (△)
- ②シルバー友の会「銀天街倶楽部」の組織化 (×)

### 5) 情報

- ①情報発信強化事業 (○)
- ②テレワークセンター施設整備事業 (○)
- ③マルチメディア支援センター (○)
- ④電子商取引事業 (○)

### <事業成果>

沖縄市TMOの設立により、商店街や観光協会など民間団体と連携し、空き店舗対策事業や観光情報発信、音楽を活用したまちづくりに関わる事業を展開してきた。特に、空き店舗対策事業では、空き店舗を活用した若手アーティストへの発表の場を提供しているが、現在全国で活躍しているアーティスト「オレンジレンジ」(本市出身)もそうした場で発表した経緯があるなど、著名なアーティストを輩出する原点ともなり、音楽のまち沖縄市として一定の成果をあげた。

また、各商店街振興組合や通り会が主体となり、ストリートライブやゲート#2フェスタなどのイベントを実施し、高い集客効果を得ることができた。その中には、根強い人気を得、現在でも継続して行われているイベントがあるなど、こうした地域団体が精力的にまちづくりに参画することで、活性化に向けての機運が高まりつつある。

### <課題>

上記のようにイベント等については、商店街振興組合、通り会など、地域が一体となって精力的に事業を展開しているが、主体に加わるべき個店の参加意識が希薄であり、小売業における売上増といった波及効果に結び付いていないことが課題となっている。また、数多くのイベントが実施されているが、それぞれがイベント個々の取り組みとなっており、相互が関連づけられた相乗的な効果が十分に発現していない点にも留意すべきである。

空き店舗対策事業については、県(産業振興公社)、市、商工会議所、それぞれで支援を行ってきているが、新たに開業した店舗の定着率は3割程度と低調である。今後は商業機能だけでなく、都市利便施設としても空き店舗を積極的に活用するなど、より幅広い取り組みを実施していくことが必要である。

### <反省点>

旧計画における商業の活性化に関わる事業では、イベント等を実施する商店街振興組合・通り会等と各個店主との連携不足が顕著であったこと、行政主導で進められた結果、各施策が個別的・点的な対応に留まったことなどが反省点である。また、商店街や周辺施設、あるいは他のイベントとの連携や効果的な情報発信が十分に図られておらず、各イベントによる波及効果が高まっていない。

さらに、空き店舗対策事業においては経営者と所有者の連携不足が見られるなど、総じて「組織的、横断的な取り組み」といった連携の不足が反省点である。

### <対応策>

平成19年にオープンした「コザ・ミュージックタウン」をひとつの核として、地域住民や来街者が交流する場としての機能を重視し、まちの活性化に向けて取り組むことが必要である。また、各イベント等については、関係する各主体間で情報と戦略の共有を図ることが重要である。

さらに、空き店舗対策については、老朽化した店舗の改装による商店街のイメージアップや新たな商業機能といった視点のみならず、例えば、社会福祉的な観点などから中心市街地にとって必要な機能を付加した施設の立地を推進するとともに、経営と所有の分離に力点を置いた施策など、これまでにはない取り組みを図る必要がある。

## [6] 中心市街地活性化に向けた課題の整理

中心市街地の現状分析や住民ニーズなどの把握・分析、旧中心市街地活性化基本計画の検証から中心市街地活性化に向けた対応課題を整理すると次のとおりである。

### 【課題1】 豊かな地域資源を活かした中心市街地の再生

モータリゼーションの進展といった社会情勢の変化、郊外部における市街地化の拡大、さらには郊外部及び近隣市町村における本市境界付近への相次ぐ大型商業施設の立地など、様々な要素を背景として、商業指標の悪化、空き店舗の増加、歩行者通行量の減少、交流機能の低下など、中心市街地はかつてのにぎわいを喪失している。

旧計画においても、中心市街地における商業の活性化に向けて、各商店街や通り会が主体となったイベント等を開催するなど、様々な取り組みを行ってきた。確かに、こうした取り組みにより高い集客効果は得られたものの、各施策が個別的・点的な対応に留まった結果、事業を実施する各主体間の連携が不十分であり、商業指標への波及など中心市街地全体への面的な展開には至らなかった。

本市は戦後の米軍駐留に伴ういわゆる「基地経済」に支えられる一方、海外文化の影響を極めて色濃く反映してきたことから、沖縄県下でも独特とされる「コザ文化」を育み、音楽・芸能をはじめ、その生活様式に至るまで、今日、来街者を惹きつけてやまないコザ地域固有の文化資源を豊富に有している。さらに、米軍駐留という歴史的背景の下で形成された国道沿線に連なる帯状型の中心市街地には、コザ十字路地域・胡屋十字路地域・山里地域それぞれが地域性を活かした異なる商業機能を発達させてきた。

こうした恵まれた「地域資源」を積極的に活用し、「コザ」らしい魅力を高めることこそが、中心市街地の活性化における極めて有力な戦略と考えられる。また、これまでの取り組みにおける反省点を踏まえ、行政だけでなく、各商店街や通り会、まちづくりに関わる民間団体などが密接に連携することで一体的な取り組みを展開するとともに、さらなる集客拡大に向けた情報発信を強化するなど、他の地域とは一線を画した個性的なまちづくりによる差別化を図ることが必要である。

### 【課題2】 住みたい・住み続けたい中心市街地への再生

本市は、民間の統計である「住みたい街ランキング」（生活ガイド.com 2007年度版）において、全国でも上位にランクされる“人気の街”であるにも関わらず、その中心市街地は、郊外への人口流出等によって空洞化が進んでいる。市民アンケートでは、中心市街地内の居住者の約3割が中心市街地に「住み続けたくない」とし、郊外部居住者に至っては約7割が中心市街地に「住みたくない」と回答している。

この事実は、郊外部の市街地化等により、中心市街地の都市機能が相対的に低下したと見えるだけでなく、既存都市福利施設の老朽化や生活をサポートする機能が社会状況の変化に必ずしも追いついていないことで、街としての魅力が相対的に低下していることの証左と考えられる。また、旧計画では、市街地再開発事業や区画整理事業など、こうした機能低下を補完する施策を位置づけたものの、地権者との合意形成の長期化等より事業が未実施あるいは遅延となった結果、十分な施策効果が得られないまま現在に至っている。

中心市街地に対する市民ニーズでは、公園や街路樹等の整備による緑の確保や生活を多面的に支える都市機能（行政、文化、医療、商業、娯楽等の各種施設）の充実を望む声が多い。さら

に、市政懇談会における市民ニーズにおいても、同様に都市福利機能の充実・強化が強く望まれているところである。

中心市街地は沖縄市のいわば「顔」であり、多くの公共公益や商業等に係る機能が集積した中枢ともいえるべき街である。その街としての活性化の源泉は、中心市街地内外からの集客はもとより、当該地域のコミュニティによって支えられるものであって、そのためには均整のとれた人口維持も重要な課題である。

本市の中心市街地は、都市機能がコンパクトに集積するなど、街としての基本的な機能を維持している。さらに、年少人口比が全国一高い市であることを背景としたこどものための施設やかねてより盛んであったスポーツ及びその場となる施設など、多面的な都市機能に資する資源を豊富に抱えている。したがって、こうした優位性を活かし、居住ストックの確保はもとより、市民ニーズに基づくより幅広い視点でのまちづくりを推進することが重要である。すなわち、多面的な都市機能を充実し、街全体としての魅力を向上することで住みたい・住み続けたいと思える中心市街地を実現することが、課題となるのである。

## [7] 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

本市の中心市街地は、かつての求心力を低下させつつあるが、今なお多くの都市施設が集積するとともに、広域的交通拠点として重要な役割を果たしている。また、街のシンボルともいえるべき「コザ・ミュージックタウン」をはじめ、新たな都市基盤整備が完了または進捗しており、中心市街地の再生に向けた更なるシナリオ展開が必要となっている。

一方で、隣接市町村において本市を取り巻くように立地している大規模ショッピングセンター等に加え、本市に近接する自治体において新たに予定されている沖縄県最大級のショッピングモールの立地は、本市の中心市街地にとって極めて大きな脅威であり、その対応策が喫緊の課題となっている。

中心市街地においては、独特の文化、こどもが多いことやスポーツが盛んな街としての特性など、様々な地域資源に恵まれており、こうした沖縄市固有の資源を積極的に活用し、活性化に資する取り組みを進めていくことが必要である。

このような考え方の下、前項で整理した課題等を踏まえつつ、中心市街地の活性化に関する基本的な方針を以下に整理する。

### (1) 中心市街地活性化のテーマ

本市の中心市街地は、嘉手納基地の門前町として、また、商業機能をはじめ医療・教育・文化等の都市機能が集積した沖縄本島中部圏の中核都市として、飛躍的な発展を遂げてきた。戦後の長い年月の中で、アメリカ文化等の影響を強く受けた国際色豊かな街並みや、伝統文化と異文化が融合した「チャンプルー文化」を代表する沖縄市独特の「コザ文化」など、他に類を見ない本市独自の資源がまちなかの随所に培われている。

現在、本市は「コザ文化」の象徴である「音楽」を資源とした「音楽によるまちづくり」を進めるとともに、年少人口の割合が全国一高い市という特性を踏まえた「こどものまち」、多様なスポーツの場として認められた施設を擁する「スポーツコンベンションシティ」など、豊富な「地域資源」を積極的に活用したまちづくりを進めている。

具体的には、「コザ文化」を活性化の大きな柱とする胡屋十字路地域を中心として、それぞれ

異なる商業機能を持つコザ十字路口地域、山里地域に至る商業地域においてにぎわいの創出を図り、人々の盛んな交流が生まれる中心市街地を目指していく。また、従来の商業活性化や市街地整備の視点に留まらず、市民生活をサポートするという街が持つ幅広い機能にも着目することとし、既存の都市福祉施設の充実や新たな施設整備など、多面的な都市機能の向上を目指していく。

このように、中心市街地に内在する「地域資源」をまちづくりに最大限に活かし、人々の生活や市街地内外からの交流といった視点から、都市機能における「付加価値」を向上させることを主眼に置く。そして、郊外部とはまったく異なった街としての「魅力」を創出することにより、中心市街地の活性化を図るという考え方にに基づき、以下のように活性化のテーマを設定する。

#### 【活性化のテーマ】

『コザらしい生活ができるまち』  
～ 商店街から交流街へ ～

### (2) 中心市街地活性化の基本方針

中心市街地の現状分析、市民アンケート調査による市民意向及び旧計画における反省点等を踏まえ、P43～44に掲げる課題解決に向け、活性化のテーマに基づく基本方針を以下のとおり設定する。

#### 基本方針1：コザ文化の継承と発展によるにぎわいづくり

中心市街地には、アメリカ文化の影響を色濃く受けたコザゲート通りなどの国際色豊かな独特な街並みとともに、ロック・ジャズ・島唄等のライブハウスや民謡クラブなどの「音楽資源の集積」、また、伝統芸能の「エイサー」など、異文化と伝統文化が融合して生まれた「コザ文化」という地域資源が豊富に存在している。したがって、こうした地域資源を積極的に活用した取り組みを進めるとともに、活性化を支える人づくりを通し、コザ文化を象徴する「音楽によるまちづくり※」を推進する。

こうした資源はもとより、それを活かす既存施設の存在などについても最大限に活用し、積極的なイベント展開や情報発信を進めるとともに、中心市街地居住者や県内を中心とした来街者によるにぎわいの創出を目指す。

さらに、取り組みを進めるにあたっては、地域におけるコミュニティや、取り組みを支える各主体間の連携をより一層重視していくとともに、回遊性の創出などによる相乗的・波及的な効果の発現を目指す。

#### ※音楽によるまちづくり

沖縄市には、古典、民謡、ロック、ジャズ等様々なジャンルで活躍している豊富な人材やそれらを育ててきた風土を素地として民謡クラブ、ライブハウス等が数多くある。

沖縄市では、こうした豊かな「音楽芸能文化」、「音楽資源」をまちづくりに活かすため「ミュージックタウン構想」を掲げ、音楽によるまちづくりとしての様々な取り組みを行っている。

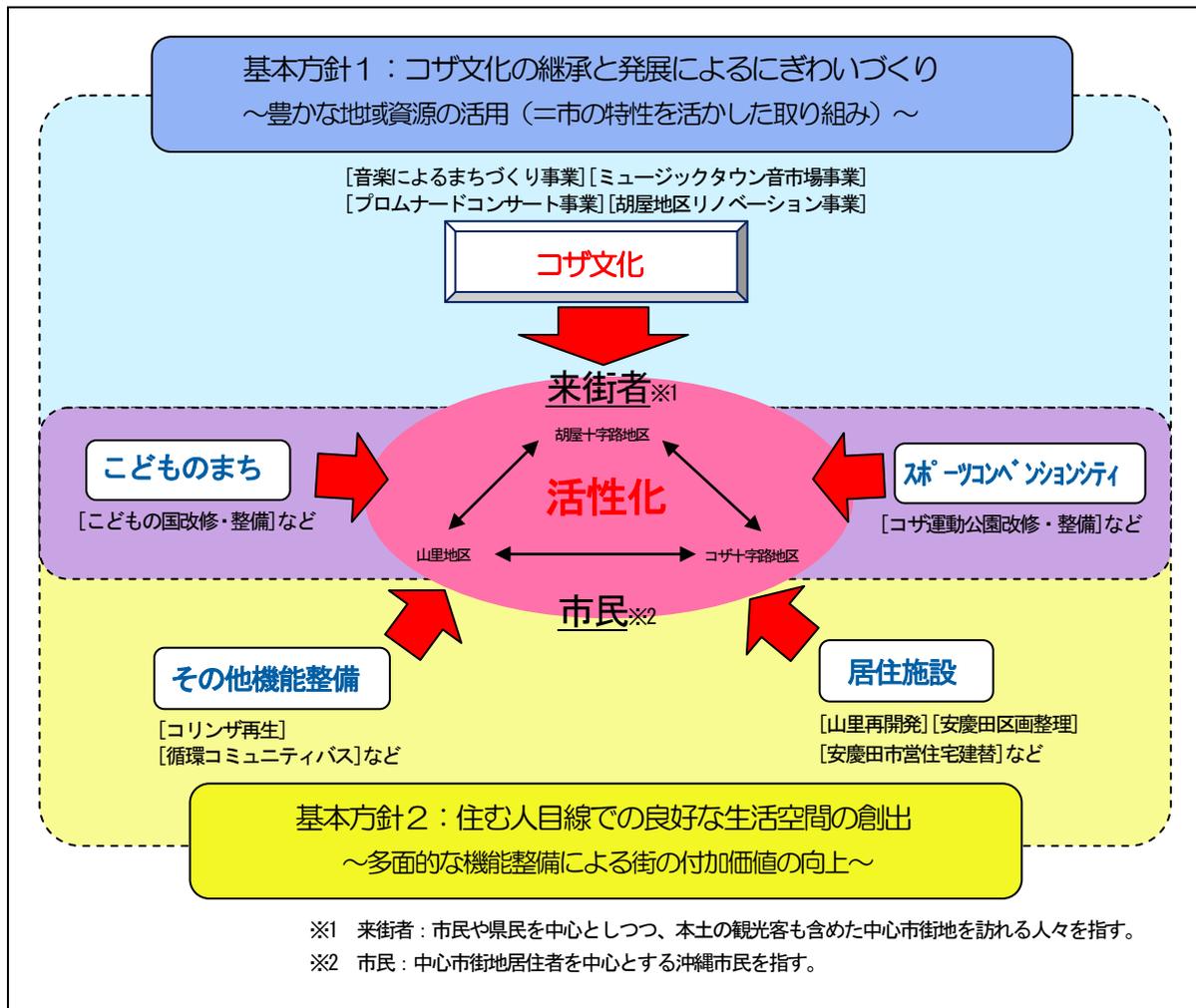
## 基本方針2：住む人目線での良好な生活空間の創出

中心市街地には、公共公益や商業のほか、医療、福祉、教育、文化といった都市機能が多数集積し、市民にとって利便性の高い市街地が形成されている。また「沖縄市人にやさしいまちづくり環境整備要綱」に基づき、市民が安全かつ快適に公共的建築物や公共施設を利用できるような福祉環境の整備を推進している。

しかし、中心市街地における人口は毎年減少を続け、中心市街地郊外部の居住者の約7割が中心市街地を「住みたくない街」と評しているのが現実である。

こうした現状を踏まえ、既に様々な都市機能が集積している優位性に加え、今日の多様な市民ニーズを踏まえた都市福利施設等の更なる集積や改修など、多面的に都市機能を強化することにより、中心市街地トータルとしての付加価値、ひいては街としての魅力を向上させることで、住む人にとって良好な生活空間を創出するまちづくりを推進する。

### 《中心市街地活性化の概念図》



## 2. 中心市街地の位置及び区域

### [1]位置

#### 位置設定の考え方

本市における本格的な都市形成は、アメリカが嘉手納の本格的な建設に着手した1950年（昭和20年）頃といわれ、先ず国道330号に沿った形で進んだ。米軍基地建設に伴う労働者の集中に伴って胡屋十字路及びコザ十字路を中心に商店街が形成されていった。

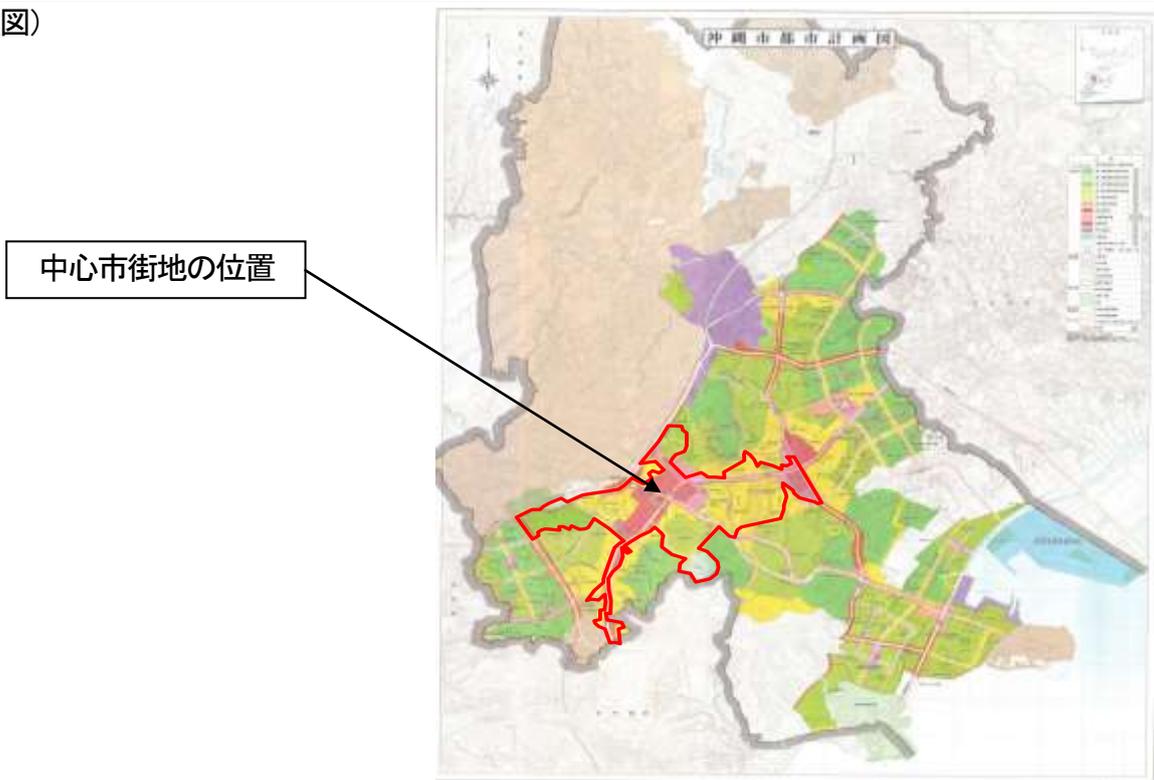
1956年（昭和31年）7月にはコザ市制（本市の前身）を施行し、都市計画が進められたが、その頃の商業地域は、コザ十字路地域（銀天街商店街周辺）、胡屋・センター商業区（一番街商店街など多くの商店街及び通り会が存在する胡屋十字路周辺）、八重島商業区（沖縄市民会館付近）、諸見里商業区（諸見大通り会など複数の通り会が存在していた山里三叉路周辺）であった。また、その南側に連担する地区には、国内初のショッピングモールといわれる「プラザハウスショッピングセンター」が1954年（昭和29年）にオープンした。当該施設は、国際色豊かな沖縄市のゲートタウンとして県内有数のランドマークであり、今日でも営業を続けている。これらの商業区は、商業・業務などの都市機能を有する「通り会」が近接し、本市の中心市街地に連綿として続いている。

当時の中心商業地区における業種は、バー、質屋、ホテル、テーラーなどに特化し、まさに「基地の街」の様相がみられた。また、都市機能としての警察署、裁判所、税務署などが設置されるとともに、大学が創設されるなど、中部広域圏における中心機能を果たすようになっていった。

このように、沖縄市は嘉手納基地の門前町として戦後米軍による計画的な中心市街地の形成が図られるとともに、基地の多大な文化的影響、歴史的事象を経験した地域として、戦後沖縄の実態が凝縮した「コザ」という独特の文化が醸成された都市といえる。

本市の中心市街地活性化においては、コザ文化を積極的に活用したまちづくりを展開することから、コザ文化が凝縮された地域を中心市街地に設定する。

#### (位置図)



## [2] 区域

### 区域設定の考え方

中心市街地の区域については、大きくコザ十字路地域、胡屋十字路地域、山里地域の3つの地域に分かれ、それぞれが以下の都市機能を有し、それらが互いに補完しあうコンパクトなまちが連続として続いている。

- ◆コザ十字路地域 …商業機能、居住機能、教育機能
- ◆胡屋十字路地域 …商業機能、業務機能、医療・福祉機能、公的機能
- ◆山里地域 …商業機能、居住機能

本市の中心市街地は、1950年（昭和25年）から始まった本格的な基地建設を契機に、嘉手納基地の門前町として栄え、米軍等の影響から国際色豊かなまちである。中心市街地の商業機能は、東のコザ十字路地域、中央の胡屋十字路地域、南の山里地域の3拠点が带状型に集積している。これは、琉球政府時代に米政府から米兵を顧客とする商売の場所が、当該3地区（軍道5号線、24号線、13号線沿い）に指定されたことによるものである。そして、現在もなお当該3地域を拠点に商業機能が集積しており、それぞれの地域が異なる商業機能を有している。

コザ十字路地域には、庶民の台所及び高齢者が集う憩いの場である「銀天街（商店街）」があり、周辺住民や中心市街地内の高齢者を客層としている。胡屋十字路地域には、音楽があふれ国際色豊かで若者が集うまちとして「一番街（商店街）」や「中央パークアベニュー」、「コザ・ミュージックタウン」等があり、若者やコザを愛する来街者を主な客層としている。山里地域は、諸外国の特選品が揃うリッチな買い物場として日本初の世界特選品専門デパートである「プラザハウス」が存在し、観光客や中心市街地内外の富裕層を客層としている。また、当該3地域の周辺には市役所、ハローワークなどの公共施設や病院等多くの都市機能が集積している

当該3地域は、それぞれの特性を活かして商業の活性化を図るとともに、当該3地域の連携による一体的な商業の活性化に資する取り組みを行うことにより、中心市街地のにぎわいの創出を目指す。

旧中心市街地活性化法に基づく旧中心市街地活性化基本計画では、商業の活性化及び市街地の整備改善に向けて、当該3地域を中心市街地の区域として活性化の取り組みを行ってきたところである。

平成18年に改正された中心市街地の活性化に関する法律に基づいて今回策定する本基本計画については、商業の活性化及び市街地の整備改善に加え、都市福利施設の整備、公営住宅・共同住宅の整備といった基本方針のもと、本市においては商業機能のみでなく、中心市街地からの人口流出を抑制し、交流街として再生するため、良好な生活環境の中でひとびとが生活し、学び、働く、暮らしの場やさまざまな交流活動が行える場としての区域設定とする。

そのためには、上記区域に加えて都市福利機能を有した地域として、下記の地域を含めるものとする。

- ◆沖縄こどもの国地域…教育機能、娯楽機能、文化機能
- ◆コザ運動公園地域…健康増進機能、娯楽機能
- ◆沖縄市民会館地域…文化機能、学習機能

沖縄こどもの国地域においては、県内唯一の動物園であるとともに、琉球弧の動物の展示、ワンダーミュージアム、チルドレンズセンター、野外ステージ等を有する「沖縄こども未来ゾーン（沖縄こどもの国）」が存在する。当該施設は、こどもたちの教育や人材育成の場、高齢者やこどもたちの憩いの場としての機能を有するなど、年少人口の割合が全国一高いという本市においては、重要な都市福利機能の一つであり、沖縄市民を中心に周辺市町村の方々が主に利用している。

コザ運動公園地域には、陸上競技場、体育館、野球場、武道館、トレーニングルーム等様々な体育施設を有した「コザ運動公園」が存在する。「コザ運動公園」は、都市公園として健康増進施設や娯楽施設が設置されており、市民の健康増進やレクリエーション等に寄与する施設として重要な都市福利機能を有している。

沖縄市民会館地域においては、文化創造の拠点施設として各種講演会や文化活動が行われている市民会館が存在する。また、市民会館に併設されている中央公民館では様々な生涯学習のサークル活動が行われているところである。

このように、本計画のテーマである「コザらしい生活ができるまち」～商店街から交流街へ～を実現させるには、生活の場や交流の場としてこれら3つのそれぞれ性質の異なる都市機能を有した施設をよすがとして、街全体の付加価値を高めることにより、街の魅力を向上させることが重要である。

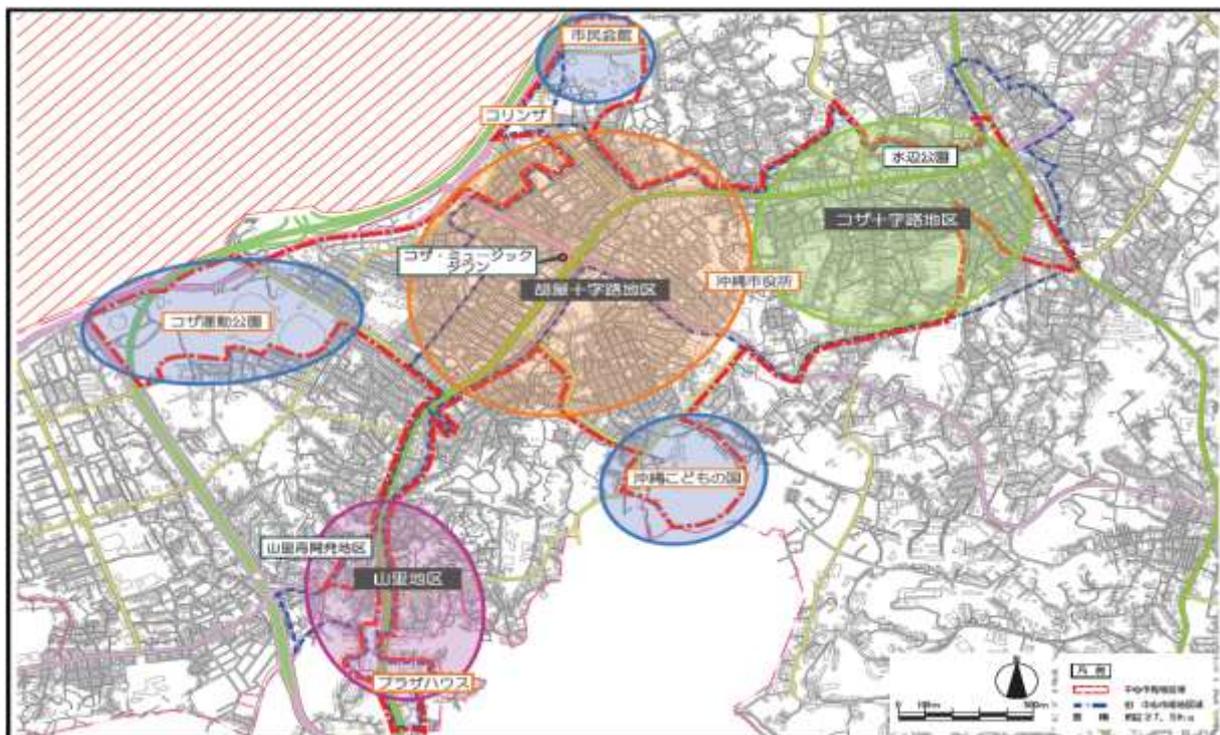
なお、「沖縄子ども未来ゾーン（沖縄こどもの国）」「コザ運動公園」「沖縄市民会館」については、下記のような市の主要なイベント等が開催されており、年間を通して多数の集客があることから、中心地と一体的な取り組みを進めることにより、中心地へと人を回遊させ交流の場としてにぎわいを創出することを目指す。

- 沖縄こどもの国：こどもの国フェスティバル、毛遊び、クリスマスファンタジー、サタ ZOO ナイト
- コザ運動公園：全島エイサーまつり、ピースフルラブ・ロックフェスティバル
- 沖縄市民会館：キジムナーフェスタ、沖縄国際アジア音楽祭、生涯学習フェスティバル

また、山里地域については、「プラザハウス」の商業機能に加え、山里第一地区市街地再開発事業により、商業と居住機能等を有した複合施設を整備することで、その生活環境を向上させ、以前は活発だった通り会等を再生するなど、まちなか居住を推進する地域として位置付ける。

以上のことを踏まえ、本計画における中心市街地の区域においては、旧計画の区域であるコザ十字路地域、胡屋十字路地域及び山里地域に加え、沖縄こどもの国地域、コザ運動公園地域、沖縄市民会館地域を含めた約 237.5ha とする。

(区域図)



[3] 中心市街地要件に適合していることの説明

要件	説明
<p><b>第1号要件</b>            当該市街地に、相当数の小売商業者が集積し、及び都市機能が相当程度集積しており、その存在している市町村の中心としての役割を果たしている市街地であること。</p>	<p><b>(1) 商業の集積</b>            平成16年商業統計調査による本市の事業所総数は、1,563事業所、従業者数は7,882人で、年間販売額は約991億円、売場面積は137,398㎡となっている。一方、中心市街地における事業所総数は717事業所、従業者数は2,704人、年間販売額は約254億円、売場面積は50,852㎡となっている。            市全体に対する中心市街地のシェアは以下のとおりであり、当該市街地は沖縄市において相当数の小売商業者が集積した地域であるといえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆事業所数 : 市全体の45.9%</li> <li>◆従業者数 : 市全体の34.3%</li> <li>◆年間販売額 : 市全体の25.7%</li> <li>◆売場面積 : 市全体の37.0%</li> </ul> <p><b>(2) 都市機能の集積</b>            当該市街地には、音楽によるまちづくりの中核施設としてオープンしたコザ・ミュージックタウンをはじめ、市役所等の公共施設や病院・診療所等の医療施設、教育施設、社会福祉施設等が数多く集積しており、本市の中心としての役割を果たしている。(P20～21に記載)</p> <p><b>(3) バス路線の集積</b>            当該市街地には、数多くのバス路線が通っており、郊外部から人々が集まりやすい環境が形成されている。特にコザ十字路地域はバス路線の結節点となっている。(P22に記載)</p> <p style="text-align: center;">◆26系統のバスが中心市街地を運行</p> <p><b>(4) イベント等の開催</b>            本市では、沖縄文化の発信及び国際交流等の各種イベントが催されているが、特に「沖縄全島エイサーまつり」は、沖縄を代表するイベントに成長し、毎年20～30万人の集客を数え、県民だけでなく県外からも多くのエイサーファンまたは一般観光客が訪れるイベントである。なお、平成20年(2008)年度の集客数は延べ31万人で、県内の主要イベントのなかでも集客性の高いイベントとなっている。その他、沖縄国際カーニバルは多彩なプログラムによる県内在住外国人と市民の異文化間交流の場となっている。このように集客性の高いイベントが中心市街地で複数行われており、中心市街地に足を運ばせる手段となっている。</p>

## 第2号要件

当該市街地の土地利用及び商業活動の状況等からみて、機能的な都市活動の確保又は経済活力の維持に支障を生じ、又は生ずるおそれがあると認められる市街地であること。

◆中心市街地内のコザ運動公園や沖縄こども未来ゾーン（沖縄こどもの国）、コザゲート通り、プラザハウス等において、広域レベルの集客イベントが定期的に行われている。

(P10～12に記載)

### (1) 中心市街地における人口減少

平成11年～平成21年にかけての中心市街地の人口・世帯数および市内シェアの推移を見ると、市全体の人口・世帯数はともに増加傾向にあるのに対し、中心市街地では人口は減少、世帯数は微増となっており、市内シェアはともに減少している。この傾向が続くことにより、機能的な都市活動の確保又は経済活力の維持に支障を生じる恐れがある。

資料：住民基本台帳（各年1月1日現在）

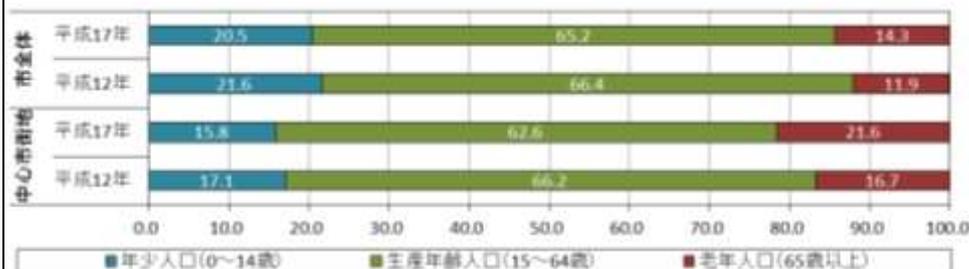
	人口（人）			世帯数（世帯）		
	平成11年	平成16年	平成21年	平成11年	平成16年	平成21年
市全体	120,802	128,656	133,762	41,082	46,798	51,684
中心市街地	22,402	22,227	20,904	8,428	8,992	9,091
市内シェア	18.5%	17.3%	15.6%	20.5%	19.2%	17.6%

- ◆市全体の人口 : 10.7%の増      世帯 : 25.8%の増
- ◆中心市街地の人口 : 6.7%の減      世帯 : 7.9%の増
- ◆市内シェア : 2.9%の減      世帯 : 2.9%の減

### (2) 中心市街地における少子高齢化の進行

中心市街地の年齢3階層別人口をみると、年少人口は3,204人（構成比：15.8%）、生産年齢人口12,694人（同：62.6%）、老年人口4,370人（同21.6%）となっており、市全体と比べ年少人口の減少老年人口の増加の割合が多く、この傾向が続くことにより、経済活力の維持及び地域社会の活力の確保に支障を生じる恐れがある。

資料：国勢調査



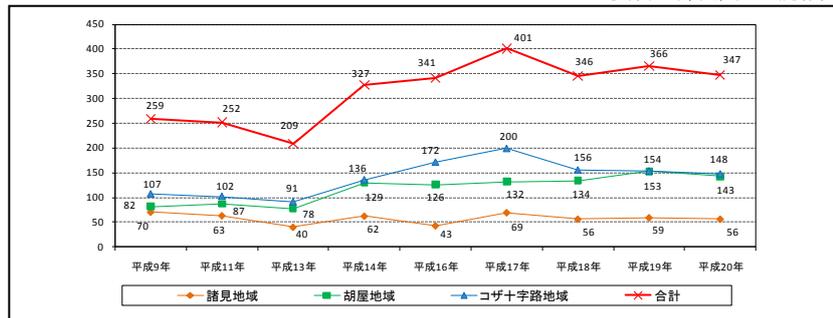
- ◆市全体の老年人口 : 2.4%の増      年少人口 : 1.1%の減
  - ◆中心市街地の老年人口 : 4.9%の増      年少人口 : 1.3%の減
- ⇒中心市街地において少子高齢化が進行

### (3) 空き店舗の増加

中心市街地周辺の主な商店街・通り会における空き店舗・閉鎖店舗の推移の状況を見ると、平成9年から19年にかけて107件増加している。

平成11年の具志川メインシティ、平成12年のイオン具志川SCオープン後1~2年の間に中心市街地内の店舗の閉鎖が相次いでおり、平成13年から平成17年までの5年間に192店舗が空き店舗・閉鎖店舗となっていることから、中心市街地の商店街への明らかな影響がみられる。この傾向が続くことにより、機能的な都市活動の確保又は経済活力の維持に支障を生じる恐れがある。

資料：沖縄商工会議所



#### ◆空き店舗数が増加傾向にある

### (4) 地元購買率、吸引率の減少

平成19年度沖縄県買物動向調査による本市の購買人口は52,068人となっている。自治体の吸引力を示す吸引力指数は0.41で、近隣の主な市町の中でも低い状況にある。近隣市町では、北谷町が3.99、うるま市が1.90と高くなっており、これらの市町に吸収されているため、吸引力指数が低くなっていることが伺える。

資料：平成19年度沖縄県買物動向調査

	平成16年度				平成19年度			
	購買人口(人)	行政人口(人)	吸引力指数	地元購買率(%)	購買人口(人)	行政人口(人)	吸引力指数	地元購買率(%)
沖縄市	64,827	125,529	0.52	39.8	52,068	128,047	0.41	32.7
うるま市	206,297	112,752	1.83	87.9	216,132	114,038	1.90	92.1
北谷町	110,278	26,660	4.14	76.5	108,270	27,134	3.99	71.2

※うるま市の平成16年度調査は合併前の自治体のデータを再集計したものである。

#### ◆3年間で地元購買率が7.1%、吸引力指数が0.11低下

### (5) 商店街における歩行者通行量の減少

商店街における歩行者通行量は平日、休日ともに減少の傾向にあり、この傾向が続くことにより、機能的な都市活動の確保又は経済活力の維持に支障を生じる恐れがある。

資料：沖縄商工会議所

			平成6年	平成21年
サンシティ	沖縄市観光協会前	平日	3,582	758
		休日	2,132	352
一番街	普久原レコード店前	平日	3,326	664
		休日	3,448	332
中央パークア ベニュー	一番街入口 トモヤス時計店前	平日	4,596	1,080
		休日	7,694	784
中の町地域	中頭スポーツ店前	平日	1,540	3,156
		休日	1,218	2,712
コザゲート 通り	明光めがね店前	平日	1,152	580
		休日	1,464	710
銀天街	タカエス薬局前	平日	1,744	202
		休日	854	26

### ◆大部分の調査地点で歩行者通行量が大幅に減少

#### 第3号要件

当該市街地における都市機能の増進及び経済活力の向上と総合的かつ一体的に推進することが、当該市街地の存在する市町村及びその周辺の地域の発展にとって有効かつ適切であると認められること

#### (1) 第3次沖縄市総合計画との整合

本計画では、「中心市街地の再生と中部広域圏の中核都市づくり」を今後のまちづくりを進める上での重要課題の1つとして位置づけ、中心市街地活性化基本計画に基づき、特色ある景観づくりやにぎわいの創出、個性ある店舗の集積等を促進し、歩いて楽しい商業空間を形成することなどにより、コミュニティを支える地域商業の形成を目指すこととしている。

また、ミュージックタウン基本構想等に基づき、

- ①音楽・芸能の産業化、観光資源化に向けた各種施策の実施
- ②関連産業とのネットワーク化による魅力あるタウンリゾートの形成
- ③エンターテインメント産業の集積やプロデューサー等中核となる人材の育成

を図ることとしており、音楽のまちとして相応しい空間づくりを目指すことにより、中心市街地に魅力あるビジネスコアの形成を目指すこととしている。

併せて、本市の幹線道路の整備にあたっては、中心市街地の活性化や市民生活の一層の利便性・安全性等を確保するため、沖縄市交通計画及び沖縄市都市計画道路整備プログラムを踏まえた幹線道路整備を進めることとしている。

## (2) 沖縄市都市マスタープランとの整合

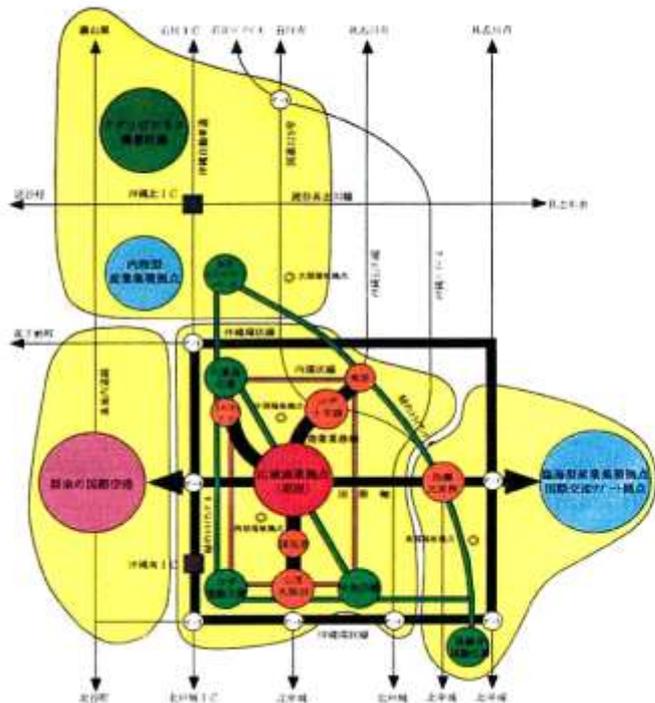
平成8年3月に策定された都市マスタープラン（現在見直し作業中）では、胡屋十字路一帯を中部地域の広域的な商業拠点、コザ十字路一帯を周辺地域の商業核、諸見里・山里・久保田の商業系用途地域を新たな地域商業の核またはゲート空間として位置づけ、商業環境の整備充実を図ることにより一体の中心商業業務地整備域として形成することとしている。

## (3) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（中部広域都市計画区域）との整合

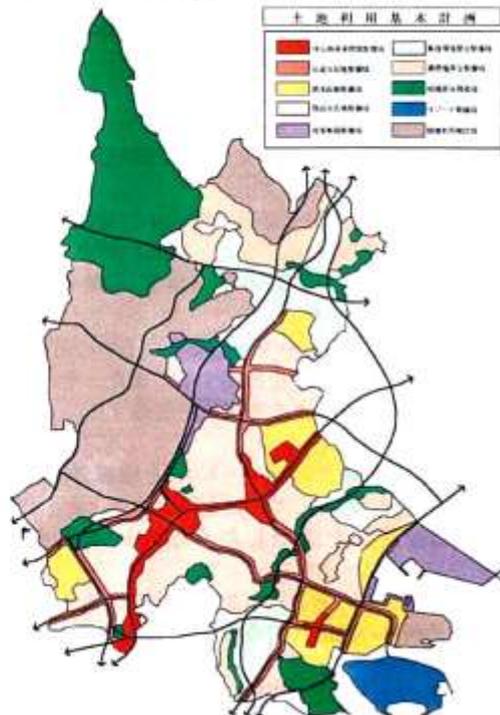
平成16年3月に策定された都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（中部広域都市計画区域）では、中心市街地について、市街地再開発事業等の導入により、土地利用密度を高めるまちなか居住を推進するとともに、職住近接をはじめ多様な都市機能が集積する空間を創出して、日常の生活活動が身近な所で可能な市街地形成を図るとともに、特産品を扱う朝市の開催など、地域の魅力を引き出し、様々な交流を深めていく地域交流拠点の形成を促進することとしている。本市では、胡屋十字路周辺が都市拠点として位置づけられている。

【沖縄市都市マスタープラン（平成8年3月 沖縄市）より】

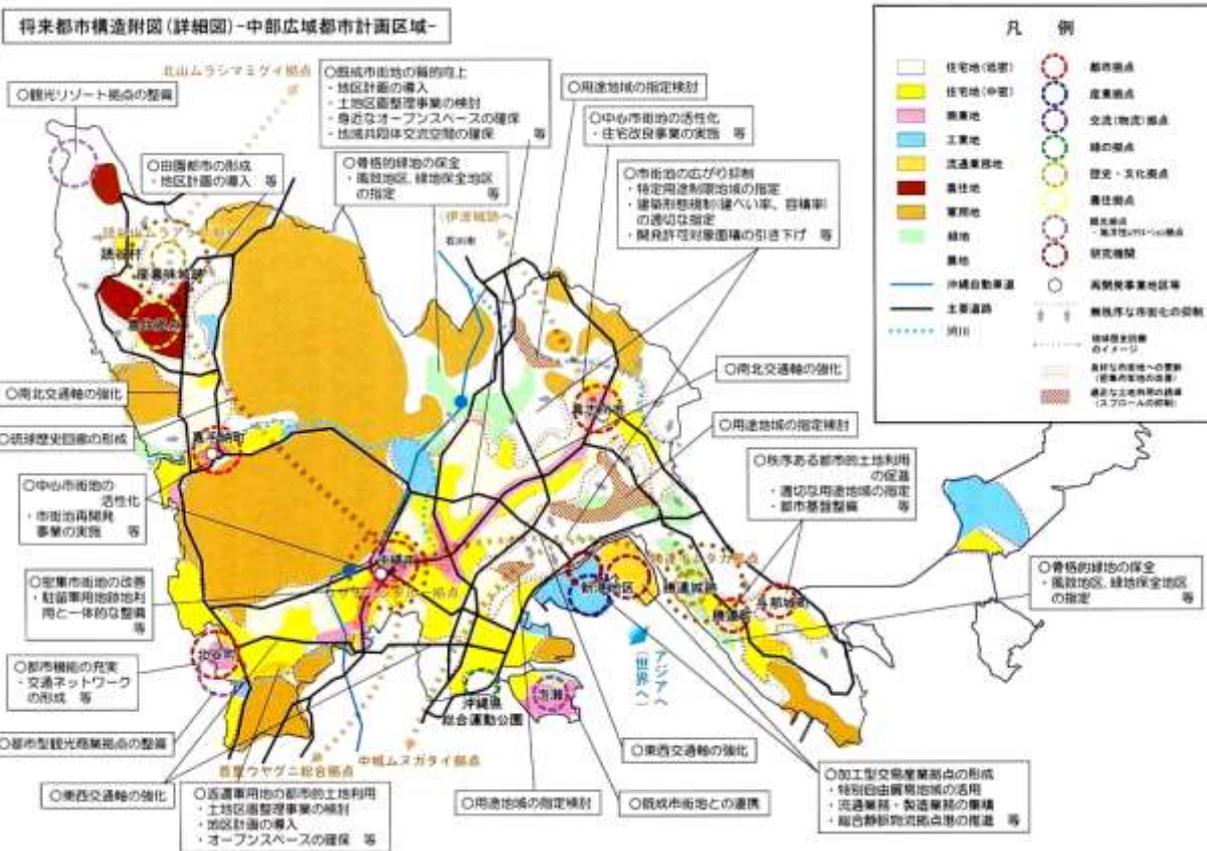
■ 沖縄市の将来都市構造図



■ 土地利用基本計画



【都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（平成16年3月 沖縄市）より】



#### (4) 周辺への波及効果

本市は、沖縄県第二の都市であり、県中部広域圏の中核都市として圏域の拠点としての役割を果たすことが期待されている。また、沖縄県「中部広域都市計画」方針では、平成 17 年を基準年とし、都市の将来像、都市づくりの理念及び将来の都市構造を平成 37 年と想定して現在改定作業中である。

そのなかでは、当該圏域を「異文化交流都市圏」と位置付け、国際色あふれる地域特性を活かすとともにそれぞれを核として交流・連携する魅力ある「チャンプルー」空間（多機能で個性的なまち）を創出して、各地域の拠点性を高め、機能分担や連携が図られたコンパクトな市街地形成を目指すこととしている。

また、嘉手納飛行場より南の駐留軍用地の大規模返還を機に本県中南部においては、那覇市と本市を中心とした 2 つの都市圏域が一体となった、長大な都市圏軸が形成されていくと予想されることから、将来の沖縄本島中南部都市圏の都市交通計画の策定が進められている。

以上のことから今後も、本市は、中部広域圏の中核都市としての拠点の役割はますます重要となり、更なる都市機能の集積及び高質化が求められている。

本市中心市街地は、道路、公園、公共公益施設など多様な都市施設が多く集積している。これらストックを活用することにより、行政コストや環境負荷の低減につながり、効率的に中心市街地の都市機能の増進が図られ、中部広域圏域の居住者の交流及び雇用の場として重要な機能を果たしていくと期待されている。

このように、本市中心市街地の活性化を図ることは、中部広域圏における地域間連携の促進や、将来的な本市—那覇市における都市圏軸形成の構築に大きく寄与し、本市及び中部広域圏さらに本県の社会・文化・経済活動に好影響を与える持続可能な地域再生につながると考えられる。

### 3. 中心市街地の活性化の目標

#### [1] 中心市街地の活性化の目標

本市では、中心市街地活性化の2つの基本方針「コザ文化の継承と発展によるにぎわいづくり」、  
「住む人目線での良好な生活空間の創出」に対応した目標を以下のとおり設定し、具体的な活性化  
策に取り組むこととする。

#### (1) 「コザ文化の継承と発展によるにぎわいづくり」に対応した目標

##### ◆コザ文化を基軸としたまちなか交流の促進によるにぎわいの創造

本市は、国際色豊かな街並みや音楽・芸能など魅力的な地域資源（コザ文化）を有している。  
胡屋十字路地域を中心に音楽によるまちづくりを一層推進し、コザ・ミュージックタウンの  
集客力向上に資する取り組みを展開することにより、コザ文化を活かしたまちなかにお  
ける交流人口の拡大によるにぎわいの創造を目指す。

また、商業機能を有する各商店街地区においては、これまでの商業機能にとられない市  
民ニーズに即した空き店舗の有効活用による魅力ある店舗の創出や効果的な情報発信によ  
るイベント開催など、各商店街や通り会、そしてまちづくりに関わる民間団体との連携を強  
化し、魅力ある商業空間の創出に取り組む。

さらに、各地域の商店街などの商業地域及び「沖縄こども未来ゾーン（沖縄こどもの国）」  
や「コザ運動公園」など周辺の都市福利機能を有した集客の拠点施設との一体性を確保する  
とともに、回遊性を高めるための仕組みを新たに導入することにより中心市街地全体の活性  
化を目指す。

#### (2) 「住む人目線での良好な生活空間の創出」に対応した目標

##### ◆中心市街地全体としての付加価値の向上による生活環境の改善

今後は人口減少に対応した市街地再開発や区画整理事業などの居住ストックの確保はも  
とより、多くの市民が利用する「沖縄こども未来ゾーン（沖縄こどもの国）」や「コザ運動  
公園」の機能強化を図るとともに、市民ニーズの高い図書館整備など都市福利施設の充実・  
強化を推進し、街の付加価値を向上させ、中心市街地全体としての魅力をさらに高めるこ  
とによる中心市街地における生活環境の改善に取り組む。

また、公営住宅・共同住宅の整備など、旧計画に位置付けられたものの、その遅延等によ  
り効果が発現していない事業を加速的に推進するなど、具体の居住に繋がる施策を実施す  
る。さらに、子育てや社会福祉活動をサポートする施設の整備を進める。

これら複合的な取り組みを並行して実施することにより、本市独特なコザ文化に満ち溢れ  
た良好な生活環境の中で、ひとびとが生活し、学び、働く、暮らしの場やさまざまな交流活  
動が行える場としての魅力を高め、まちの「顔」としての中心市街地における良好な生活空  
間の創出を目指す。

## [2]計画期間

計画期間は、既に進捗している事業及び本計画に位置付けた事業が完了し、効果が発現するまでの時期を考慮し、平成22年3月から平成28年3月末までとする。

## [3]数値目標

### (1) 評価指標設定の考え方

本計画では、中心市街地を活性化していくために設定した目標について、それぞれ定量的な評価指標及び数値目標を設定する。

#### 《基本方針》

##### 基本方針1

- コザ文化の継承と発展によるにぎわいづくり

##### 基本方針2

- 住む人目線での良好な生活空間の創出

#### 《活性化の目標》

##### 目標1

- コザ文化を基軸としたまちなか交流の促進によるにぎわいの創造

##### 目標2

- 中心市街地全体としての付加価値の向上による生活環境の改善

#### 《評価指標》

- 歩行者通行量（休日）

- 都市福利施設の年間利用者数

### 目標1「コザ文化を基軸としたまちなか交流の促進によるにぎわいの創造」に関する数値目標

評価指標： **歩行者通行量（休日）**

本市は、異文化と伝統文化、それらが融合して生まれた固有の「コザ文化」と、それを象徴する「多彩な音楽」という「地域資源」の積極的な活用を基軸にして、中心市街地の活性化の取り組みを進めていく。本市には既にライブハウスや民謡クラブなど、音楽活動の場が集積している上に、その中枢に拠点施設として「コザ・ミュージックタウン」が整備されている。活性化の戦略のひとつは、こうした地域資源を最大限に活かし、中心市街地内の居住者はもとより来街者の増加を促し、まちなかに人々が集まることで、まさに「交流街」としてのにぎわいの創造を目指すことにある。したがって、こうしたにぎわいを測定する評価指標として「歩行者通行量（休日）」を設定する。

## 目標2「中心市街地全体としての付加価値の向上による生活環境の改善」に関する数値目標

評価指標： **都市福利施設の年間利用者数**

中心市街地には、公共公益や商業のほか、医療、福祉、教育、文化といった都市機能が多数集積し、本来、市民にとって利便性の高い市街地が形成されているにも関わらず、街のイメージは極めて悪く、中心市街地における人口減少は底が見えない。中心市街地郊外部に対して相対的に地位が低下している現状を打破し、住む人目線での良好な生活空間を創出するために、既に集積している都市機能のレベルアップや市民が求めている機能を新たに付加するなど、多面的な都市機能を強化し、中心市街地全体としての付加価値を高めていく。したがって、都市福利施設の充実等によって住民サービスの向上を図り、その活用度による生活環境の改善を確認するために、「都市福利施設の年間利用者数」を評価指標として設定する。

### (2) 評価指標に基づく数値目標の設定

**指標1：歩行者通行量（休日）**

#### 【数値目標】

評価指標	現況値（H21年）	目標値（H27年）	備考
歩行者通行量	5,964人/日	6,302人/日	8調査点

#### ※調査時期についての考え方

歩行者通行量の調査時期については、大規模なイベントが行われていない休日において、午前10時から午後19時30分まで計測するものとする。

#### ア. トレンド・将来推計

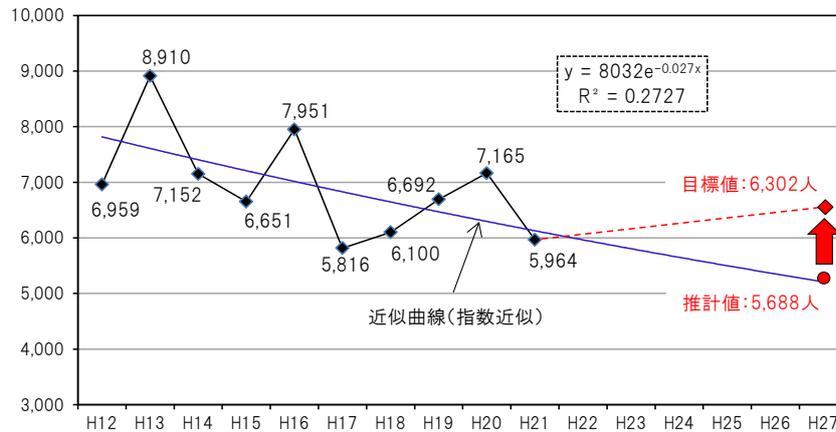
本市では、平成5年から毎年、歩行者通行量調査を6箇所で開催しているが、近隣市町村への大型商業施設の進出や、中心市街地内の大型ショッピングセンターの撤退、本市郊外への大規模集客施設の立地等により、平成12年の歩行者通行量は、平成6年に比べ3分の1以下と急激に減少した。その後、こうした減少傾向は緩やかになり、近年では「コザ・ミュージックタウン」の立地等により微増傾向もみられるものの、過去からの推移を全体的に見ると減少のトレンドを示している。

今後もこうした傾向が続くとの想定のもとで、計画期間最終年度の推計値を算出すると5,688人となる見込みである。

したがって、本計画では「コザ文化」を基軸とした地域資源活用等による取り組みを進めていくこととし、来街者等によるにぎわいを創造していく。このことにより、平成24年度に予定される新たな郊外大規模ショッピングモールの立地後であっても、平成15年以降（現在ある郊外大規模集客施設の立地がほぼ全て終わった年以降）で最も通行量の多い平成16年の水準を回復させることを長期的な目標に据える。さらに今後5年間においては過去5年間（平成17年～平成21年）の平均値程度まで通行量を増加させることとし、実施される各活性化事業の展開により以下の数値目標を設定するものとする。なお、調査地点については、新たに2箇所を追加する。

## 【歩行者通行量の推移及び目標値】

(人)



※平成21年より新たに追加した調査地点については、全調査地点のトレンドから過去の数値を推計。

### イ. 数値目標設定の考え方

#### (1) 「ミュージックタウン音市場事業」などコザ・ミュージックタウンの日常的なにぎわいの創出による効果

胡屋十字路に立地する「コザ・ミュージックタウン」は、沖縄市における音楽資源を活用した「音楽によるまちづくり」の拠点施設として、平成19年7月にオープンした。その施設には、最大（オールスタンディング時）1,100名を収容するトップクラスの音響機材が揃う「音市場ホール」、野外ライブやストリートライブ等で利用できる「音楽広場」を擁している。さらに、本格的なレコーディングや各種音楽の練習、舞踊・ダンスの稽古場として利用できる「音楽スタジオ」、音楽・映像・画像を編集するための音楽編集システム、映像編集ソフト、画像編集ソフトなどが完備された「プロジェクトルーム」などが設置され、個人から一般の団体、プロのミュージシャンに至るまで、幅広く利用できる施設である。

「音市場ホール」では、県内外のインディーズバンドによるコンサートや、本市出身の「オレンジレンジ」や「モンゴル800」などのライブ、県外の著名アーティストによる様々なライブが開催されており、「音楽のまち沖縄市」の新しい顔、中心市街地活性化の起爆剤に資する基幹施設としての役割が期待されている。

しかし、現在の稼働率（集客に直結する本番稼働率）は、休日と平日を合わせて40%程度と、その真価を十分に発揮できていない。したがって、音楽によるまちづくりの拠点施設として、「コザ文化」を前面に押し出した音楽イベント等のもとより、その情報発信機能の強化を図るなど、当該施設を最大限に活用することで、中心市街地に多くの人を集め、まちなかにおけるにぎわいの創出を目指す。



音市場ホール



音楽広場

【音市場ホール及び音楽広場の稼働及び集客状況】（平成 20 年度実績・全日）

	平成 20 年度						
	本番稼働 (回) ※1 ①	仕込み (回) ※2 ②	リハーサル (回) ※2 ③	全稼働 (回) ④=①~③	全稼働率※3 ④/365 日	本番稼働率 ※4 ①/321	集客数 (人)/年
音市場ホール	116	24	20	160	43.8%	36.1%	28,279
音楽広場	142			142	38.9%	38.9%	47,175

※1 本番稼働とは、コンサートやライブなどの興行・イベント等が実際に実施される日の稼働

※2 仕込みとは、リハーサルや舞台設置などの本番稼働に必要な準備で利用する稼働

※3 年間稼働可能日数 365 日

※4 本番稼働可能日数 321 日 (365-②-③) 365 日-24 日-20 日=321 日

「コザ・ミュージックタウン」では現在、年間を通して音市場ホールで 116 回、音楽広場で 142 回の興行・イベント等を実施している（平成 20 年度実績）。このうち、休日については「音市場ホール」が 60 回、「音楽広場」が 79 回となっており、全体を通して、休日における開催が多い。しかし、休日のみに限定した稼働率（本番稼働率）をみると、音市場ホールが 48.8%、音楽広場が 64.2%、双方で 56.5%となっており、こうした休日についても、稼働率を向上させる余地はまだ十分に残されている。

このことから「コザ・ミュージックタウン」のポテンシャルをさらに引き出すためには、平日もさることながら、まず、新たな興行・イベント等の実施により休日の稼働率（本番稼働率）を向上させ、かつ個々の興行・イベント等における集客力の強化を図り、休日は常に音市場又は音楽広場でコンサートやライブ、又は地域イベントが開催されることにより、日常的にぎわいを創出し、コザ・ミュージックタウンを訪れる来街者が、いつでも「音楽のまち沖縄市」を体感できるような環境づくりを目指す。

【音市場ホール及び音楽広場の稼働率】（平成 20 年度実績・休日）

	平成 20 年度				
	本番稼働 (回) ①	年間稼働可能日数 (日) ②※1	本番稼働率 ③※2	集客数 (人) ④	平均集客数 ⑤
音市場ホール	60	123	48.8%	18,324	305 人
音楽広場	79	123	64.2%	39,095	495 人
計 (延べ)	139	246	56.5%	57,419	413 人

※1 年間稼働日数：年間休日日数（平成 20 年）

※2 本番稼働率=①÷②

《今後の取り組み概要》

●沖縄国際アジア音楽祭の開催（音市場）

アジア各国との文化交流、“沖縄産音楽”の国内外への発信、音楽を活用した観光の推進を目的に、国やジャンルを超え、多くのミュージシャンやミュージックファンが集う「沖縄国際アジア音楽祭」を開催する。



## ●音のページェント事業（音市場）の実施

「音楽によるまちづくり」の拠点施設であるコザ・ミュージックタウンを中心に、近隣の音楽ライブハウスを含む6つのステージを設け、音楽活動を行う人々の発表の場を提供し、「キッズ」、「インディーズ」、「シニア」等様々な世代に向けた音楽発信を行う。



## ●株式会社ミュージックウェーブ（「コザ・ミュージックタウン」の指定管理者）の「ミュージックタウン音市場事業」（自主興行事業）の実施

### ①『遊び庭（あしびなー）』の定期公演

沖縄の唄と踊りを題材とした琉球舞踊・創作ダンス・青年エイサー・沖縄民謡から構成されるエンターテインメントショー『遊び庭』の定期公演を実施。



### ②『綾庭の宴（あやみやのうたげ）』の定期公演

「琉球～現代」の時代の流れを、音楽を通して舞踊、空手、エイサーが華やかに表現し、沖縄文化の歴史的重なりと華やかで勇壮、壮大な琉球文化を「音市場」という音箱に独自の視点で納めたエンターテインメントショー『綾庭の宴』の定期公演を実施。



## ●プロムナードコンサートの実施

当該事業は新たな「音楽のまち沖縄市」を象徴する活性化イベントとして、毎週土曜日に市内小・中・高校・一般の吹奏楽団及びライブハウス等で活躍しているミュージシャンによるコンサートを、コザ・ミュージックタウン音楽広場を中心に実施。



## ●音楽広場改修

「音楽広場」は野外イベントの会場として利用されている。そのため、雨天など天候によりイベント等の中止が頻繁であり、平成20年度においては41回のイベント等の開催が何らかの形で変更を余儀なくされた。また、当該広場の利用調整を行う指定管理者にも、雨天を心配するイベント主催者の声が多数寄せられている。沖縄県の雨天日の比率は年間約35%※に上り、3日に1日はイベント等の開催が困難であることから、潜在的に利用を控えている事業者は多い

と推測される。

こうした雨天時の施設利用を可能とするための改修（テント式の屋根の設置）が平成21年度下期に実施され、22年度からは大幅な稼働率向上が期待されている。

※沖縄気象台統計データより、2008年から過去5年間の降雨データにより算出

### ●音楽によるまちづくり広報支援事業の実施

#### （音市場・音楽広場）

平成21年8月、厚生労働省のふるさと雇用再生特別交付金事業を活用し、本市の音楽イベント等に係る情報を効果的・効率的に発信するための「沖縄市音楽広報隊(Music info team)」を結成し、実演（パフォーマンス）、テレビ、ラジオ等のメディアミックスによる総合的な広報活動を展開している。今後も本事業の積極的な取り組みを実施する。



### 《事業における効果》

コザ・ミュージックタウン前における歩行者通行量調査（平成21年度）では、「コザ・ミュージックタウン」への入場者のほぼすべてが調査地点を通過している。徒歩だけでなく、自家用車で来る利用者についても、近隣駐車場や当該施設の駐車場を利用し、その動線上、確実に同調査地点を通過することとなっている。

したがって、上記の興行・イベント等による集客数の増をそのまま通行量の増とする。

#### 1) 休日における稼働率向上による年間集客数の増加

##### ○「音市場ホール」における休日の稼働率向上による年間集客数の増加

##### ●休日における新規興行・イベント等の実施による稼働率の向上 48.8% ⇒ 71.5%

平成20年度における休日の興行・イベント等の開催数 60回 …①

新規興行・イベント等の実施による増加回数 28回 …②

年間の休日数 123日/年（平成20年の休日数）…③

沖縄国際アジア音楽祭の開催	年間2回
音のページェントの開催	年間2回
『遊び庭（あしびな）』の定期公演の実施	年間12回
『綾庭の宴（あやみやのうたげ）』の定期公演の実施	年間12回
興行・イベント等の年間増加数	年間28回増

$$(①+②) \div ③ = (60回+28回) \div 123日 \div 71.5\%$$

##### ●休日における稼働率の向上による年間集客数の増加 8,540人増加

平成20年度の休日における平均集客数（音市場ホール） 305人 …④

$$② \times ④ = 28回 \times 305人 = \boxed{8,540人} \dots (A)$$

○「音楽広場」における休日の稼働率向上による年間集客数の増加

●音楽広場改修（テント式屋根の設置）による稼働率の向上 64.2% ⇒ 97.5%

平成20年度における休日の興行・イベント等の開催数 79回 …①

沖縄における雨天日の比率 約35% …②

年間の休日数 123日/年（平成20年の休日数） …③

①÷(1-②)=79回÷65%≒120回 …④（プロムナードコンサート実施分を含む）

④÷③=120回÷123回≒97.5%

●休日における稼働率向上による年間集客数の増加 20,295人増加

平成20年度における平均集客数（音楽広場） 495人 …⑤

(④-①)×⑤=(120回-79回)×495人=41回×495人=**20,295人** …(B)

2) 休日における平均集客数の向上による年間集客数の増加

○音楽によるまちづくり広報支援事業の実施による休日における平均集客数の増加

●「音市場ホール」の休日における平均集客数の増加 2,684人増加

平均集客数の増加率 10% …①

※「沖縄市音楽広報隊（Music info team）」の結成前後3カ月の音市場ホール・音楽広場における平均集客数の比較により算出。今後はさらなる情報発信を強化することにより同様の効果を見込む。

新規興行・イベント等の実施による休日における年間稼働回数 88回 …②

(平成20年度イベント開催実績) + (新規興行・イベント等の増加分)

=60回+28回=88回

平成20年度の休日における平均集客数（音市場ホール） 305人 …③

③×①×②=305人×10%×88回=**2,684人** …(C)

●「音楽広場」の休日における平均集客数の増加 5,940人増加

音楽広場改修による休日における年間稼働回数 120回 …④

(平成20年度イベント開催実績) ÷ (1-雨天日の比率)

=79回÷65%≒120回

平成20年度の休日における平均集客数（音楽広場ホール） 495人 …⑤

⑤×①×④=495人×10%×120回=**5,940人** …(D)

≪「ミュージックタウン音市場事業」などによる効果（合計）≫

○休日における稼働率が音市場ホールで71.5%、音楽広場で97.5%となり、休日は日常的に音市場・音楽広場のいずれかでイベント等が実施され、にぎわいが創出される。

○年間集客数の増加による歩行者通行量の増加

上記の事業により、コザ・ミュージックタウン周辺における1日あたりの歩行者通行量の増加を300人/日と見込む。

(A) + (B) + (C) + (D) ÷ 123日 = (8,540人 + 20,295人 + 2,684人 + 5,940人) ÷ 123日

=304人/日 ≒ **300人/日**

## (2) 「胡屋地区リノベーション事業」による効果

商店街では、来客数の減少から空き店舗数が高止まりしており、長期にわたり借り手（出店者）がいない状況が続いている。このため街全体の雰囲気が停滞するとともに、このことがさらに来客数の減少、新規出店への意欲の低下、建物の老朽化などを生む負の循環を生んでいる。そこで、長期間空き店舗となっている建物について、定期借家制度を利用した建物のリノベーション（改築改装）を行うとともに、特産品を扱うチャレンジショップなどの出店により商店街の機能再生を図る。また、同じ建物内に公共的な施設を含めた都市福利機能を付加することで、より生活に密着した商店街としての機能の創出を目指すこととし、両者が相俟って街のにぎわいを生み出す効果を期待する。



リノベーション後のイメージ

ここでは、商業機能の観点から、都市福利機能を除く店舗等の利用客数等に基づいた歩行者通行量を数値目標の積算対象とする。（※）

なお、当該事業についてはすべて胡屋地区の商店街内で実施されることから、その利用客は、店舗周辺を徒歩または自転車で回遊することとなり、同商店街及び周辺の通行量調査地点のうち少なくとも1箇所を通過すると想定する。

### 【リノベーション事業により出店・立地するテナント】

事業1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物販（沖縄市の物産販売ショップ、姉妹都市（東海市、米沢市）のアンテナショップ）計5店舗</li> <li>●子育て支援施設</li> <li>●NPO等市民活動支援センター</li> </ul>
事業2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物販（ものづくりNPO等市民活動団体の工房兼ショップ）15店舗</li> <li>●オフィス機能（事業所）</li> </ul>
事業3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物販（飲食系）1店舗</li> <li>●宿泊施設</li> <li>●管理事務所</li> </ul>

※子育て支援施設は、指標2「都市福利施設の年間利用者」で目標値の算定対象とすることから、指標1に係る目標値設定については、当施設を除く店舗の集客見込により歩行者通行量を算出。

### 《事業1における効果》

#### a. 物販店における集客

○物販店（平均20坪・年間300日営業） 5店舗 …①

○当該店1店舗当たりの最少集客数 12人/日

●近傍類似施設（コザ工芸館「ふんどう」※床面積24坪）の実績及び当該事業の事業計画から以下のとおり想定。

年商 : 事業継続に必要な年商の下限=1,000万円 …②

客単価 : 利用客1人当たりの平均購買額=2,580円（「ふんどう」の客単価を参考） …③

集客数 : 平均レジ通過客数 (実際に購買した客数)

$$\textcircled{2} \div \textcircled{3} \div \text{営業日数} = 1,000 \text{ 万円} \div 2,580 \text{ 円} \div 300 \text{ 日/年} \doteq 12 \text{ 人/日} \quad \dots \textcircled{4}$$

※コザ工芸館「ふんどう」は沖縄市が実施しているチャレンジショップであり、同地区商店街内に位置している。

○1日当たりの集客数 120人/日

●近傍類似施設(コザ工芸館「ふんどう」)の調査における購買者割合から、集客数を推計。

購買者割合: 集客数のうち実際に購買行動を伴う客数の割合=50%  $\dots \textcircled{5}$

$$\textcircled{1} \times \textcircled{4} \div \textcircled{5} = 5 \text{ 店舗} \times 12 \text{ 人/日} \div 50\% = \boxed{120 \text{ 人/日}} \quad \dots \textcircled{6}$$

#### b. 物販店従業員(スタッフ)

○物販店のスタッフ数合計 10人/日

スタッフ数: 各店舗の1日平均のスタッフ数=2人/日

$$2 \text{ 人/日} \times 5 \text{ 店舗} = \boxed{10 \text{ 人/日}} \quad \dots \textcircled{7}$$

#### 《事業1の実施による1日あたりの歩行者通行量》

物販店において、それぞれの店舗の集客数のうち重複する人が想定される。1人の客が平均2店舗※に立ち寄ると想定して算出する。

※沖縄市アメニティプラン社(コリンザの管理運営会社)の調査より

$$\textcircled{6} \div 2 \text{ 店舗} + \textcircled{7} = 120 \text{ 人/日} \div 2 \text{ 店舗} + 10 \text{ 人/日} = \boxed{70 \text{ 人/日}} \quad \dots \textcircled{A}$$

#### 《事業2における効果》

##### a. 物販店における集客

○物販店(8坪1F・2F・3F 年間300日営業) 15店舗  $\dots \textcircled{1}$

○当該店1店舗当たりの最少集客数 6人/日

●近傍類似施設(「カラーズハウス」※床面積約12坪)の実績及び当該事業の事業計画から以下のとおり想定。

年商 : 事業継続に必要な年商の下限=400万円  $\dots \textcircled{2}$

客単価 : 利用客1人当たりの平均購買額=2,000円(カラーズハウスの客単価を参考)  $\dots \textcircled{3}$

集客数 : 平均レジ通過客数(実際に購買した客数)

$$\textcircled{2} \div \textcircled{3} \div \text{営業日数} = 400 \text{ 万円} \div 2,000 \text{ 円} \div 300 \text{ 日/年} \doteq 6 \text{ 人/日} \quad \dots \textcircled{4}$$

※カラーズハウスは、民間のものづくりグループが運営する物販店であり、当該地区のアーティストの作品を販売する店舗である。

○1日当たりの集客数 180人/日

●近傍類似施設(カラーズハウス、床面積約12坪)の調査における購買者割合から、集客数を推計。

購買者割合: 集客数のうち実際に購買行動を伴う客数の割合=40%  $\dots \textcircled{5}$

$$\textcircled{1} \times \textcircled{4} \div \textcircled{5} = 15 \text{ 店舗} \times 6 \text{ 人/日} \div 40\% = \boxed{225 \text{ 人/日}} \quad \dots \textcircled{6}$$

#### b. 物販店従業員(スタッフ)

○物販店のスタッフ数合計 15人/日

スタッフ数：各店舗の1日平均のスタッフ数=1人/日

$$1 \text{ 人/日} \times 15 \text{ 店舗} = \boxed{15 \text{ 人/日}} \quad \dots \textcircled{7}$$

#### 《事業2の実施による1日あたりの歩行者通行量》

物販店において、それぞれの店舗の集客数のうち重複する人が想定される。1人の客が平均2店舗※に立ち寄ると想定して算出する。

※沖縄市アメニティプラン社（コリンザの管理運営会社）の調査より

$$\textcircled{6} \div 2 + \textcircled{7} = 225 \text{ 人/日} \div 2 \text{ 店舗} + 15 \text{ 人/日} = \boxed{127 \text{ 人/日}} \quad \dots \textcircled{B}$$

#### 《事業3における効果》

##### a. 飲食系店舗における集客

○飲食系店舗（30坪・年中無休） 1店舗 …①

○当該店1店舗当たりの最少集客数 25人/日

●近傍類似施設（「屋台村」※床面積24坪）の実績及び当該事業の事業計画から以下のとおり想定。

年商：事業継続に必要な年商の下限=730万円 …②

客単価：利用客1人当たりの平均購買額=800円（屋台村の客単価を参考） …③

集客数：平均レジ通過客数（実際に購買した客数）

$$\textcircled{2} \div \textcircled{3} \div \text{営業日数} = 730 \text{ 万円} \div 800 \text{ 円} \div 365 \text{ 日/年} = 25 \text{ 人/日} \quad \dots \textcircled{4}$$

※屋台村は、本市銀天街商店街内において、「食とアートと交流による街づくり」におけるチャレンジジョブ事業として複数の飲食店を出店している。

○1日当たりの集客数 25人/日

$$\textcircled{1} \times \textcircled{4} = 1 \text{ 店舗} \times 25 \text{ 人/日} = \boxed{25 \text{ 人/日}} \quad \dots \textcircled{5}$$

##### b. 飲食系店従業員（スタッフ）

○飲食系店舗のスタッフ数合計 5人/日

スタッフ数：各店舗の1日平均のスタッフ数=5人/日

$$5 \text{ 人/日} \times 1 \text{ 店舗} = \boxed{5 \text{ 人/日}} \quad \dots \textcircled{6}$$

##### c. 管理事務所（スタッフ）

○管理事務所（30坪2F・週5日業務）スタッフの出入数 20人/日

スタッフ数：管理事務所における常勤雇用スタッフ数=8人 …⑦

出入係数：スタッフが日常的にオフィス・商店街を周回する回数の割合。

=3.5回/日※ …⑧ ※入居予定である「まちづくりNPOコザまち社中」における実績

勤務日数：週休2日制とし、平均値をとるため、勤務日数5日÷7日/週

$$\textcircled{7} \times \textcircled{8} \times \text{勤務日数/週} \div \text{週日数} = 8 \text{ 人/日} \times 3.5 \text{ 回/日} \times 5 \text{ 日/週} \div 7 \text{ 日/週} \\ = \boxed{20 \text{ 人/日}} \quad \dots \textcircled{9}$$

##### d. 宿泊施設における集客

○宿泊施設（30坪3F・年中無休） 宿泊可能人数 15人/日 …⑩

●近傍類似施設（「コザクラ荘」※床面積 30 坪）へのヒアリング及び当該事業の事業計画から以下のとおり想定。 ※コザクラ荘とは、胡屋地区にあるゲストハウス

年商：事業継続に必要な年商の下限=500 万円 …⑪

客単価：利用客 1 人当たりの平均宿泊費=2,000 円/泊 …⑫

なお、ヒアリングでは宿泊単価は 1,500 円~3,000 円/泊と幅がある。

⑪÷⑫÷営業日数=500 万円÷2,000 円÷365 日/年≒7 人/日 …⑬

稼働率：稼働部屋数/部屋総数= 50% …⑭

近隣のホテル等宿泊施設の平均は、稼働率 60%>50%

出入係数：宿泊者 1 人当たりの周辺部への外出数=2 回 …⑮

⑩×⑭×⑮=15 人/日×50%×2 回≒15 人/日 …⑯

《事業 3 の実施による 1 日あたりの歩行者通行量》

⑤+⑥+⑨+⑯= (25 人+5 人+20 人+15 人) /日=65 人/日 … (C)

《「胡屋地区リノベーション事業」による効果（合計）》

上記 3 事業により、商店街及びその周辺における 1 日当たりの歩行者通行量の増加数を 280 人/日 と見込む。

(A) + (B) + (C) = 70 人+127 人+65 人=262 人/日

### (3) 「沖縄市戦後文化資料等展示事業」による効果

沖縄市戦後文化資料展示室「ヒストリート」は、コザのまちが戦後アメリカ文化の影響を強く受け、いわゆる「コザ文化」を育み発展してきた、沖縄市の歴史を肌で感じることができる資料館であり、コザを訪れる多くの来街者が利用している。沖縄市の戦後のあゆみを資料や写真・パネル、当時の生活用具などを展示していることから、当時を知らない子ども達などへの歴史教育の場としても活用されている。

「ヒストリート」は、平成 17 年 9 月に開設され、その後、姉妹館として「シーぶんかん」が開設されたが、「シーぶんかん」は拡張のため一度閉館し、平成 21 年 9 月に「ヒストリートⅡ」として開館している。「ヒストリート」では常設展示が中心であったが、2 号館の開館により展示資料の拡充や定期的な企画展示が可能となったことから、現在よりも多くの利用者が見込まれる。

目標値の設定にあたっては、過去に「シーぶんかん」において開催した企画展の実績をもとに、計画期間最終年度の利用者数を見込む。

なお、当資料館は胡屋地区の商店街内に立地しており、来館者は、商店街内の歩行者通行量の調査地点のうち、少なくとも 1 箇所を通過するものと想定する。



沖縄市歴史文化資料館「ヒストリート」館内の様子

《事業における効果》

○平成20年度の「ヒストリート」の利用者数 : 9,701人/年 …①

○「ヒストリートⅡ」における企画展開催による利用者増(率) 20.7%

○企画展開催に伴う年間利用者の増加

●「しーぶんかん」での企画展開催における実績から想定。

通常展示中の月平均利用者数 : 276人/月 …③

企画展開催期間中の月平均利用者数 : 336人/月 …④

④÷③=336人/月÷276人/月≒21.7% …⑤

企画展開催を定期的に常時開催した場合の年間利用者数の増 : 2,105人/年

①×⑤=9,701人/年×21.7%≒2,105人/年 …⑥

《「沖縄市戦後文化資料等展示事業」による効果》

⑥÷年間開館日数=2,105人/年÷270日≒7人/日

(4)「山里第一地区市街地再開発事業」による効果

当該事業は、多世代にわたる世帯を想定した住宅供給や社会福祉施設・医療施設等の立地促進によりコミュニティ(地域力)の再生を図ることを目的とした事業である。住宅棟のほか、食品等生活用品に特化したスーパーマーケット等の商業施設、スポーツ施設、クリニックモールなど、地域の生活利便性、公益性に配慮した施設配置を実施する。



整備後のイメージ

歩行者通行量の算出に当たっては、当該地区に新たに整備される商業施設の利用者を増加分として想定する。当該地区は、今後本市との境に近い北中城村において建設が予定されている大規模ショッピングモールの近傍に位置することから、その影響が危惧される場所であるが、当該商業施設は、日用品を主に扱う周辺住民を客層とした地域密着型のスーパーマーケットであり、大規模ショッピングモールとはほとんど競合することはない。よって当該施設の徒歩圏である半径300m圏内に住む住民を対象として歩行者通行量を見込むこととする。

なお、山里地区の調査地点は当該施設前に位置することから、こうした利用者すべてが調査地点を通過するものとする。

【事業実施箇所及び集客対象区域】



[対象区域の居住人口]

2,288人

(再開発事業実施地区の居住人口を除く)

[対象エリアの世帯数]

808世帯

対象区域に居住する人のうち、図右側（赤実線枠部分）区域の住民は施設利用の際、確実に歩行者通行量調査点を通ると考えられるが、図左側（青色点線枠部分）区域の住民は裏口を利用することが想定される。このため歩行者通行量の積算に当たっては、半径 300m 圏内の居住人口のうち、確実に調査点を通ると考えられる図赤実線枠部分の人口を対象として積算する。

《事業における効果》

近隣住民の商業施設利用による通行量の増加

○山里第一地区市街地再開発事業周辺地域における再開発商業施設利用者 808 人（世帯）

○再開発商業施設利用者のうち、通行量調査点を通ることが見込まれる利用者 90 人

●住民基本台帳における再開発事業周辺地域（半径 300m 圏内）の人口・世帯数、市民インタビューから推計

周辺世帯数：808 世帯（うち調査点を確実に通過することが想定される区域（図赤実線枠部分）に係る世帯数 447 世帯・・・①）

休日買物率：休日に自宅周辺の商業施設で日用品を買う人の割合 20%・・・②  
（市民インタビューによる）

①×②=447 世帯×20%≒90 人/日 ……③

《「山里第一地区市街地再開発事業」による効果》

③×2/4※=90 人/日×1/2=**45 人/日** ……(1)

※通行量調査を四半期ごとの年 4 回実施し平均値により測定。その場合、当該事業の竣工が平成 26 年 10 月予定であるため、上記効果が発現する回数が 2 回である。

(1)～(4)の事業実施による歩行者通行量の全増加分

(1)300 人/日+(2)262 人/日+(3)7 人/日+(4)45 人/日 = **614 人/日**

事業名	効果	備考
現況値 (H21)	5,964 人	①
推計値 (H27)	5,688 人	②
目標値 (H27)	6,302 人	③
事業効果	614 人	③-②
(1)ミュージックタウン音市場事業等	300 人	
(2)胡屋地区リノベーション事業	262 人	
(3)沖縄市歴史文化資料等展示事業	7 人	
(4)山里第一地区市街地再開発事業	45 人	
(5)その他活性化を補強する主な事業 ミュージックタウン推進事業 (コンテンツプロデュース事業) プロムナードコンサート事業 モグコザ準備室 中心市街地情報発信支援事業 音楽によるまちづくり広報支援事業 商店街再生チャレンジショップ事業 商店街賑わい創出事業 食とアートと交流の街づくり事業 沖縄市中心市街地循環コミュニティバス事業 音の回廊事業 駐車場誘導システム整備事業	—人	

## ウ. フォローアップの考え方

事業の進捗状況については毎年度確認し、必要に応じて事業進捗を図るための措置を講じていくとともに、計画期間の中間年度に当たる平成 24 年度には数値目標の達成状況を検証し、必要に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。さらに、計画期間の最終年度終了後についても再度検証を実施する。

### 指標 2 : 都市福利施設の年間利用者数

#### 【数値目標】

評価指標	現況値 (H20 年)	目標値 (H27 年)	備考
都市福利施設の年間利用者数	907,457 人/年	1,021,057 人/年	5 施設

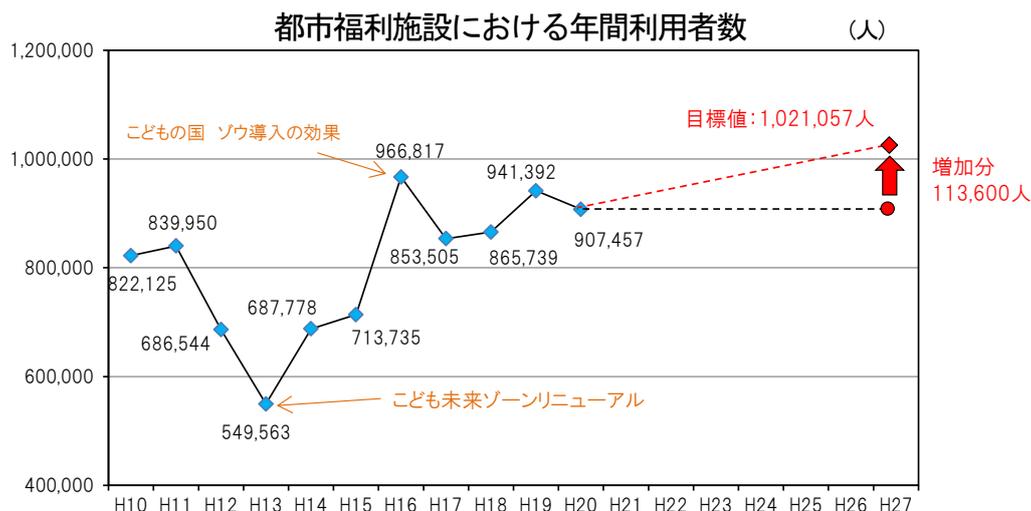
上記目標値における各施設の内訳は以下のとおりである。

対象施設	現況値 (H20)	効果 (増加数)	目標値 (H27)	備考
沖縄市立図書館	69,636 人	24,800 人	94,436 人	コリンザへの移転整備
子育て支援施設	—	3,500 人	3,500 人	リノベーション事業による設置
社会福祉センター・男女共同参画センター	10,126 人	27,000 人	37,126 人	複合施設の建設
コザ運動公園	458,890 人	43,000 人	501,890 人	体育館・多目的センター建設
沖縄子ども未来ゾーン (沖縄こどもの国)	368,805 人	15,300 人	384,105 人	園舎の改修等による増
合計	907,457 人	113,600 人	1,021,057 人	増加割合 12.5%

## ア. 過去からの推移

上記に掲げる施設のうち、子育て支援施設及び社会福祉センターを除く既存施設の年間利用者数の合計について、過去 10 年からの推移を見ると、平成 13 年まで減少が続き、その後急激に増加傾向を示し、近年においてはほぼ横ばいの状態である。これは、子ども未来ゾーン (沖縄こどもの国) におけるリニューアルオープン及びその後のインド象の導入が大きく関係している。その他の施設を個別に見ると、「沖縄市立図書館」は増加傾向 (毎年平均約 7% の割合で増加)、「コザ運動公園」はほぼ横ばい状態、「男女共同参画センター (現働く婦人の家)」は施設の老朽化等によって緩やかな減少傾向を示している。

本市中心市街地については、人口流出によるにぎわいの低下などの空洞化が進んでおり、今後はこれら問題に対応して均整のとれた定住人口の維持が重要である。そのためには新たな都市福利施設の整備や既存施設の老朽化などに対応した改修や機能強化を図ることにより、更なる利用者の増加を図る。そのことにより中心市街地全体としての付加価値を向上させ、街の魅力を高めることによる生活環境の改善を目標とする。



※目標数値の設定にあたっては、改修による長期の閉鎖等により過去のトレンドに連続性が確保できないことに加え、今後新たな施設が追加されることを勘案して、将来の推計値を用いず、現況値（実績）から目標値を設定する。

## イ. 数値目標設定の考え方

### (1) 「コリンザ再生事業（図書館整備）」による効果

現在の図書館（在り地：中心市街地内）は、建物の老朽化はもとより、施設・駐車場の狭隘並びに本市人口に対する蔵書数の不足などから、都市福利施設として市民の利便性が高いとは言えない。そこで、「コリンザ」の主力テナント撤退後の空き床に図書館を移転させ、さらなる市民の利便性の向上を図る。

移転後は、施設規模が現図書館の約2倍の規模となる。規模の拡大に伴い蔵書数も増加し、さらに大規模な駐車場が完備されることから、相当程度の利用者が見込まれる。

図書館の利用者については、施設規模に加え蔵書数が重要な要素となることから、収蔵数の比較により年間の利用者数を積算するものとする。



移転施設の大型空きビル（コリンザ）

### 《事業における効果》

○新図書館における本の収蔵数 約250,000冊

●本の蔵書については、県内の同規模図書館（西原町立図書館）の収蔵数をもとに計画策定している。

西原町立図書館の延床面積 約3,200㎡ …①

整備後の沖縄市立図書館の延床面積 約3,400㎡ …②

②÷①－1＝3,400㎡÷3,200㎡－1≒6.2% …③

整備後の図書館は西原町立図書館の約6.2%規模が大きい

西原町立図書館における本の収蔵数 約240,000冊 …④

④×(1+③)＝240,000冊×(1+6.2%)＝254,880冊≒250,000冊 …⑤

○新図書館における年間の利用者数 94,500人

●現在の図書館における本の収蔵数と整備後の新図書館の収蔵数の関係により年間の利用者数を見込む

現在の図書館における本の収蔵数 約184,000冊 …⑥

規模の拡大に伴う収蔵数の増加率 35.8%

⑤÷⑥-1=250,000冊÷184,000冊-1≒35.8% …⑦

現在の図書館における年間利用者数 69,636人/年 …⑧

⑧×(1+⑦)=69,636×(1+35.8%)=94,565人/年≒94,500人 …⑨

≪「コリンザ再生事業（図書館整備）」による効果≫

⑨-⑧=94,500人/年-69,636人/年=24,864人/年≒**24,800人/年** 増加

(2)「胡屋地区リノベーション事業」における子育て支援施設の設置による効果

当該施設は、胡屋地区リノベーション事業による入居機能の一つである。本市は15歳未満の人口の割合が全国一高い市（平成17年国勢調査）という特徴があるが、保育施設が少ないため、保育所の入所を待つ待機児童数が多く、保育所や学童などの子育て環境の充実に対する高い市民ニーズがある。

そこでまちなかにおいてこどもの一時預かりや親子で憩える場、または親同士が子育てに関する悩みを相談しあう場としての機能を有した子育て支援施設を設置する。

リノベーション事業により整備される子育て支援施設の年間施設利用者の算出にあたっては、子育てに関する施設に対する市民ニーズが高いこと、さらに本市における待機児童数も多いことなどを踏まえ、近隣類似施設である「嘉手納町立子育て支援センター」の施設規模等の比較により利用者を見込むものとする。

[沖縄市の公立・法人保育所数及び定員数]

○公立保育所 …… 11箇所（うち中心市街地2箇所） 定員数690人

○法人保育所 …… 24箇所（うち中心市街地3箇所） 定員数1,830人

[待機児童数]

○市全体 237人

≪事業における効果≫

○子育て支援施設における年間利用者数 3,500人/年

●近隣類似施設「嘉手納町立子育て支援センター」の年間利用者・施設規模・人口規模の比較により推計

「嘉手納町立子育て支援センター」の年間利用者数 : 1,891人/年 …①

「嘉手納町立子育て支援センター」の床面積 : 520㎡ …②

「子育て支援施設の床面積」 : 100㎡ …③

施設規模の比較 ③÷②=100 m<sup>2</sup>÷520 m<sup>2</sup>≒19.2% …④

人口規模の比較 [嘉手納町] 13,755 人 …⑤

[沖縄市] 133,762 人 …⑥

⑥÷⑤=133,762 人÷13,755 人≒9.7 倍 …⑦

子育て支援施設における年間利用者の推計

①×④×⑦=1,891 人/年×19.2%×9.7 倍=3,521 人/年≒3,500 人

≪「子育て支援施設」の設置による効果≫ **3,500 人/年** 増加

### (3) 「(仮称) 社会福祉センター・男女共同参画センター建設事業」による効果

中心市街地における新たな都市福利施設の整備事業として、地域福祉の拠点となるべく、複合施設を整備し、社会福祉施設などの立地促進並びにコミュニティ（地域力）の再生を図り、福祉活動拠点施設間のネットワークを推進するとともに、男女共同参画社会の推進に向けて活動拠点の充実を図ることを目的として事業を実施する。



完成予想イメージ

当該施設は、社会福祉センターと男女共同参画センターの複合施設であり、社会福祉センターは、中心市街地の新たな都市福利機能として設置される。また、男女共同参画センターについては、現在中心市街地に立地する「沖縄市働く婦人の家」を機能拡充とともに当該施設に移転することになっている。

当該施設における年間利用者については、今後施設の利用が見込まれている年間利用計画に基づき算出するものとする。

#### ≪事業による効果≫

##### ○ (仮称) 社会福祉センター・男女共同参画センターにおける年間利用者

- 今後当該施設で予定される事業及び利用者数に基づく年間利用計画により年間利用者数を想定する。

##### 【社会福祉センター・男女共同参画センター利用計画】

基本目標	事業数/年	利用回数/年	利用人数/年
1. 市民の多様な学習・交流活動の支援	16 事業	62 回	1,392 人
2. 福祉文化、男女共同参画社会実現に向けての啓発及び情報提供	36 事業	204 回	7,611 人
3. 地域福祉推進拠点の整備 ①地域福祉コーディネート機能の強化	44 事業	876 回	11,449 人
4. 地域福祉推進拠点の整備 ②障がい者・高齢者の生活支援機能の充実	37 事業	628 回	10,755 人
5. 地域福祉推進拠点の整備 ③子育て家庭支援機能の充実	8 事業	68 回	1,611 人
6. 福祉等の人材育成拠点の推進	13 事業	202 回	4,308 人
合 計	154 事業	2,040 回	37,126 人

※ 計 154 事業のうち、高齢福祉課、市民健康課、健康福祉総務課による 30 事業が新規事業となり、その分の利用者が 13,140 人となる。

※ 上記計画について、新規事業は事業の必要性や市民ニーズ等を踏まえたものであり、既存事業は、「働く婦人の家」や郊外部にある「福祉文化プラザ」で実施されている事業実績等に基づいた計画であるため、確実な事業の実施及び施設利用者が見込まれる。

(仮称) 社会福祉センター・男女共同参画センターにおいて、6つの基本方針に基づき年間154事業を実施し、年間37,126人の施設利用者を見込む・・・①  
当事業に係る現況値 10,126人/年・・・②

《「(仮称) 社会福祉センター・男女共同参画センター建設事業」による効果》

$$\textcircled{1}-\textcircled{2}=37,126 \text{ 人/年}-10,126 \text{ 人/年}=\underline{27,000 \text{ 人/年}} \text{ 増加}$$

(4) 「コザ運動公園体育施設整備事業」による効果

当該施設は、陸上競技場、体育館、野球場、トレーニングルームなどの様々なスポーツ施設が整備された都市公園であり、健康増進や娯楽施設として中心市街地内の人を含め多くの市民が利用している。中心市街地の活性化を推進するにあたっては、さらなる付加価値の向上による利便性を高めるために、老朽化した体育館及び野球場の建替え、(仮称) 多目的センターの建設、野外ステージの改修を実施する。目標値の設定については、市民が様々な用途で利用できる体育館や多目的センターの建替え及び建設によって利用者の増加が見込まれる当該施設の年間利用者数とする。体育館の利用者については、現体育館と建替えによる新体育館における施設規模と年間利用者実績との関係、(仮称) 多目的センターの利用者については、同機能を有した沖縄県総合運動公園内多目的ドーム(本市郊外部)における施設規模と年間利用者実績との関係により、計画期間最終年度の目標値を以下のとおり算出する。

《事業における効果》

a. 体育館の建替えによる効果

体育館の建替えにより、現況バスケットボールコート2面分の規模に対して新体育館は3面を有し、冷房も完備された大規模施設となる。規模拡大による利用者の増加及び冷房完備により各種プロスポーツやアマチュアスポーツの九州・全国大会の試合会場としての活用が期待できる。



○体育館の建替えによる年間利用者増の見込み

●旧体育館と整備後の新体育館との床面積の比較による増加分 1,915㎡

旧体育館 4,439㎡・・・①

整備後の新体育館 6,354㎡・・・②

$$\textcircled{2}-\textcircled{1}=6,354 \text{ ㎡}-4,439 \text{ ㎡}=1,915 \text{ ㎡}$$

→1,915㎡床面積が増加する

●床面積の増加割合 43.1%

$$\textcircled{2} \div \textcircled{1} - 1 = 6,354 \text{ ㎡} \div 4,439 \text{ ㎡} - 1 \doteq 43.1\% \text{ ……}\textcircled{3}$$



新体育館の完成イメージ

体育館の建替え事業により、施設規模が 43.1%増加する。その増加分に対して利用者のキャパシティも増加すると推測されるため、当該施設の利用者についても同様に 43.1%の増加を見込む。

○整備後の体育館における年間利用者数 99,800 人/年

●施設規模が 43.1%増加することで、利用者のキャパシティも同率で増加すると想定する。

旧体育館の年間利用者数(平成 19 年度※) 69,758 人 …④

※平成 20 年度は解体工事期間を含むため 19 年度の実績により算出する。

④×(1+③)=69,758 人/年×(1+43.1%)=99,823 人/年≒99,800 人/年 …⑤

○体育館の建替えによる効果

⑤-④=99,800 人/年-69,758 人/年=29,242 人/年≒**29,200 人/年** 増加する … (A)

b. (仮称) 多目的センターの建設による効果

当該施設は、体育館のサブアリーナの活用や屋外スポーツの雨天時での活用、さらにはスポーツレクリエーション以外の様々な用途に活用できる施設として整備される。

目標値の設定については、同機能を有する沖縄県総合運動公園内のレクドームにおける年間利用者数と施設規模により以下のとおり算出する。



多目的センターの完成イメージ

○(仮称) 多目的センター建設による年間利用者の見込み

●同機能を有した近隣類似施設である沖縄県総合運動公園内の「レクドーム」との床面積の比較により年間利用者の増加を見込む。

レクドーム 7,194 m<sup>2</sup> …①

(仮称) 多目的センター 1,272 m<sup>2</sup> …②

②÷①=1,272 m<sup>2</sup>÷7,194 m<sup>2</sup>≒17.6% …③

建設される(仮称)多目的センターはレクドームの約 17.6%の規模である。

●レクドームの年間利用者から多目的センターにおける年間利用者数を見込む。

レクドームの年間利用者数 78,460 人/年 …④

④×③=78,460 人/年×17.6%=13,808 人/年≒13,800 人/年

○(仮称) 多目的センター建設による効果 **13,800 人/年** 増加する … (B)

≪「コザ運動公園体育施設整備事業」の実施による効果(合計)≫

(A) + (B) =29,200 人/年+13,800 人/年=**43,000 人/年** 増加

## (5) 「音の回廊事業（動物園舎整備）」による効果

沖縄こども未来ゾーン（沖縄こどもの国）は、沖縄県唯一の動物園として、また本市が推進する「こどものまち」の拠点施設として、中心市街地居住者を含む多くの市民が利用する施設である。当該施設は都市公園として位置付けられているが、各動物園舎の老朽化や急勾配を要する園路等により、来園者の利便性が低下している。そこで当該施設に対して、動物園舎の改修や園路の整備、エスカレーターを設置など、来園者に優しく、魅力ある動物園として利用者の増加を目指す。また、当該施設では沖縄の希少動物である「琉球弧の動物」の展示を行っているが、今後はそれら動物の展示拡充はもちろん、病傷動物保護や飼育・繁殖の取り組みを行う。さらに、国の天然記念物である「ヤンバルクイナ」や「イリオモテヤマネコ」などの導入を図る予定でもあり、当該施設の更なる魅力向上による利用者の増加を目指すこととしている。

目標値の設定については、動物園舎の改修や園路の整備により建物面積が現況よりも増えることによって、各々の園舎における来園者のキャパシティが向上するという考え方により、整備前後の建物面積の比較と平成 20 年度年間利用者数の実績との関係により以下のとおり算出する。

### 《事業における効果》

#### ○園舎の改修・整備による建物面積の変化

##### ●園舎の総建物面積 4.2%増加

整備前（現況） 7,096 m<sup>2</sup> …①

整備後 7,400 m<sup>2</sup> …②

$$\text{②} \div \text{①} - 1 = 7,400 \text{ m}^2 \div 7,096 \text{ m}^2 - 1$$

$$\div 4.2\% \dots \text{③}$$

よって、整備事業を実施することにより、園舎の総建物面積が 4.2%増加する。それに伴い来園者のキャパシティも増加するため、利用者も同じ 4.2%の増加が見込まれる。



こども未来ゾーン（沖縄こどもの国）  
整備事業実施後のイメージ  
事業実施面積 約 18ha

#### ○園舎の改修・整備後の年間利用者数 384,000 人

##### ●園舎の総建物面積が 4.2%増加することで、来園者のキャパシティも同率で増加すると想定する。

平成 20 年度の年間利用者数 368,805 人 …④

$$\text{④} \times (1 + \text{③}) = 368,805 \text{ 人/年} \times (1 + 4.2\%) = 384,294 \text{ 人/年} \div 384,200 \text{ 人/年} \dots \text{⑤}$$

### 《「音の回廊事業（動物園舎の整備）」による効果》

$$\text{⑤} - \text{④} = 384,200 \text{ 人/年} - 368,805 \text{ 人/年} = 15,395 \text{ 人/年} \div \boxed{15,300 \text{ 人/年}} \text{ 増加する}$$

(1)～(5)の事業実施による年間都市福利施設の利用者数の増加(合計)

$$(1)24,800 \text{ 人/年} + (2)3,500 \text{ 人/年} + (3)27,000 \text{ 人/年} + (4)43,000 \text{ 人/年} + (5)15,300 \text{ 人/年} \\ = \boxed{113,600 \text{ 人/年}}$$

「中心市街地全体としての付加価値の向上による生活環境の改善」の目標達成に寄与する事業及び効果

施設名(事業名)	効果	備考
都市福利施設の充実・強化などにおける付加価値の向上による魅力の創出		
現況値(H20)	907,457人	4施設における年間利用者数
目標値(H27)	1,021,057人	5施設における年間利用者数
事業効果	113,600人	5事業による効果(増加人数)
(1)沖縄市立図書館	24,800人	コリンザ内への移転整備
(2)子育て支援施設	3,500人	リノベーション事業による新設
(3)社会福祉センター・男女共同参画センター	27,000人	複合施設の建設整備
(4)沖縄市コザ運動公園	43,000人	体育館・多目的センターの建設整備
(5)沖縄子ども未来ゾーン(沖縄こどもの国)	15,300人	動物園舎の改修等の整備
(6)その他目標達成に寄与する事業	—人	
①都市公園防災事業		①こどもの国の園路整備
②市民会館改修事業		②市民会館設備の改修
③山里第一地区市街地再開発事業		③クリニックモール等の整備
④沖縄市中心市街地循環コミュニティバス事業		④主要施設間のコミュニティバス循環
その他中心市街地全体としての付加価値の向上による魅力の創出		
(1)安慶田地区土地区画整理事業	—	区画整理事業による防災性の向上
(2)山里第一地区市街地再開発事業	—	再開発事業による防災性の向上
(3)安慶田市営住宅建替え事業	—	安全性及び住宅困窮者へのストック供給
(4)中心市街地共同住宅供給促進事業	—	民間による共同住宅建設の誘導

#### ウ. フォローアップの考え方

事業の進捗状況については毎年度確認し、必要に応じて事業進捗を図るための措置を講じていくとともに、計画期間の中間年度に当たる平成24年度には数値目標の達成状況を検証し、必要に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。さらに、計画期間の最終年度終了後についても再度検証を実施する。

なお、「中心市街地における均整のとれた定住人口の確保」の達成状況を確認するために、中心市街地における定住人口を参考値として毎年度確認する。

## 4. 土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事項

### [1]市街地の整備改善の必要性

#### (1) 市街地の整備改善の必要性

本市の中心市街地には、未整備の都市計画道路、土地区画整理事業等が複数存在しており、今なお道路幅員が狭く、建物が密集した市街地が存在している状況である。市民アンケート調査においても、今後に望む事項として「安心して歩ける道路空間の整備」や「渋滞のない道路環境整備」等、道路整備に関わる事項を望む意向が多くなっている。

また、沖縄特有の暑い日差しを遮り、潤いあるまちづくりを進めるといった観点から、街なかにおける緑の確保も必要である。

中心市街地内駐車場の利用状況を見ると、全駐車場平均の稼働率が、平日で50.1%、休日で25.6%と低く、アンケート調査では、商店街活性化に向けて「駐車場と駐車場案内システムの整備」を望む意向が最も多くあげられている。

さらに、本市中心市街地では、広域的集客イベントが多数実施されているとともに、県内外からの観光客を見込める資源等があるものの、滞在型宿泊施設が不足しているといった現状を有している。

こうしたことを踏まえ、密集市街地の改善による住環境の向上や、まちの回遊性の向上、安心安全な歩行空間の創出、街なかにおける緑の創出、駐車場に関わる情報発信の充実等、市街地の整備改善を通じて、中心市街地におけるにぎわいづくりや住む人目線での良好な生活空間の創出を実現していく必要がある。

#### (2) フォローアップの考え方

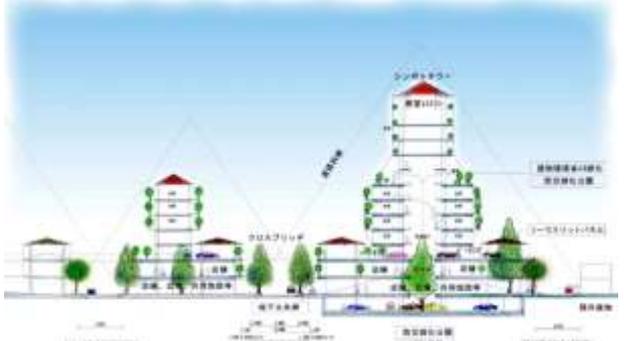
毎年度において、事業の進捗調査を行い、必要に応じて事業の見直しなど改善策を講じ、着実な事業推進を図る。

### [2]具体的事業の内容

#### (1) 法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

(2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 安慶田地区 土地区画整 理事業</p> <p>○内容 土地区画整 理事業によ る幹線道路 や生活道路 等の整備</p> <p>施行面積 8.7ha</p> <p>○実施時期 H21～H30</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 商業地に隣接する老朽化した密集住宅地である安慶田地区において、多様な世帯に対応した住宅供給やコミュニティ（地域力）の再生を図る事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 老朽密集住宅地の改善及び防災環境軸形成等を図ることで安心・安全な住環境が形成される。 また、既存のコミュニティを維持しつつ、老朽密集住宅地の改善及び防災環境軸形成等を図り、安全・安心な住環境を形成し、街なか居住の促進を図るものであり、居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 社会資本整備 総合交付金 （都市再生区 画整理事業）</p> <p>○実施時期 H22～H27</p>	
				
<p>安慶田地区鳥瞰イメージ</p>		<p>安慶田地区街区断面イメージ</p>		
<p>(安慶田地区土地区画整理事業計画等委託業務報告書より)</p>				

<p>○事業名 山里第一地区市街地再開発事業</p> <p>○内容 まちなか居住等の推進のための第1種市街地再開発事業 区域面積 約1.3ha 延床面積 約24,000㎡</p> <p>○実施時期 H22～H27</p>	<p>沖繩市山里第一地区市街地再開発組合</p>	<p>○位置付け 多様な世帯に対応した住宅供給や社会福祉施設・医療施設などの立地促進によりコミュニティ（地域力）の再生を図る事業として位置付ける。</p> <p>○必要性 地域の生活拠点の核づくりを目指し、住宅棟、商業施設棟のほか、スポーツ施設など地域の生活利便性ならびに公益性の高い施設を整備することにより、街なか居住の促進を図るものであり、誰もが居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）</p> <p>○実施時期 H24～H27</p>
			
<p>全体イメージ</p>		<p>計画平面イメージ</p>	
<p>(沖繩市山里第一地区市街地再開発事業の事業計画素案の概要より)</p>			

<p>○事業名 音の回廊事業（こどもの国線、中央公園線他）</p> <p>○内容 地方道路整備事業（こどもの国線、中央公園線他）</p> <p>○実施時期 H23～H27</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 音楽によるまちづくりを推進するために、まちそのものの雰囲気や資源として積極的に活用することでまちの効果的な回遊性確保に資する事業として位置付ける。</p> <p>○必要性 ミュージックタウン拠点と沖縄こどもの国を結ぶ市道（中央公園線、こどもの国線、こどもの国北側線）において、光や音の出るストリートファニチャーや遊具等を設置し、歩いてみたくなる歩行空間づくりを行う。併せて、関連社会資本整備事業に位置付けられる動物園舎整備やこどもの国野外ステージの改修工事を行うことで、ミュージックタウンと連携したイベントの実施などにより相互間の回遊性を高める事を実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（コリンザ地区）と一体の関連社会資本整備事業）</p> <p>○実施時期 H23～H27</p>	
<p>○事業名 音の回廊事業（中の町1号線、グランド通り線他）</p> <p>○内容 地方道路整備事業（中の町1号線、グランド通り線他）</p> <p>○実施時期 H22～H27</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 音楽によるまちづくりを推進するために、まちそのものの雰囲気や資源として積極的に活用することでまちの効果的な回遊性確保に資する事業として位置付ける。</p> <p>○必要性 ミュージックタウン拠点とコザ運動公園結ぶ市道（市道中の町1号線、市道グランド通り線）において、光によるライトアップや音楽を感じさせる道路舗装等を行うことで、歩いてみたくなる歩行空間づくりを行う。 また、関連社会資本整備事業としてコザ運動公園内の野外ステージの改修工事を行うことにより、ミュージックタウン拠点と連携した音楽イベントを開催し、当該回廊が誘導路線となるように道路を整備することで、回遊性を高める事を実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（コリンザ地区）と一体の関連社会資本整備事業）</p> <p>○実施時期 H23～H27</p>	

<p>○事業名 胡屋地区商店街周辺道路整備事業（市道センター15号線他）</p> <p>○内容 地方道路整備事業（市道センター15号線他）</p> <p>○実施時期 H24～H25</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置づけ 中心市街地の中核的な商店街である一番街商店街及びサンシティ商店街の商業環境整備として、商店街が実施する胡屋地区商店街商業環境整備事業と連動した路面整備を行うことにより、商環境のイメージを向上させ、商店街の活性化を図る。</p> <p>○必要性 一番街商店街、サンシティ商店街は、まちなかのほぼ中央に立地し、「まちの顔」としてふさわしい明るく安心安全で快適な商業空間の整備が求められており、中心市街地におけるにぎわいづくり、商業地としての魅力再構築、商業の活性化を図るため必要である。</p>	<p>○支援措置 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（コリンザ地区）と一体の関連社会資本整備事業）</p> <p>○実施時期 H24～H25</p>	
<p>○事業名 山里地区再開発周辺道路整備事業（市道諸見里山里線他）</p> <p>○内容 地方道路整備事業（市道諸見里山里線他）</p> <p>○実施時期 H22～H27</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置づけ 山里再開発事業と連携した周辺道路の整備により、再開発事業を補完する事業として位置付ける。</p> <p>○必要性 地域の生活拠点の核づくりを目指す山里再開発事業と連携した周辺道路の整備により、街なか居住の促進や誰もが居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業（山里第一地区市街地再開発事業）と一体の関連社会資本整備事業）</p> <p>○実施時期 H26～H27</p>	

<p>○事業名 国道 330 号 沿線景観整備事業</p> <p>○内容 交通ネットワーク基盤の整備拡充</p> <p>○実施時期 H23～H25</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け コザ十字路周辺の国道交差点改良事業に伴う 残地利用と隣接商店街のファサード整備として 国道 330 号の沿道景観整備を行うものであり、 国道拡幅工事と一体となった景観整備事業とし て位置付けている。</p> <p>○必要性 中心市街地における商業力の低下に伴い、市 民生活や行政運営に支障をきたしている。この ような市民生活環境の向上、まちの再活性化へ の対応が求められている現状を踏まえ、住民と の協働により策定した土地利用計画を基に、銀 天街入口のファサード整備を行うことにより、 本市の中心市街地の再活性化、市民活力の向上 を図ることは、だれもが居心地の良いまちづく りを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 社会資本整備 総合交付金 (暮らし・に ぎわい再生事 業(コリンザ 地区))と一体 の効果促進事 業)</p> <p>○実施時期 H23～H25</p>	
---	------------	--	---	--

(2) ②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 安慶田地区 土地区画整 理事業 【*再掲】</p> <p>○内容 土地区画整 理事業によ る幹線道路 や生活道路 等の整備</p> <p>施行面積 8.7ha</p> <p>○実施時期 H21～H30</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 商業地に隣接する老朽化した密集住宅地である安慶田地区において、多様な世帯に対応した住宅供給やコミュニティ（地域力）の再生を図る事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 老朽密集住宅地の改善及び防災環境軸形成等を図ることで安心・安全な住環境が形成される。また、既存のコミュニティを維持しつつ、老朽密集住宅地の改善及び防災環境軸形成等を図り、安全・安心な住環境を形成し、街なか居住の促進を図るものであり、居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 社会資本整備 総合交付金 （道路事業 （区画））</p> <p>○実施時期 H22～H23</p>	
 <p>安慶田地区鳥瞰イメージ</p>		 <p>安慶田地区街区断面イメージ</p>		
<p>(安慶田地区土地区画整理事業計画等委託業務報告書より)</p>				

<p>○事業名 都市公園事業（こどもの国公園）</p> <p>○内容 市民の防災機能及び地域の核施設としての都市公園整備</p> <p>○実施時期 H22～H31</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 世代を超えて受け継がれてきた貴重な自然環境を保全するとともにまちなかにおけるみどりの創出につなげていき動物の生態系や環境に配慮した都市公園づくりを進め、野鳥や昆虫が生息する市内有数な場所として、動物センターを中心に自然を体験できる環境教育プログラムを導入するなど、人と自然・動物とのふれあいをとおして自然の成り立ちを学び、体験する施設づくりをすることで、まちの効果的な回遊性を確保する事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 こどもの国公園（沖縄こども未来ゾーン）は、昭和36年9月に本市第一号の都市公園として計画、整備された近隣公園であるが、バリアフリー法や国土交通省策定の都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン、防災機能の強化など社会情勢の変化に対応しなくてはならない。このようなことをふまえて整備を推進していくことは誰もが居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 社会資本整備総合交付金（都市公園等事業）</p> <p>○実施時期 H22～H27</p>	
<p>○事業名 中の町地区土地区画整理事業</p> <p>○内容 土地区画整理事業による基盤整備に向けた調査と、本地区にふさわしいまちづくりの推進に向けた建築物整備方針の検討</p> <p>○実施時期 H24～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け コザ文化が凝縮したまちの雰囲気や資源とした積極的な活用や、土地区画整理事業による都市計画街路や区画道路等の都市基盤整備など、地区の再生を目指した計画策定を行う。</p> <p>また、南側地区界沿いに主要区画道路を配置することにより、コザゲート通りにおけるイベント時や休日のトランジットモール化に伴う、う回路として活用することで、まちのにぎわいと活性化を図る事業として位置付ける。</p> <p>○必要性 土地区画整理事業の施行により、老朽化建築物・密集市街地の解消や狭小幅員道路・行き止まり道路の解消等により、住環境の改善や回遊性の向上、賑わい創出などを図るため必要である。</p>	<p>○支援措置 ①民間まちづくり活動促進事業 ②街路交通調査（土地区画整理事業調査）</p> <p>○実施時期 ①H24 ②H25～H26</p>	<p>土地区画整理事業の導入を想定し、地権者の合意形成及び意識高揚を図る</p>

(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 沖縄市景観まちづくり事業</p> <p>○内容 地域資源を活かした街並み景観の創出</p> <p>○実施時期 H21～H25</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け コザ文化が凝縮した街そのものの雰囲気や資源として積極的に活用し、まちに効果的な回遊性を確保する。また、市民との協働による景観づくり（まちづくり）に向けた施策を実現化する事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 地域の実情や歴史などを考慮したゆるやかなまちづくりを進め、コザゲート通りとくすのき通りについて重点地区に指定し、魅力ある景観を保全・活用することでまちの活性化を図る。また、コザゲート通りについては、屋外広告物の規制緩和等により、沖縄市らしい風景（景観）を保全・形成するなど、特色あるまちづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 風景づくり推進事業（景観計画の策定、住民意見の聴取・合意形成・周知・啓発等の活動）</p> <p>○実施時期 H21～H24</p>	

(4) 国の支援がないその他の事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	国以外の支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 国道330号拡幅沿線土地利用計画策定業務</p> <p>○内容 交通ネットワーク基盤の整備拡充</p> <p>○実施時期 H21～H22</p>	<p>沖縄市 (国・県)</p>	<p>○位置付け 安慶田土地区画整理事業の支援をはじめ、中心市街地エリア内における胡屋・コザ地区の既存商業区域の支援、回遊性の確保、主要幹線道路ネットワークの構築、道路景観の創出、公共交通基幹バス（TDM）などの施策展開に向け取り組みを実現化する事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 中心市街地における定住人口の空洞化、商業力の低下は、市民生活や行政運営に支障をきたしている。このような市民生活環境の向上、まちの再活性化への対応が求められている現状を踏まえ、住民との協働により土地利用計画を策定し、本市の中心市街地の再活性化、市民活力の向上を図ることは、だれもが居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>		

## 5. 都市福利施設を整備する事業に関する事項

### [1] 都市福利施設の整備の必要性

#### (1) 都市福利施設の整備の必要性

本市の中心市街地には、主要公共施設はもとより多数の医療施設、社会福祉施設、教育施設等があり、多様な都市機能の集積が図られている。

一方、中心市街地においては、市全体と比べ老年人口の比率が高く、平成12年から平成17年にかけて4.7%増加しており、この傾向は今後も続くものと考えられ、高齢者が地域で生き生きと暮らせる環境づくりが求められているといえる。また、地域で子育てを行う環境は、少子高齢化や地域コミュニティの希薄化等により大きく変化してきており、沖縄市活性化100人委員会「公立保育所のこれからの役割を考える部会」等においても、今後の保育環境の充実に向けた議論が重ねられた。

このようななか、平成20年10月8日に、市のチャレンジショップ事業によって沖縄市シルバー人材センターが介護予防事業や交流コーナーなど多様な事業を行い、高齢者によるまちづくりへの参加を目的としたコミュニティーサロン「ゆんたくまちや」をオープンした。

こうしたことを踏まえ、さらなる地域福祉の拠点となる施設の整備や保育環境の充実等により住む人目線での良好な生活空間の創出の実現に資する事業等を計画する。

#### (2) フォローアップの考え方

毎年度において、事業の進捗調査を行い、必要に応じて事業の見直しなど改善策を講じ、着実な事業推進を図る。

### [2] 具体的事業の内容

#### (1) 法に定める特別の措置に関連する事業等

該当なし

(2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 コリンザ再生事業</p> <p>○内容 大型空き店舗の改修による都市福利施設の整備</p> <p>○実施時期 H21～H27</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け コリンザ再生事業は、現在、市が区分所有している複合商業施設「コリンザ」をコンバージョンし、既存の市民小劇場「あしびなー」に加え、市民ニーズが高く、利便性の向上が求められている図書館を移転・整備することにより、中心市街地における都市福利施設の充実・強化を図る。併せて商業集積や雇用促進施設などの業務機能を強化することにより、中心市街地におけるビジネス拠点形成を形成する事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 特定中小商業集積施設であるコリンザに市民ニーズの高い図書館、雇用促進施設等の都市福利施設の配置を行う事で当該施設の再生と、まちなかのにぎわいを創出するために必要である。</p>	<p>○支援措置</p> <p>①中心市街地再活性化特別対策事業</p> <p>②社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（コリンザ地区）（計画コーディネート支援）</p> <p>③社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（コリンザ地区）（空きビル再生支援事業）</p> <p>④沖縄振興特別推進市町村交付金</p> <p>○実施時期</p> <p>①H26～H27</p> <p>②H25</p> <p>③H26～H27</p> <p>④H26～H27</p>	

<p>○事業名 中心市街地 就労等支援 事業</p> <p>○内容 中心市街地 における若 年者・子育 て世代・高 齢者等の就 労活動支援 及び就労者 に対する子 育て支援施 設</p> <p>○実施時期 H23～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置づけ 雇用情勢の厳しい若年者等の就労支援をはじめ、子育てや高齢者への支援等をワンストップで展開することにより、市民生活の安定・安心や地域経済の活性化を図る事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 中心市街地において就労支援および子育て支援施設を配置することにより、中心市街地における都市福利施設の充実と周辺商店街へのにぎわいの創出に寄与する施設として必要である。</p>	<p>○支援措置</p> <p>①緊急雇用創出事業（重点分野）</p> <p>②社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（コリンザ地区）と一体の効果促進事業</p> <p>③沖縄振興特別推進市町村交付金</p> <p>○実施時期</p> <p>①H23 ②H24 ③H25～H27</p>
---	------------	--	--

(2) ②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業  
該当なし

(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 コザ運動公園体育施設整備事業</p> <p>○内容 老朽化した体育館や野球場の改築及び(仮称)多目的センターの新設</p> <p>○実施時期 H20～H25</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け スポーツコンベンションシティを推進する本市にとって社会体育施設の充実、コミュニティ(地域)に根ざしたスポーツ活動をさらに促進するとともに平成22年度開催の「美ら島沖縄総体2010」におけるバスケットボールや新体操の主会場、高校バスケットボール「おきなわカップ」などの、国内外の各種スポーツ大会等を誘致開催し交流の拠点として推進する事業であると位置付けている。</p> <p>○必要性 老朽化した野球場のリニューアルを行い、「沖縄市人にやさしいまちづくり環境整備要綱」に基づいた野球場として改築することで、市民が等しく安全で快適にスポーツレクリエーション活動が行える場所を提供でき、健康増進が図られ、誰もが居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 民生安定施設設置助成事業 特定防衛施設周辺整備交付金</p> <p>○実施時期 H20～H25</p>	
<p>○事業名 文化活動拠点施設改修事業</p> <p>○内容 市民会館設備等改修</p> <p>○実施時期 H22～H30</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 都市福利施設である市民会館の館内設備の改修を実施する。 これにより、中心市街地における文化拠点として整備する事業と位置付けている。</p> <p>○必要性 現在、老朽化した市民会館の館内設備の改修を行うことにより、文化拠点の強化を図り、新たな芸能公演やコンサート等の誘致を行うことで、周辺商店街への波及が期待でき、まちの回遊性を高めることに寄与することから、コザ文化の魅力を生かしたにぎわいづくりをするために必要である。</p>	<p>○支援措置 ①民生安定施設設置助成事業 ②特定防衛施設周辺整備交付金 ③沖縄振興特別推進市町村交付金</p> <p>○実施時期 ①H22～H24 ②H22～H24 ③H25～H27</p>	

<p><b>○事業名</b> コザ小学校 校舎改築事 業（特別教 室）</p> <p><b>○内容</b> 老朽化した コザ小学校 の特別教室 改築事業</p> <p><b>○実施時期</b> H22～H24</p>	<p>沖縄市</p>	<p><b>○位置付け</b> こどもを核とした施策を展開するために、こどもたちの居場所をより安心・安全な環境として整える。さらに小学校を単位としたコミュニティ(地域力)の再生に向け地域住民の活動の場としての環境を整える事業として位置付ける。</p> <p><b>○必要性</b> 少子化の進む中心市街地においてこどもたちの居場所をより安心・安全な環境を整え、さらに小学校の再生に向け、地域住民の活動の場としての環境を整えることで、居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>	<p><b>○支援措置</b> 安全・安心な 学校づくり交 付金</p> <p><b>○実施時期</b> H22～H24</p>	
<p><b>○事業名</b> （仮称）社 会福祉セン ター・男女 共同参画セ ンター建設 事業</p> <p><b>○内容</b> 福祉活動拠 点施設整備 並びに男女 共同参画社 会の実現に むけた拠点 施設整備</p> <p><b>○実施時期</b> H20～H22</p>	<p>沖縄市</p>	<p><b>○位置付け</b> 社会福祉施設・医療施設などの立地促進並びにコミュニティ（地域力）の再生を図る事業として位置付けている。</p> <p><b>○必要性</b> 地域福祉の拠点施設となるべく、複合施設を整備し、福祉活動拠点施設間のネットワークを推進するとともに、男女共同参画社会の推進に向けて活動拠点の充実を図るものであり、誰もが居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>	<p><b>○支援措置</b> 電源立地地域 対策交付金</p> <p>民生安定施設 設置助成事業</p> <p><b>○実施時期</b> H20～H22</p>	

**(4) 国の支援がないその他の事業**

該当なし

## 6. 公営住宅等を整備する事業、中心市街地共同住宅供給事業その他の住宅の供給のための事業及び当該事業と一体として行う居住環境の向上のための事業等に関する事項

### [1] 街なか居住の推進の必要性

#### (1) 街なか居住の推進の必要性

本市全体の人口・世帯数は増加傾向にあるものの、中心市街地では人口減少、世帯微増となっており、市全体と比べて老年人口の比率が高い（市全体 14.3%、中心市街地 22.2% H17 国勢調査）。

市民アンケート調査では、中心市街地への居留意向について、「住みたい(住み続けたい)」が 35.2%、「住みたくない(住み続けたくない)」が 55.9%となっており、住みたくないとの回答が多数を占めている。これは中心市街地における交通渋滞、安心して歩ける歩行環境や都市福利施設の充実不足、魅力ある商業店舗の不足等、現状の市街地環境が要因の一つになっているものと考えられる。

しかし、中心市街地の活性化を図る上では、中心市街地の定住人口を維持し、まちのにぎわいを取り戻すことが不可欠であるため、市街地の整備改善事業や商業活性化策等と合わせて、多世代居住・高齢者居住に対応した、定住人口の確保に資する住宅供給等を促進していくことが必要である。

こうしたことを踏まえ、公営住宅の確保や、民間による住宅供給の促進等、街なか居住の推進に資する事業等を計画する。

#### (2) フォローアップの考え方

毎年度において、事業の進捗調査を行い、必要に応じて事業の見直しなど改善策を講じ、着実な事業推進を図る。

### [2] 具体的事業の内容

#### (1) 法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

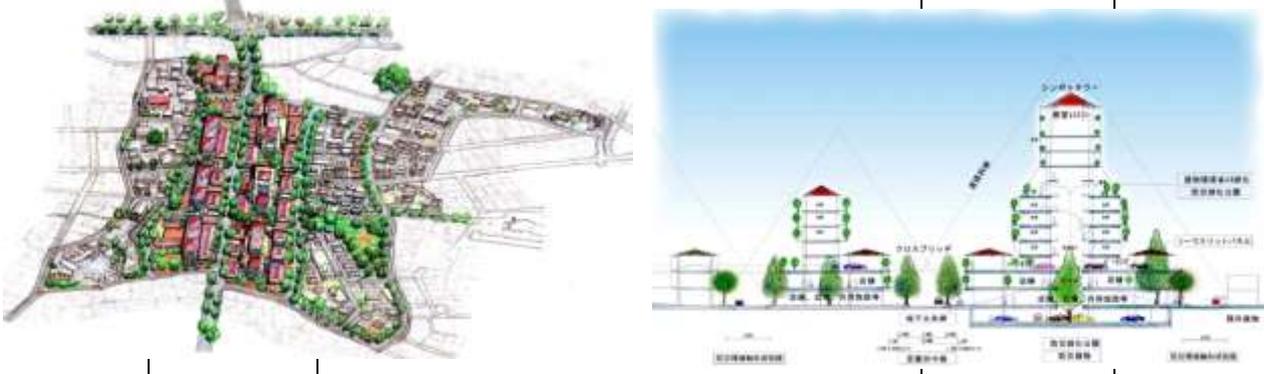
(2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 安慶田地区土地区画整理事業 【*再掲】</p> <p>○内容 土地区画整理事業による幹線道路や生活道路等の整備</p> <p>施行面積 8.7ha</p> <p>○実施時期 H21～H30</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 商業地に隣接する老朽化した密集住宅地である安慶田地区において、多様な世帯に対応した住宅供給やコミュニティ（地域力）の再生を図る事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 老朽密集住宅地の改善及び防災環境軸形成等を行うことで安心・安全な住環境が形成される。また、既存のコミュニティを維持しつつ、老朽密集住宅地の改善及び防災環境軸形成等を行い、安全・安心な住環境を形成し、街なか居住の促進を図るものであり、居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 社会資本整備総合交付金（都市再生区画整理事業）</p> <p>○実施時期 H22～H27</p>	
				
<p>安慶田地区鳥瞰イメージ</p> <p>安慶田地区街区断面イメージ</p>				
<p>(安慶田地区土地区画整理事業計画等委託業務報告書より)</p>				

<p>○事業名 山里第一地区市街地再開発事業 【*再掲】</p> <p>○内容 まちなか居住等の推進のための第1種市街地再開発事業 区域面積 約1.3ha 延床面積 約24,000㎡</p> <p>○実施時期 H22～H27</p>	<p>沖縄市山里第一地区市街地再開発組合</p>	<p>○位置付け 多様な世帯に対応した住宅供給や社会福祉施設・医療施設などの立地促進によりコミュニティ（地域力）の再生を図る事業として位置付ける。</p> <p>○必要性 地域の生活拠点の核づくりを目指し、住宅棟、商業施設棟のほか、スポーツ施設など地域の生活利便性ならびに公益性の高い施設を整備することにより、街なか居住の促進を図るものであり、誰もが居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）</p> <p>○実施時期 H24～H27</p>	
				
<p>全体イメージ</p>		<p>計画平面イメージ</p>		
<p>(沖縄市山里第一地区市街地再開発事業の事業計画素案の概要より)</p>				

<p>○事業名 沖縄市中心市街地定住促進事業</p> <p>○内容 中心市街地の定住促進を図るため、家賃補助等を実施し、まちなか居住の促進を図る。</p> <p>○実施時期 H23～H26</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置づけ まちなかにおける定住促進を行うことにより、既存ストックの活用と都市インフラ整備の負担軽減を図るとともに、コンパクトで住みやすいまちを実現するための事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 まちなか居住の定住促進を図るために、中心市街地への転入を促進するため、インセンティブとして家賃補助等を行うことにより、住む人目線による良好な生活空間の創出を図る上で必要な事業である。</p>	<p>○支援措置 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（コリンザ地区）と一体の効果促進事業）</p> <p>○実施時期 H23～H26</p>	
--	------------	---	---	--

(2) ②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 安慶田地区 土地区画整 理事業 【*再掲】</p> <p>○内容 土地区画整 理事業によ る幹線道路 や生活道路 等の整備</p> <p>施行面積 8.7ha</p> <p>○実施時期 H21～H30</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 商業地に隣接する老朽化した密集住宅地である安慶田地区において、多様な世帯に対応した住宅供給やコミュニティ（地域力）の再生を図る事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 老朽密集住宅地の改善及び防災環境軸形成等を行うことで安心・安全な住環境が形成される。また、既存のコミュニティを維持しつつ、老朽密集住宅地の改善及び防災環境軸形成等を行い、安全・安心な住環境を形成し、街なか居住の促進を図るものであり、居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 社会資本整備 総合交付金 （道路事業 （区画））</p> <p>○実施時期 H22～H23</p>	
 <p>安慶田地区鳥瞰イメージ</p> <p>安慶田地区街区断面イメージ</p> <p>(安慶田地区土地区画整理事業計画等委託業務報告書より)</p>				

<p>○事業名 安慶田市営住宅建替え事業</p> <p>○内容 市施工の公営住宅建替事業</p> <p>○実施時期 H24～H29</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 多様な世帯に対する住宅供給や社会福祉施設等の併設によりコミュニティ（地域力）の再生を図る事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 建築後40余年が経過し老朽化が著しい市営安慶田団地を建替え、市民の安全確保及び住宅困窮者に対するセーフティネットとしての役割を果たすものであり、誰もが居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業）</p> <p>○実施時期 H24～H29</p>	
---	------------	--	---	--

**(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業**

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 沖縄市地域おこし協力隊事業</p> <p>○内容 中心市街地の新たな担い手作りやまちなか居住の促進事業</p> <p>○実施時期 H22～H26</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け コザ文化が凝縮したまちそのものの雰囲気や資源として積極的に活用するとともに地域おこし協力隊事業終了後も本市に定住・定着するための就職支援・生活支援等を実施することにより定住人口の増加につなげる事業として位置付けられている。</p> <p>○必要性 沖縄市は歴史的な背景や独特の文化など貴重な地域資源を有しており、外部からの視点として住みたい街ランキングにおいても上位に入っている。こうした特性を踏まえ、地域おこしに意欲のある都市住民を沖縄市の中心市街地の活性化の担い手として呼び込み、中心市街地において開催される地域行事や伝統芸能等コミュニティ活動の応援を通じてにぎわいの創出を図るとともに、にぎわいづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 地域おこし協力隊</p> <p>○実施時期 H22～H26</p>	

(4) 国の支援がないその他の事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	国以外の支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 中心市街地共同住宅供給促進事業</p> <p>○内容 民間事業者への情報提供・協力などにより共同住宅の建設を誘発する。</p> <p>○実施時期 H23～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 「中心市街地共同住宅供給事業」等を活用し、民間事業者の共同住宅建設を誘導することにより、中心市街地における住宅供給を促進、コミュニティの再生を図る事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 本市の中心市街地はもともと公共交通の便がよく、公共機関も数多く立地しており、元来利便性の高い地域である。このようなまちの利便性をさらに活かすために民間の活力を導入し、居住空間を中心市街地に確保することは、誰もが居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>		<p>今後、中心市街地共同住宅供給事業の活用を検討する。</p>

## 7. 中小小売商業高度化事業、特定商業施設等整備事業その他の商業の活性化のための事業及び措置に関する事項

### [1] 商業の活性化の必要性

#### (1) 商業の活性化の必要性

中心市街地の商店街は、消費者ニーズの多様化や郊外及び隣接市への大型店の立地等による影響を受け、近年は空き店舗が増加し、衰退の傾向にある。また、TMO事業として、空き店舗対策を目的としたドリームショップ事業が、平成12年度から平成17年度まで実施されてきたが、経営者と所有者の連携不足が見られるなど、総じて「組織的、横断的な取り組み」といった連携の不足があったことや個別的・点的な商業機能のみの空き店舗活用であったことから、定着率が低くなっており、平成20年3月末までに営業稼業しているのは3割程度である。

しかし、中心市街地の活性化を図る上で商店街の活性化は不可欠であり、市民アンケート調査においても、早い時期から重点的に取り組むべき事項として、「商店街の充実等による商業活性化」が最も多くあげられている。

本市の中心市街地は、各種都市機能が集積している。さらには集客イベントが年間を通して多数行われ、郊外部には無い魅力と強みを有しており、店舗の個性化や効果的な情報発信、コザ・ミュージックタウンをはじめとする集客施設やイベントとの連携等により商業の活性化を図っていく必要がある。

こうしたことを踏まえ、中心市街地内商店街におけるにぎわいの創造に向けて、買い物環境を向上させるためのハード整備や、各種ソフト事業等の必要な事業を計画する。

#### (2) フォローアップの考え方

毎年度において、事業の進捗調査を行い、必要に応じて事業の見直しなど改善策を講じ、着実な事業推進を図る。

## [2] 具体的事業の内容

### (1) 法に定める特別の措置に関連する事業等

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 胡屋地区商店街商業環境整備事業</p> <p>○内容 商店街の共同施設の改修等による商業環境整備 第1期：採光屋根取替え、街灯設置、イベント照明設置等 第2期：LED照明設置、防犯カメラ設置、ファサード整備等</p> <p>○実施時期 H23～</p>	<p>沖縄市一番街商店街振興組合・沖縄市サンシティ商店街振興組合</p>	<p>○位置付け 中心市街地の中核的な商店街である一番街商店街及びサンシティ商店街において、商業環境整備としてアーケードの一部改修等を実施することにより、商環境のイメージを向上させ、商店街の活性化を図る。併せて、アーケード空間を活かした集客イベントの展開によるにぎわい創出、空き店舗等の有効活用による魅力ある店舗の創出、回遊性の向上や滞留促進に資する仕組みの導入等により、商業環境整備との相乗効果を図り、にぎわい再生、商店街の魅力向上、中心市街地の商業活性化を実現するための事業として位置づけている。</p> <p>○必要性 一番街商店街、サンシティ商店街は、まちなかのほぼ中央に立地し、「まちの顔」としてふさわしい明るく安全安心で快適な商業空間の整備が求められており、中心市街地におけるにぎわいづくり、商業地としての魅力再構築、商業の活性化を図るために必要である。</p>	<p>○支援措置 中小小売商業高度化事業に係る特定民間中心市街地活性化事業計画の主務大臣認定</p> <p>○実施時期 H23</p>	<p>戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金を活用</p>
<p>○当該中小小売商業高度化事業が、当該中心市街地内における他の商店街等への商業活性化に係る取組にもたらす影響（当該商店街等及び当該中心市街地内における他の商店街等の来街者数の現況等）</p>				
<p>一番街商店街及びサンシティ商店街は、沖縄市の中心市街地のほぼ中央に立地し、一番街商店街については、昭和49年の沖縄市の誕生とともに生まれた商店街で、沖縄県下で一番最初にアーケード化した商店街として知られている。また、隣接するサンシティ商店街は、昭和57年にアーケードの設置とともに誕生した商店街で、アメリカ文化の影響を強く受けた独特の景観を有する県道20号線と一番街商店街を結ぶ商店街となっている。戦後、嘉手納基地の門前町として形成されていった同商店街は、現在でも米軍人が多く訪れるため、看板には日本語と英語を併記する店が多い。</p> <p>同商店街は、沖縄県における主要道路である国道330号線沿いに面しており、沖縄県南北を繋ぐ交通の要所となっている。また、胡屋地区には、一番街商店街及びサンシティ商店街をはじめ、センター商店街、ゲート通り会、パルミラ通り会、胡屋大通り会、ショッピング通り会、ゴヤ市場組合の8つの商店街、通り会、市場が存在。平成19年には、音楽を活用したまちづくりの拠点となる「コザ・ミュージックタウン」がオ</p>				

オープン。同商店街は、沖縄市を代表するイベントや祭りにおいても、イベントの主会場となるなど中核的な役割を果たしてきた。現在、隣接する商店街及び通り会と共にコザ商店街連合会を組織し、連携を図ってイベントを実施。胡屋地区が一体となり総力を挙げて活性化に取り組んでいる。

同商店街においては、まちづくりNPOによる胡屋地区リノベーション事業が実施され、活性化事業の芽が出ているが、一方で、既存のアーケードでは、屋根の劣化や汚れにより昼間でも薄暗く、商店街のイメージが損なわれており、現在展開している活性化事業による効果が限定的になってしまっている。

各種活性化事業の効果を最大限に活かすためには、現在の暗いイメージを与えるアーケードを明るく開放的な空間に変える必要がある。

沖縄の気候風土にあった「コザらしい生活ができるまち」、交流街という快適な商空間の実現を図るためには、地域資源を活かした取組みと既存設備を最大限に活用した環境整備が必要であり、当該事業は、「まちの顔」としての当該商店街の再生となるほか、近隣商店街への回遊・滞留性も向上し、にぎわいが波及することが期待される。

歩行者通行量調査

単位：人

調査地点		平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	
サンシティー商店街	旧観光協会前	平日	1,180	1,140	1,198	886	758	708
		休日	454	508	502	502	352	466
一番街商店街	KGA前	平日	780	840	1,128	812	664	440
		休日	428	428	790	706	332	496
センター商店街	トモヤス時計店前	平日	1,342	1,532	1,362	1,054	1,080	1,020
		休日	996	1,220	1,156	936	784	670
コザゲート通り会	明光めがね前	平日	706	608	608	716	580	638
		休日	840	658	658	844	710	688
ミュージックタウン商店会	ミュージックタウン前	平日	574	507	550	553	674	1,488
		休日	203	213	233	250	208	1,560
合 計		平日	4,582	4,627	4,846	4,021	3,756	4,294
		休日	2,921	3,027	3,339	3,238	2,386	3,880

※平成21年よりコザ・ミュージックタウン前を調査地点に追加している。当該調査地点に係る平成17年から平成20年までの数値は、他調査地点のトレンドによる推計値である。

コザ・ミュージックタウンにおける活性化事業では、着実にその効果をあげ、隣接する同商店街の歩行者通行量が微増傾向となるなど、波及効果がみられ、また、回復のポテンシャルも有している。その効果をまちなか全体でどう活かすか、周辺地域においても連続的に活性化策に取り組むことが重要であり、その効果を持続させる上でも、当該事業は必要である。

○個店の活力や集客力、営業状態等が全体の魅力の向上にどのように結び付き、また逆に、商店街の特性や共同事業の成否が構成店舗の活力の向上にどのように結び付いているのか、「個々の取組」と「共同的な取組」との連動内容

全蓋式アーケードは、沖縄県特有の気候である厳しい日照や突然のスコールのような雨風を避け、商業活動や商店街活性化の催事を開催するため、また、商店街を訪れる来街者がゆっくりと買い物ができるために不可欠な施設である。

一番街商店街内には、商店街等が実施する空き店舗活用事業として「商店街交流ひろば・コザBOX」が設置され、商店間や各種団体との連携を強化し、地域コミュニティー創出の拠点として機能している。また、アーケードを活かした「一番街七夕まつり」では、各店主が創意工夫を凝らした装飾により誘客を図り、振興組合設立当初から行われている歴史あるイベントとして継続されている。

各個店においては、自慢の商品・サービスをお互い検討しあいながら、商店としてのPRや魅力を高める一店逸品運動を展開。また、個店の売上向上に資するプレミアム付き商品券や割引クーポン付チラシの配布により商店街の活性化を図ってきた。

今後は、現在まで取り組んできたイベントの体系的な実施、アーケードの再整備を契機として、市民を巻き込んだ新たな事業として、「集客事業」「魅力ある店舗の創出事業」「回遊・滞留事業」の3つに大別した活性化事業を実施し、個店の取組と共同事業とを更に連動させ、商店街全体のイメージアップを図り、目標達成を目指す。

### ○当該中小小売商業高度化事業に影響を与える空き店舗数・率の現況

中心市街地内の主な商店街・通り会における空き店舗の状況については、第1章[3]中心市街地の現状分析(P16～17)に記載のとおり。

同商店街においても、依然として厳しい状況にあるが、当該事業の実施により周辺地域を含めた空き店舗率の改善が期待される。

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
一番街商店街 空き店舗率	31.3% (35/112)	31.8% (35/110)	30.8% (32/104)	30.8% (32/104)	40.4% (42/104)	37.3% (38/102)
サンシティ商店街 空き店舗率	26.0% (13/50)	27.7% (13/47)	31.8% (14/44)	41.5% (17/41)	46.3% (19/41)	41.9% (18/43)
合計	29.6% (48/162)	30.6% (48/157)	31.1% (46/148)	33.8% (49/145)	42.1% (61/145)	38.6% (56/145)

### ○文教施設、医療施設、公共事業等まちの諸事業と連動した中小小売商業高度化事業であること

毎年行われている「一番街七夕まつり」は、振興組合設立当初から行われている歴史あるイベントで、沖縄市内の保育所などと連携して飾付けを行っている。また、文化芸術により未来を担う人材の育成を図る「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ(キジムナーフェスタ)」においては、世界各国からの出演者を商店街で迎え入れようと、「ディープコザ大パーティー」を連動して開催。アーケード内にて沖縄の伝統芸能であるエイサーの演舞で迎え入れた。

今後も、伝統芸能であるエイサーの演舞を定期開催する「エイサーナイト」の実施や市内小中高生の吹奏楽部がまちなかで演奏する「プロムナードコンサート」の拡充、市民活動支援センターやまちなか診療所の設置等を進め、良好な生活空間の創出を図る。

#### 【一番街・サンシティ商店街活性化コンセプト・基本方針】

「輝け！響け！みんなのコザっ家」～つくるぞつなぐぞコザ「新」ルネッサンス～

- 基本方針① コザ文化を活用した交流人口の拡大によるにぎわいの創造
- 基本方針② 市民ニーズに即した空き店舗等の有効活用による魅力ある店舗の創出
- 基本方針③ 回遊性の向上や滞留促進に資する仕組みの導入
- 基本方針④ 明るく誰もが安全安心で快適な商業空間の創出
- 基本方針⑤ 持続可能な商店街組織の構築

(2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 胡屋地区リノベーション事業</p> <p>○内容 空き店舗を活用したチャレンジショップ等の設置、運営</p> <p>○実施時期 H22～</p>	<p>NPO法人 コザまち社 中</p>	<p>○位置付け 胡屋地区リノベーション事業では、商環境の悪循環の原因となっている長期空き店舗物件を改修し、公共的な施設やチャレンジショップの機能を再配置することで、生活の中の商店街を提案し、まちのイメージアップにつながる事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 長期空き店舗を改修し、コミュニティー施設や新規商業者向けのチャレンジショップを設置、運営することで商店街の活性化を図り、まちのイメージアップを図り、にぎわいを創出するために必要である。</p>	<p>○支援措置 戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金</p> <p>○実施時期 H22～H24</p>	
<p>○事業名 プロムナードコンサート事業</p> <p>○内容 沖縄市の地域資源である音楽を活かした賑わい創出事業</p> <p>○実施時期 H22～</p>	<p>沖縄商工会 議所</p>	<p>○位置付け コザ文化が凝縮したまちそのものの雰囲気や資源として積極的に活用するとともに効果的な情報発信を行い、中心市街地におけるまちなかコンサートを開催する。併せて、商店街での売上向上に反映する取り組みを行うことで、地域の認知度を高めコザへの誘客を促し、地域の活性化と文化力向上のための事業として位置付けられている。</p> <p>○必要性 沖縄市の小・中・高校の吹奏楽については、コンクールにおいて全国大会へ出場するなど非常にレベルが高い。また、中心市街地には、ライブハウス等が多数存在し、本市出身のミュージシャンが活躍している。このような地域資源を最大限活かし、プロムナードコンサート事業を実施する。併せて商店街等で個店の売上向上に資するプレミアム付き商品券や割引クーポン付きチラシの配布により中心市街地の商店街等の活性化、個店及び商店街全体の魅力向上、にぎわいの創出、音楽に係る人材育成、音楽文化の振興を図るために必要である。</p>	<p>○支援措置 戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金</p> <p>○実施時期 H22</p>	

<p>○事業名 ミュージック タウン音市場 事業</p> <p>○内容 沖縄市の地域 資源である音 楽を活かした まちづくり事 業</p> <p>○実施時期 H22～</p>	<p>株式会社ミ ュージック ウェーブ</p>	<p>○位置付け 音楽によるまちづくりの中核施設であるミュージックタウン音市場を活用し、観光客を含む来街者の誘致を目的とした新たな沖縄風エンターテインメントショーの創作及び定期公演を実施する。これにより、音楽文化の創造、人材育成、音楽関連産業振興、市民参加による地域の賑わいを形成し、中心市街地のにぎわい創出と音楽によるまちづくりを図る事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 音楽によるまちづくりを推進するために、指定管理者が自主性・主体性をもって企画し、業界ネットワークや専門性を最大限に生かし、民間の能力を活かした事業を行うことはとても重要であり、中心市街地のさらなるにぎわいの創出につなげるために必要である。</p>	<p>○支援措置 戦略的中心市 街地商業等活 性化支援事業 費補助金</p> <p>○実施時期 H22</p>	
<p>○事業名 ミュージック タウン推進事 業（音のペー ジェント事 業）</p> <p>○内容 沖縄市の地域 資源である音 楽を活かした まちづくり事 業</p> <p>○実施時期 H20～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け ミュージックタウン音市場、音楽広場、ライブハウス及び商店街等において、本市の音楽によるまちづくりを発信する「音楽見本市」としてスタートし、H24年度からは沖縄の伝統音楽、民族芸能、民謡等にコンセプトを絞った音楽イベントとして開催。商店街等地域と連携したまちぐるみの音楽イベントとして、まちなかの効果的な回遊性をもたらす事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 平成19年度に建設されたミュージックタウン音市場（音楽によるまちづくりの中核施設）を中心に、特色ある音楽・芸能イベントやストリートパフォーマンスの開催等によるまちの演出を図るものであり、音楽を通じたにぎわいづくりを推進する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 ①中心市街地 活性化ソフト 事業 ②沖縄振興特 別推進市町村 交付金</p> <p>○実施時期 ①H22～H24 ②H25～H27</p>	

<p>○事業名 食とアートと交流の街づくり事業</p> <p>○内容 空き店舗を活用した地域再生支援</p> <p>○実施時期 H20～H25</p>	<p>沖縄市・沖縄市銀天街商店街振興組合</p>	<p>○位置付け 安全で快適に買い物ができる商店街の環境づくりのために銀天街（コザ十字路地域）のシャッターを開け、空き店舗などを地域活動の場として積極的に活用することによりコミュニティ（地域力）や「従来の商店街の機能※」の再生を図るための事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 銀天街地区の活性化に向けて「食とアートと交流の街づくり」をテーマとし、空き店舗の解消とともに地域コミュニティの再生を図り、顔の見える生活の場・学びの場としてのまちづくり、商店街のにぎわいづくりにつなげていく上で必要である。</p> <p>※①「商い」を行う場であるとともに、地域の住民が集うことで、お互いの顔が見える安心感【防犯セーフティネット】②地域全体で子どもたちを育てる認識【教育】③個々人が持っている情報・知識・技術の交換といった教え合い・学び合いの精神【文化の継承】</p>	<p>○支援措置 中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 H22～H25</p>	
<p>○事業名 商店街交流促進事業</p> <p>○内容 商店街等が実施する空き店舗活用事業に対する支援</p> <p>○実施時期 H19～</p>	<p>沖縄市・沖縄市工芸産業振興会・沖縄市シルバー人材センター・コザ商店街連合会</p>	<p>○位置付け 空き店舗などを地域活動の場として積極的に活用し、店舗の個性化・コンセプトの明確化を図る。さらには、商店街におけるコミュニティ（地域力）の再生を図る事業として位置付けられている。</p> <p>○必要性 商店街等が自ら中心市街地の空き店舗を活用して、商店街の組織力強化や中心市街地のにぎわい創出、コミュニティの再生等を促進し、本市産業の振興を図るとともに、商店街のシャッターを開ける呼び水効果を促し中心市街地の活性化を実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 ①中心市街地活性化ソフト事業 ②社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（コリンザ地区）と一体の効果促進事業）</p> <p>○実施時期 ①H22～H23、H25～H27 ②H24</p>	

<p>○事業名 商店街再生チャレンジショップ事業</p> <p>○内容 商店街の空き店舗への出店に係る支援</p> <p>○実施時期 H25～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 市と商店街等が協働して空き店舗対策を実施することにより、商店街の組織力を強化し商店街の活力を高めるとともに、中心市街地の賑わい創出など、中心市街地の活性化を図る事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 商店街等の空き店舗を活用して営業を開始する事業者に対し支援を行うものであり、商店街の活性化及び中心市街地の賑わい創出を図る上で必要である。</p>	<p>○支援措置 中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 H26～H27</p>	
<p>○事業名 商店街賑わい創出事業</p> <p>○内容 地域イベント（商店街）</p> <p>○実施時期 H20～</p>	<p>沖縄市・コザ商店街連合会</p>	<p>○位置付け 商店街が自ら行うイベントの効果的な実施により、まちの活性化を図る事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 街路樹等へのイルミネーション事業やイベント事業（ゲート#2フェスタ、セントパトリックスデイ他）等を開催し、商店街への誘客、イメージアップ等を図るものであり、大型商業施設との差別化を図り、商店街のにぎわいづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 H22～H27</p>	
<p>○事業名 銀天街まつり</p> <p>○内容 地域イベント（商店街）</p> <p>○実施時期 H14～H25</p>	<p>沖縄市・沖縄市銀天街商店街振興組合</p>	<p>○位置付け コザ文化が凝縮したまちそのものの雰囲気や資源として積極的に活用し商業者と地域住民が主体となり定期的なまつりを開催することで、効果的なイベント展開を図る事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 コザ十字路地域に位置する銀天街の活性化など充実発展に向け、「食とアートと交流の街」をキャッチフレーズとしたイベントなどの事業を企画運営するものであり、にぎわいづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 H22～H23</p>	

<p>○事業名 沖縄市ファッションタウン推進事業</p> <p>○内容 地域ブランドの創出、人材育成</p> <p>○実施時期 H3～</p>	<p>沖縄市・沖縄市ファッションタウン推進協議会</p>	<p>○位置付け ものづくりと街づくりが一体となった、魅力あるファッションタウンの実現を目指すとともに、市内産業の振興、地域ブランドの創出、担い手育成を行う事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 沖縄市ファッションタウン協議会においては、これまで次世代の担い手育成に苦慮しており、協議会の高齢化が問題視されてきたが、最近から、若手クリエイター・デザイナーが中心となったイベント「KOZAZOK」が開催され、地域ブランドの情報発信を市内外に行っており、同協議会の担い手の人材育成事業として必要である。</p>	<p>○支援措置 中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 H22～H26</p>	
<p>○事業名 エイサーのまち推進事業</p> <p>○内容 伝統芸能文化であるエイサーを積極活用したまちづくり事業の展開</p> <p>○実施時期 H19～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 「エイサーのまち沖縄市」として地域資源である伝統文化のエイサーを積極的に活用し、イベントの実施体制・計画等の効果的なあり方を図るとともに次世代の育成に結びつけるなど、エイサーによるまちづくりを推進するための事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 沖縄市の地域資源であるエイサーを活用したまちづくりの機運が高まっており、具現化に向けた取り組みが求められている。観光振興計画による計画的な事業展開やエイサーを活かした商品開発・観光ツアーを展開し中心市街地を震源地としてまち全体のにぎわいづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 ①中心市街地活性化ソフト事業 ②社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（コリンザ地区）と一体の効果促進事業） ③沖縄振興特別推進市町村交付金</p> <p>○実施時期 ①H22～H23 ②H24 ③H25～H27</p>	

<p>○事業名 沖縄全島エイサーまつり</p> <p>○内容 地域イベント (伝統芸能)</p> <p>○実施時期 S49～</p>	<p>沖縄全島エイサーまつり実行委員会・沖縄市</p>	<p>○位置付け 地域資源であるエイサーを積極的に活用することにより活用・実践の場を伴う人材育成とともに観光産業発展のための事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 伝統芸能エイサーの継承発展、青少年の育成さらには「エイサーのまち沖縄市」としての発展を目指し、沖縄最大のエイサー祭り「沖縄全島エイサーまつり」を開催するものであり、中心市街地に人を呼び込みにぎわいづくりにつなげていく上で必要である。</p>	<p>○支援措置 中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 H22～H27</p>	
<p>○事業名 ピースフルラブ・ロックフェスティバル</p> <p>○内容 地域イベント (音楽)</p> <p>○実施時期 S58～</p>	<p>ピースフルラブ・ロックフェスティバル実行委員会・沖縄市</p>	<p>○位置付け 地域資源である音楽を積極的に活用し、中心市街地内の商店街に数多くあるライブハウスなどと連携した活用・実践の場を伴う人材育成のための事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 真夏の一大イベントであるピースフルラブ・ロックフェスティバルを開催することにより、観光客の誘客拡大や観光関連産業の活性化を図るものであり、中心市街地に人を呼び込みにぎわいづくりにつなげていく上で必要である。</p>	<p>○支援措置 中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 H22～H27</p>	
<p>○事業名 沖縄国際カーニバル</p> <p>○内容 地域イベント (国際文化観光)</p> <p>○実施時期 S50～</p>	<p>沖縄国際カーニバル実行委員会・沖縄市</p>	<p>○位置付け 100人に1人の割合で外国人が住んでいる沖縄市において、多くの国々の人々が交流を持つ拠点の形成に向け、また、コザ文化が凝縮したまちそのものの雰囲気や資源として積極的に活用するための事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 沖縄市の個性を強烈に印象付けるコザゲート通りをはじめとする胡屋地域において、カーニバル開催により市民の融和と産業の活性化を図るとともに、国際色豊かで音楽や芸能を中心に文化活動の盛んな本市の特性を内外にアピールすることで観光客の誘客につなげ、にぎわいづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 H22～H27</p>	

<p>○事業名 工芸による街づくり事業</p> <p>○内容 地域ブランドの創出、人材育成</p> <p>○実施時期 H12～</p>	<p>沖縄市・沖縄市工芸フェア実行委員会</p> <p>沖縄市工芸産業振興会</p>	<p>○位置付け 工芸産業振興会及び沖縄市工芸フェア実行委員会は、「沖縄市工芸による街づくり事業」を推進する一環として、工芸産業の振興に関する情報発信及び工芸作品の作り手と使う人との交流の場を提供することにより、工芸に対する市民の意識啓発や工芸従事者の生産意欲の高揚、販路拡充に向けた積極的な事業展開を図ることを目的としている。</p> <p>○必要性 沖縄市が、平成12年度より推進している「沖縄市工芸による街づくり事業」のなかで、本市の伝統工芸「知花花織」の復興事業の成果PRの場として重要であり、沖縄市工芸コンテストでは市内県内から多くの工芸品が出品され、若手工芸家らの登竜門としてのステータスを築きつつある。また、県内外へ広く発信し参加を呼び掛け、異業種間交流による切磋琢磨を通し、更なる技術高揚や市内の工芸従事者の生産意欲の高揚に繋げることにより、工芸産業の振興及び地域振興へ大きく寄与する事業として必要である。</p>	<p>○支援措置 ①中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>②沖縄振興特別推進市町村交付金</p> <p>○実施時期 ①H22～H23 ②H24～H27</p>
<p>○事業名 中心市街地活性化支援事業</p> <p>○内容 中心市街地活性化支援員の導入 コザ講座（商人塾・創業塾）の開催 効果的な戦略事業の展開・実施に対する調査・支援等</p> <p>○実施時期 H20～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 商店街に不足している機能として、活性化対策を展開・実施・支援する人材があげられる。そのような中、商店街の組織力強化とともに店舗の個性化、コンセプトの明確化を図りながら活用・実践の場を伴う人材育成につなげていく事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 中心商店街は、中小零細企業が多く、商店街の経営基盤も脆弱なものとなっていることから、市と商店街との調整役を担う中心市街地活性化支援員を導入し、各商店街が抱える課題解決に向けた指導助言を行うと共に、戦略事業の具体化のための調査から展開・実施に対する支援を行なう。これらは、商店街の賑わいづくり、地域活性化のための人づくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 H23～H27</p>

<p>○事業名 沖縄市戦後文化資料等展示事業</p> <p>○内容 資料展示、歴史・文化講座（講演会）、研究叢書の発刊等</p> <p>○実施時期 H17～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け コザ文化が凝縮したまちそのものの雰囲気 を資源として積極的に展開するために空き店舗 を活用し、情報発信を行うことでまちの効果 的な回遊性を図る事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 空き店舗を活用し設置した沖縄市戦後文化 資料等展示室（ヒストリート）を中心に沖縄戦 後文化の情報発信を行い、街なかへの誘客を図 るとともに、本市の歴史や文化に関する市民の 学習機会を拡充するものであり、街なかでのに ぎわいづくり、人づくりを実現する上で必要で ある。</p>	<p>○支援措置 中心市街地活 性化ソフト事 業</p> <p>○実施時期 H23～H27</p>	
<p>○事業名 こどものまち 推進事業</p> <p>○内容 沖縄こども未 来ゾーンを拠 点とした、こ どものまち推 進事業</p> <p>○実施時期 H20～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け こどもたちが元気に夢に向かってたくまし く育つ環境をつくることを目的に、こどもを核 とした各種施策を体系的・戦略的に展開する事 業として位置付けられている。また、そのこと によりこどものまちを推進する人材の育成等 を図ることも実施している。</p> <p>○必要性 こどもたちにやさしいまちづくりを進める 上で、コミュニティ（地域力）の再生に取り組 むために、事業の柱として、①「ネットワーク づくり」、②「人づくり」、③「場づくり」を展 開していくものであり、核家族化・都市化現象 が進行するなかで、こどもたちを見守り育んで いく地域社会を構築していく上で必要である。 *市民との協働を重視しながら、沖縄こども未 来ゾーンを拠点に、こどものまちを推進してい く。 *こども議会を開催し、こどもたちの視点から まちづくりに対する調査・研究・提言等を行う。</p>	<p>○支援措置 中心市街地活 性化ソフト事 業</p> <p>○実施時期 H23～H27</p>	

<p><b>○事業名</b> プロムナード コンサート支 援事業</p> <p><b>○内容</b> 音楽によるま ちづくりをP Rするため沖 縄商工会議所 が実施するコ ンサート事業 を支援する。</p> <p><b>○実施時期</b> H23～</p>	<p>沖縄市</p>	<p><b>○位置付け</b> 沖縄市の地域資源である音楽文化を活用し た中心市街地におけるまちなかコンサートを 開催し、地域の認知度を高めコザへの誘客を促 し、地域の活性化と文化力向上のための事業と して位置付けられている。</p> <p><b>○必要性</b> 沖縄市の小・中・高校の吹奏楽については、 コンクールにおいて全国大会へ出場するなど 非常にレベルが高い。また、中心市街地には、 ライブハウス等が多数存在し、本市出身のミュ ージシャンが活躍している。このような地域資 源を最大限活かし、プロムナードコンサート事 業を実施し、中心市街地の商店街等の活性化と にぎわいの創出、音楽に係る人材育成、音楽文 化の振興を図るために必要である。</p>	<p><b>○支援措置</b> 中心市街地活 性化ソフト事 業</p> <p><b>○実施時期</b> H23～H27</p>	
<p><b>○事業名</b> 中心商店街駐 車場利用促進 事業</p> <p><b>○内容</b> 中心商店街に おける駐車場 利用促進のた めに一定時間 利用券を配付 する事業</p> <p><b>○実施時期</b> H23～H27</p>	<p>沖縄市</p>	<p><b>○位置付け</b> 中心市街地における商業機能の再生を目指 すとともに、中心市街地における民間駐車場の 利用促進を図り、商店街のにぎわい創出に寄与 する事業として位置付けている。</p> <p><b>○必要性</b> 中心市街地に誘客を図るため、商店街利用者 を対象として一定時間の無料利用券を配布し、 民間駐車場の利用を促すことにより、商店街の にぎわい創出と商店街周辺に駐車場が多くあ ることを広く認知させるために必要である。</p>	<p><b>○支援措置</b> ①中心市街地 活性化ソフト 事業</p> <p>②社会資本整 備総合交付金 (暮らし・に ぎわい再生事 業(コリンザ 地区)と一体 の効果促進事 業)</p> <p><b>○実施時期</b> ①H23、H25～ H27</p> <p>②H24</p>	

<p><b>○事業名</b> 沖縄市中心市街地産業集積支援事業</p> <p><b>○内容</b> 中心市街地への産業集積を図るため開業に要する設備等に対し補助を行う。</p> <p><b>○実施時期</b> H23～</p>	<p>沖縄市</p>	<p><b>○位置付け</b> 中心市街地における雇用創出および産業振興を図ることを目的とし、それによる周辺地域への波及効果とにぎわいを創出する事業として位置付けている。</p> <p><b>○必要性</b> 中心市街地における雇用機会の創出と個人起業家の起業機会を創出するとともに、中心市街地に産業集積を図ることにより、まちのにぎわい創出と中心市街地の再生を行うための事業として必要である。</p>	<p><b>○支援措置</b> ①中心市街地活性化ソフト事業 ②社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（コリンザ地区）と一体の効果促進事業）</p> <p><b>○実施時期</b> ①H23、H25～H27 ②H24</p>	
<p><b>○事業名</b> 自主文化事業（芸能公演事業支援）</p> <p><b>○内容</b> 人材の育成・発掘と中心市街地への集客促進、にぎわい創出に寄与する芸能公演への支援事業</p> <p><b>○実施時期</b> H23～H25</p>	<p>沖縄市</p>	<p><b>○位置付け</b> 本市の文化事業の課題である地元の文化事業に係る人材育成、人材活用等の課題解決と琉球舞踊などの伝統芸能を活かした文化による市の活性化を図る芸能公演支援として位置付けている。</p> <p><b>○必要性</b> これまでキジムナーフェスタにおいて海外からの招聘作品が多く、地元の人材を活用した地元劇場からの公演がないことから、豊富にある地域資源の活用がなされていなかったため、今後の文化事業の推進として、中堅および若手舞踊家の育成、さらには制作や演出、舞台スタッフ等の裏方の人材育成・発掘にもつながる文化事業の発展に大きく貢献する事業として必要である。</p>	<p><b>○支援措置</b> 中心市街地活性化ソフト事業</p> <p><b>○実施時期</b> H23～H25</p>	

<p>○事業名 沖縄市中心市街地循環バス事業</p> <p>○内容 ミュージックタウンとこどもの国、コザ運動公園の回遊性を高めるための循環バス事業</p> <p>○実施時期 H23～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 中心市街地の中心拠点となる胡屋地区において、コザ運動公園、市民会館、こどもの国及びミュージックタウンを結ぶ交通機能として、循環バス有料化・無料化および運行主体の検討を含めた実証実験を行い、中心部の回遊性を高める事業として位置付ける。</p> <p>○必要性 循環バスには、沖縄市の中心地の飲食店やライブハウスなどの情報提供及びこどもの国の琉球弧の動物の資料展示やエイサーバナーの展示など本市の持つ地域文化・芸能等の魅力を発信し、来街者・市民に対する情報発信機能と中心市街地への回遊性を誘導する事業として必要である。</p>	<p>○支援措置 ①社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業と（コリンザ地区）一体の効果促進事業） ②中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 ①H23～H26 ②H27</p>
<p>○事業名 胡屋地区商店街商業環境整備事業 【*再掲】</p> <p>○内容 商店街の共同施設の改修等による商業環境整備 第1期:採光屋根取替え、街灯設置、イベント照明設置等 第2期:LED照明設置、防犯カメラ設置、ファサード整備等</p> <p>○実施時期 H23～</p>	<p>沖縄市一番街商店街振興組合・沖縄市サンシティ商店街振興組合</p>	<p>○位置付け 中心市街地の中核的な商店街である一番街商店街及びサンシティ商店街において、商業環境整備としてアーケードの一部改修等を実施することにより、商環境のイメージを向上させ、商店街の活性化を図る。併せて、アーケード空間を活かした集客イベントの展開によるにぎわい創出、空き店舗等の有効活用による魅力ある店舗の創出、回遊性の向上や滞留促進に資する仕組みの導入等により、商業環境整備との相乗効果を図り、にぎわい再生、商店街の魅力向上、中心市街地の商業活性化を実現するための事業として位置づけている。</p> <p>○必要性 一番街商店街、サンシティ商店街は、まちなかのほぼ中央に立地し、「まちの顔」としてふさわしい明るく安全安心で快適な商業空間の整備が求められており、中心市街地におけるにぎわいづくり、商業地としての魅力再構築、商業の活性化を図るために必要である。</p>	<p>○支援措置 戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金</p> <p>○実施時期 H23～H24</p>

<p>○事業名 中心市街地情報発信支援事業(コザインフォメーションセンター)</p> <p>○内容 観光案内所及びポータルサイト「コザインフォメーションセンター」による地域情報の収集および発信</p> <p>○実施時期 H21～H24</p>	<p>沖縄市・沖縄市観光協会</p>	<p>○位置付け コザ文化が凝縮したまちそのものの雰囲気を経験する機会を資源として積極的に活用し効果的な情報発信と商店街の連携強化によりコミュニティの再生を図っていくことで、コザという地域の持つ魅力を積極的にアピールし、沖縄県内および全国からコザへと新たな人の流れを呼び起こすための事業として位置付けられている。</p> <p>○必要性 公的機関で実現が難しい分野のフォローおよび地域通り会に対する協力などを通して、まちの魅力を底上げし、歴史・文化情報も含めて発信することでコザを沖縄の文化拠点とすることを旨とするものであり、にぎわいづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 ①ふるさと雇用再生特別交付金事業 ②社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(コリンザ地区))と一体の効果促進事業</p> <p>○実施時期 ①H21～H23 ②H24</p>
<p>○事業名 中心市街地市民活動交流推進事業</p> <p>○内容 コミュニティ再生のための交流広場の設置を行う</p> <p>○実施時期 H23～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 中心市街地においてNPO等の市民活動の活動情報の提供、商店街等におけるコミュニティの再生を目的として「市民活動交流ひろば」を設置する。</p> <p>○必要性 市民活動を積極的に支援するとともにNPO間の連携及び市民へのNPOの情報を積極的に発信することにより、行政・市民・市民団体が協働によるまちづくりを推進し、中心市街地の活性化に寄与する事業として必要である。</p>	<p>○支援措置 ①緊急雇用創出事業(重点分野) ②社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(コリンザ地区))と一体の効果促進事業 ③中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 ①H23 ②H24～H26 ③H27</p>

<p>○事業名 クリエイター 支援事業</p> <p>○内容 胡屋地区の空 き店舗を活用 したアーティスト、ク リエイターの起 業家を集積さ せる事業</p> <p>○実施時期 H22～H24</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け</p> <p>胡屋地区にある空き店舗の解消策としてアーティスト・クリエイターの起業家を集積させることにより、人材の育成や商品開発、プロデュース、マネージメントを行うことで新たな産業育成を行うための事業として位置付けている。</p> <p>○必要性</p> <p>新たな産業育成を行うとともに人材発掘や人材育成を進めることにより中心市街地の空き店舗の解消と商店街の新たな魅力づくりとして必要な事業である。</p>	<p>○支援措置</p> <p>①緊急雇用創出事業（重点分野）</p> <p>②社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（コリンザ地区）と一体の効果促進事業）</p> <p>○実施時期</p> <p>①H22～H23</p> <p>②H24</p>	
<p>○事業名 コザAランチ 選手権</p> <p>○内容 コザAランチ 選手権の支援</p> <p>○実施時期 H23～</p>	<p>沖縄市 コザAラン チ選手権実 行委員会</p>	<p>○位置付け</p> <p>沖縄市の国際色豊かなフードメニューであるAランチを活用したイベントとして「コザAランチ選手権」を開催することで、中心市街地の賑わい創出と飲食業者および地域の活性化を図る事業として位置付けている。</p> <p>○必要性</p> <p>地域資源であるAランチを活用したイベントを開催することで商業者の育成に取り組む事業であり、中心市街地の賑わい創出及び商業の活性化を図るために必要である。</p>	<p>○支援措置</p> <p>中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 H26～H27</p>	

<p>○事業名 GATEWAY TO RYCOM ANTHROPOLOGY プラザハウスショッピングセンター商業環境向上事業</p> <p>○内容 高齢者や富裕層、またその家族が快適、安全に買い物や飲食ができる環境を整備</p> <p>○実施時期 H26～</p>	<p>プラザハウステナント会・株式会社プラザハウス</p>	<p>○位置付け 山里地域の拠点とも言えるプラザハウスにおいて、地域資源を活用したアンテナショップの設置及び情報発信を行う。また、こどもから高齢者まで、また、外国人も含めた観光客等が安心して快適に過ごせるための施設改修を行うことで、地域の魅力を発信することを目的とする。</p> <p>○必要性 中心市街地の南の玄関口と言えるプラザハウスにおいて情報発信事業等を実施することで、まちのイメージアップを図り、胡屋十字路地域、コザ十字路地域も含めた中心市街地全体でにぎわいを創出するために必要である。</p>	<p>○支援措置 中心市街地再生事業費補助金（商業施設改修等事業）</p> <p>○実施時期 H27</p>	
<p>○事業名 ICT 活用情報発信事業</p> <p>○内容 ホームページ及びメディア配信による情報発信、Wi-Fiを活用した来街者の利便性向上</p> <p>○実施時期 H27～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 本事業では、中心市街地に集積するコザ文化や沖縄こどもの国、スポーツ施設等に関連する店舗や施設、観光、イベントに関する情報等を一元化し、ホームページ及びメディア配信する情報発信を行うとともに、中心市街地の主要施設等に設置したWi-Fiを活用し、来街者への情報発信を行うことにより、観光誘客につなげ、イベント集客増による中心市街地の活性化を図る事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 中心市街地では多くのイベントやコザ文化を象徴する店舗等が数多くあり、様々な事業が展開されているが、集客等に苦慮しているところである。そのため、効果的かつ適切な情報発信を行い、にぎわいを創出するために必要である。</p>	<p>○支援措置 中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 H27</p>	

<p>○事業名 沖縄市音楽によるまちづくり推進事業</p> <p>○内容 ミュージックタウン音市場やその周辺地域での音楽イベントの開催</p> <p>○実施時期 H22～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 本市の地域資源である音楽等を活用したイベント等を開催し地域活性化を図るための事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 ミュージックタウン音市場やその周辺地域にて展開されるイベント等を開催することで音楽による賑わい創出と観光客の誘致を図るうえで必要である。</p>	<p>○支援措置 中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 H27</p>	
<p>○事業名 IT人材育成事業</p> <p>○内容 IT社会に対応する人材を育成する</p> <p>○実施時期 H12～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 中心市街地における新たな就労機会の創出、周辺地元商店街の再活性化、市民の情報リテラシーの向上、沖縄市へのマルチメディア関連産業誘致の促進を図るため、必要な情報通信環境を備えた共同利用型の施設として設置されたテレワークセンターにおいて、具体的に活用・実践の場を伴う人材育成を目指す事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 平成 27 年度に中心市街地内に新たな雇用促進施設が整備されることから、本事業を併せて実施することで中心市街地内に市民の雇用の場を創出するなどにより昼間人口を増加させ、中心市街地の活性化につなげるため必要な事業である。</p>	<p>○支援措置 中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 H27</p>	

(2) ②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 沖縄市中心市街地活性化協議会事務局支援事業</p> <p>○内容 中心市街地活性化協議会にタウンマネージャーを配置し、関係機関との意見調整や商店街等への支援、まちの担い手育成支援等を実施</p> <p>○実施時期 H24～</p>	<p>NP〇法人 コザまち社 中</p>	<p>○位置付け 中心市街地活性化協議会にタウンマネージャーを配置することにより、関連機関との意見調整をはじめ、中心市街地商店街等への支援、まちづくり会社の設立支援、テナントミックスやエリアマネジメント等の調査研究、人材育成等を実施し、中心市街地活性化協議会を中心とした活性化事業の円滑な推進を図るための事業として位置づけている。</p> <p>○必要性 中心市街地においては、様々な主体が中心となって活性化事業を展開し、賑わい創出を図っているところである。今後は更に効果的な賑わいの創出を図るため、テナントミックスによる空き店舗対策事業や市場再生事業等が求められているほか、国道拡幅等による関係者のコンセンサス形成や持続可能なまちづくり会社設立へ向けた支援なども課題となっている。これらの課題解決や事業展開にあたって、コーディネーターとしての中心的な役割を果たすタウンマネージャーを中心市街地活性化協議会に配置し、活性化事業の円滑な推進を図る必要がある。</p>	<p>○支援措置 ①戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 ②中心市街地魅力発掘・創造支援事業費補助金（専門人材活用支援事業） ③中心市街地再興戦略事業費補助金（専門人材活用支援事業）</p> <p>○実施時期 ①H24 ②H25 ③H26～H27</p>	
<p>○事業名 GATEWAY TO RYCOM ANTHROPOLOGY</p> <p>○内容 デジタルサイネージ及び琉米文化、RYCOMエリア、コザを素材としたアンテナショップの設置</p> <p>○実施時期 H26～</p>	<p>プラザハウステンント会・株式会社プラザハウス</p>	<p>○位置づけ 山里地域の拠点とも言えるプラザハウスにおいて、地域資源を活用したアンテナショップの設置及び情報発信を行う。また、こどもから高齢者まで、また、外国人も含めた観光客等が安心して快適に過ごせるための施設改修を行うことで、地域の魅力を発信することを目的とする。</p> <p>○必要性 中心市街地の南の玄関口と言えるプラザハウスにおいて情報発信事業等を実施することで、まちのイメージアップを図り、胡屋十字路地域、コザ十字路地域も含めた中心市街地全体でにぎわいを創出するために必要である。</p>	<p>○支援措置 地域商業自立促進事業</p> <p>○実施時期 H26</p>	

<p>○事業名 一番街リノベーション事業</p> <p>○内容 空き店舗を活用したコミュニティカフェの設置、運営</p> <p>○実施時期 H26～</p>	<p>沖縄市一番街商店街振興組合・特定非営利活動法人初穂</p>	<p>○位置づけ 一番街リノベーション事業では、商環境の悪循環の原因となっている長期空き店舗物件を改修し、商店街の不足業種を再配置することで、地域住民及び近隣就業者等の憩いの場を創出し、生活の中の商店街として、まちのイメージアップにつながる事業と位置付けている。</p> <p>○必要性 長期空き店舗を改修し、商店街の不足業種の一つであるコミュニティカフェを設置することで、商店街の魅力を向上させ、まちのイメージアップを図り、にぎわいを創出するために必要である。</p>	<p>○支援措置 地域商業自立促進事業</p> <p>○実施時期 H26</p>	
<p>○事業名 銀天街商店街再生（リボーン）調査事業</p> <p>○内容 周辺商店街へ効果が波及する商業施設の事業化可能性調査</p> <p>○実施時期 H26</p>	<p>一般社団法人 Enactus Japan</p>	<p>○位置づけ コザ十字路地域において、新たな地域活動や商店街活動の担い手育成を図る事業と位置付ける。</p> <p>○必要性 コザ十字路地域にインキュベーション施設や研修施設等を設置し地域活動や商店街活動の担い手を育成する事業として必要である。</p>	<p>○支援措置 商店街まちづくり事業（中心市街地活性化事業）</p> <p>○実施時期 H26</p>	

(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 音楽によるまちづくり広報支援事業 (Music info team)</p> <p>○内容 音楽の実演を通じた広報活動</p> <p>○実施時期 H21～H23</p>	<p>沖縄市・株式会社ミュージックウェーブ</p>	<p>○位置付け 本市は、個性的で魅力的な音楽資源を有しており、「音楽によるまちづくり」の構想実現に向けて、効果的で戦略的な情報発信や広報活動を行う事で、コザという地域の持つ魅力を積極的にアピールし、沖縄県内および全国からコザへと新たな人の流れを呼び起こすための事業として位置付けられている。</p> <p>○必要性 市内音楽関連事業の効率的な情報一元化を目指すものであり、「音楽によるまちづくり」の実現構想に向け、事業の認知度と地域の集客力を図る事を目指し、コザ文化の魅力をいかしたにぎわいづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 ふるさと雇用再生特別交付金事業</p> <p>○実施時期 H21～H23</p>	
<p>○事業名 エイサー資源活用事業</p> <p>○内容 エイサー関連グッズの開発、販路拡大、派遣公演・体験指導等による継続的な雇用の創出</p> <p>○実施時期 H21～H23</p>	<p>沖縄市・沖縄市観光協会</p>	<p>○位置付け 真夏の最大イベントである「沖縄全島エイサーまつり」のグッズ商品開発の拡大や販路開拓を行い、エイサーブランド構築を図るとともに「エイサーのまち沖縄市」の青年会エイサーの派遣公演・体験指導の事業展開を図り、継続的な雇用の創出を図る事業として位置付ける。</p> <p>○必要性 本市の地域資源であるエイサーを活用したグッズや観光関連商品（体験ツアー等）の開発を行うことにより、「エイサーのまち沖縄市」を内外に強くアピールすることができることで、観光客の誘致や新たな雇用の創出につながる事業として必要である。</p>	<p>○支援措置 ふるさと雇用再生特別交付金事業</p> <p>○実施時期 H21～H23</p>	

<p>○事業名 中心市街地 事業活性化 推進体制支 援事業</p> <p>○内容 中心市街地 活性化の推 進体制及び 情報の戦略 的活用の推 進体制の構 築</p> <p>○実施時期 H22～H23</p>	<p>沖縄市・NP ○法人コザ まち社中</p>	<p>○位置付け 本市中心市街地活性化基本計画の目指す活性化のテーマ「コザらしい生活ができるまち～商店街から交流街へ～」の実現に向け、中心市街地活性化の推進体制及び情報の戦略的活用の推進体制の構築を図ることにより、中心市街地活性化及び雇用創出を図る。</p> <p>○必要性 中心市街地活性化における調整・牽引役として行政との連携、市民組織とのネットワーク構築及び戦略的な事業展開を図ることにより、まちづくりの機運をさらに高め、民間主体による中心市街地の活性化に寄与するもの考える。</p>	<p>○支援措置 ふるさと雇用 再生特別交付 金事業</p> <p>○実施時期 H22～H23</p>	
<p>○事業名 ミュージック タウン推 進事業（コ ンテンツ プロデュース 事業）</p> <p>○内容 音楽による 産業振興を 図る事業</p> <p>○実施時期 H21～H23</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 地域資源である沖縄市独特の街並みや音楽・芸能文化を活用した新たなコンテンツ（参加・体験メニューの観光商品化など）創出の方向性を示し、これらを民間事業として発展させることで、新規産業の創出や、継続的な雇用の場の創出を図る事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 地域資源（食・芸能文化・ライブハウスなど）を組み合わせることで、新たな観光商品の開発やその他音楽に関連した新規産業の創出を図ることにより、新たな雇用機会や起業機会など、中心市街地において展開される様々なビジネスモデルの構築を行う上で必要である。</p>	<p>○支援措置 ふるさと雇用 再生特別交付 金事業</p> <p>○実施時期 H22～H23</p>	

<p>○事業名 沖縄市中心市街地循環コミュニティバス事業</p> <p>○内容 ミュージックタウンとこどもの国、コザ運動公園の回遊性を高めるためのコミュニティバス事業</p> <p>○実施時期 H22～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 中心市街地において中心拠点となる胡屋地区において、コザ運動公園、市民会館、こどもの国及びミュージックタウンを結ぶ交通機能としてのコミュニティバスの事業化の可能性を探るため、実証実験を行い、実施主体の検討を含めた事業化を目指し、中心部の回遊性を高める事業として位置付ける。</p> <p>○必要性 コミュニティバスには、沖縄市の中心地の飲食店やライブハウスなどの情報提供及びこどもの国の琉球弧の動物の資料展示やエイサーパナーの展示など本市の持つ地域文化・芸能等の魅力を発信し、来街者・市民に対する情報発信機能と中心市街地への回遊性を誘導する事業として必要である。</p>	<p>○支援措置 緊急雇用創出事業</p> <p>○実施時期 H22</p>	
<p>○事業名 沖縄市地域おこし協力隊事業 【*再掲】</p> <p>○内容 中心市街地の新たな担い手作りやまちなか居住の促進事業</p> <p>○実施時期 H22～H26</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け コザ文化が凝縮したまちそのものの雰囲気や資源として積極的に活用するとともに地域おこし協力隊事業終了後も本市に定住・定着するための就職支援・生活支援等を実施することにより定住人口の増加につなげる事業として位置付けられている。</p> <p>○必要性 沖縄市は歴史的な背景や独特の文化など貴重な地域資源を有しており、外部からの視点として住みたい街ランキングにおいても上位に入っている。こうした特性を踏まえ、地域おこしに意欲のある都市住民を沖縄市の中心市街地の活性化の担い手として呼び込み、中心市街地において開催される地域行事や伝統芸能等コミュニティ活動の応援を通じてにぎわいの創出を図るとともに、にぎわいづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 地域おこし協力隊</p> <p>○実施時期 H22～H26</p>	

<p>○事業名 国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ推進事業</p> <p>○内容 「創る・観る・育てる」を三本の柱として事業を展開</p> <p>○実施時期 H17～H25</p>	<p>沖縄市・キジムナーフェスタ実行委員会</p>	<p>○位置付け こどもを核とした施策を展開し、こども文化を発信するとともに国際文化観光都市の未来を担う人材育成に向けた活用・実践の場としての事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 「創る・観る・育てる」を三本の柱として、国際児童・青少年演劇フェスティバル沖縄（キジムナーフェスタ）を行うものであり、文化活動を通じた人づくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 ①優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業 ②沖縄振興特別推進市町村交付金 ③地域発・文化芸術相応発信イニシアチブ事業</p> <p>○実施時期 ①H23～H24 ②H24～H25 ③H25</p>	
<p>○事業名 自主文化事業</p> <p>○内容 「創る・観る・育てる」を柱とした演劇ワークショップ、吹奏楽フェスタ、市民ミュージカル等の文化事業を実施</p> <p>○実施時期 S61～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け コザ文化が凝縮したまちそのものの雰囲気資源として積極的に活用することなどにより市民一人ひとりが、特に次世代を担うこどもたちが国際文化観光都市の未来の担い手であるという自覚を持ち、主体的に文化活動に参加する環境（活用・実践の場を伴う人材育成）を作るための事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 「創る・観る・育てる」を三本の柱として、演劇ワークショップ、吹奏楽フェスタその他文化事業を行うものであり、文化活動を通じた人づくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 ①優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業 ②沖縄振興特別推進市町村交付金</p> <p>○実施時期 ①H23～H24 ②H25～H27</p>	

<p>○事業名 地域資源活用型人材育成事業</p> <p>○内容 地域の産業振興・活性化を担う人材育成事業</p> <p>○実施時期 H20～H23</p>	<p>沖縄市・沖縄県中部中央地域雇用創造協議会</p>	<p>○位置付け コザ文化が凝縮したまちそのものの雰囲気や観光産業や音楽・芸能産業など地域にある有形・無形の資源と連動させ、地域振興の担い手となる人材を育成するとともに活用・実践の場(雇用の場)を創出する事業として位置付けられている。</p> <p>○必要性 失業率の高い本市において、地域ごとの雇用状況に格差があることや求人・求職のミスマッチの解消に加えて、積極的に雇用を創出する場として地域資源を活かした産業振興による雇用の場を拡大することが求められており、地域の産業振興・活性化を担う人づくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 地域雇用創造推進事業(厚生労働省)</p> <p>○実施時期 H20～H23</p>	
<p>○事業名 パークアベニュー・リノベーション事業</p> <p>○内容 空き店舗を活用した就労支援施設等の配置</p> <p>○実施時期 H22～</p>	<p>NPO法人コザまち社中</p>	<p>○位置付け 商店街において商環境の悪循環の原因となっている長期空き店舗を改修し、公共的な施設等を配置することでにぎわいの創出と空き店舗解消への波及に寄与する事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 まちなかに子育て支援施設や若年者から高齢者までの就労支援を行う施設等を商店街に配置することで、まちなかにぎわいと商店街の活性化を図るために必要である。</p>	<p>○支援措置 地域商業活性化事業</p> <p>○実施時期 H22</p>	

<p>○事業名 コザマップ 事業</p> <p>○内容 ICTを活用した情報 発信事業</p> <p>○実施時期 H22～</p>	<p>コザ商店街 連合会</p>	<p>○位置付け 中心市街地および商店街における情報を携帯 端末で閲覧可能なアプリケーションを開発する ことにより、リアルタイムな情報を来街者に発 信するための事業。</p> <p>○必要性 これまでの紙媒体による情報発信について は、公的な案内所でしか設置や配布がなされて おらず、また、多くの欠点があり、携帯端末を 活用した広範囲な情報発信を行うことで来街者 の利便性の向上とタイムリーな情報提供を行う ことができ、来街者の回遊性と商店街のにぎわ いを創出するために必要である。</p>	<p>○支援措置 地域商業活性 化事業</p> <p>○実施時期 H22</p>	
<p>○事業名 まちづくり フェスタ事 業</p> <p>○内容 既存イベン トの連携強 化を図るた めの事業</p> <p>○実施時期 H22</p>	<p>コザ商店街 連合会</p>	<p>○位置付け コザ地域の特性である音楽と国際性を活か し、個別に開催してきたイベントを集約し、地 域と関係団体等が連携し、開催する事業。</p> <p>○必要性 これまで、継続してきた個別イベントを集約 して実施することにより、イベントとしての幅 を持たせ、来街者に対してのプロモーション力 の向上や商店街へのさらなる集客の拡大、来街 者の回遊性およびにぎわいの創出に必要であ る。</p>	<p>○支援措置 地域商業活性 化事業</p> <p>○実施時期 H22</p>	

<p>○事業名 沖縄市センター商店街環境整備事業</p> <p>○内容 商店街の共同施設の改修等による商業環境整備</p> <p>○実施時期 H24～</p>	<p>沖縄市センター商店街振興組合</p>	<p>○位置付け 中心市街地の中核的な商店街であるセンター商店街において、商業環境整備としてアーケードの一部改修等を実施することにより、商環境のイメージを向上させ、商店街の活性化を図る。併せて、集客イベントを展開するとともに、商店街の財務状況の改善を図り後継者の育成や組織強化を図ることで、にぎわい創出や商店街の魅力向上、中心市街地の商業活性化を実現するための事業と位置付けている。</p> <p>○必要性 センター商店街は、まちなかのほぼ中央に立地し、「まちの顔」としてふさわしい明るく安全安心で快適な商業空間の整備が求められており、中心市街地におけるにぎわいづくり、商業地としての魅力再構築、商業の活性化を図るために必要である。</p>	<p>○支援措置 地域商業再生事業</p> <p>○実施時期 H24</p>	
<p>○事業名 中心市街地市場再生支援事業</p> <p>○内容 市場内の空き店舗を活用し、生鮮品販売や被災地の特産品販売を支援</p> <p>○実施時期 H24</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け ゴヤ市場の空き店舗を活用し、生鮮品販売や被災地の特産品、農商工連携による新商品の販売等、既存店舗との差別化を図った新たな魅力を創出し、ゴヤ市場の再生と賑わい創出を図る事業として位置づけている。</p> <p>○必要性 ゴヤ市場は、中心市街地の「市場」として重要な役割を果たしてきたが、近年空き店舗が増え、本来の市場機能が衰退するなど、緊急の課題となっており、「市場」の再生は、まちの賑わい創出を図るためにも必要であるほか、コミュニティの場の維持確保のために必要である。</p>	<p>○支援措置 緊急雇用創出事業（重点分野）</p> <p>○実施時期 H24</p>	

<p>○事業名 商店街スポーツイベント等連携促進事業</p> <p>○内容 中心市街地等で開催されるスポーツイベント等と商店街との連携促進による商店街活性化を図る事業</p> <p>○実施時期 H25～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 商店街等とスポーツイベントとの連携を促進し、地域への波及効果を創出する仕組みを構築することで、観光振興による商店街等の活性化を図るため、市内で開催されるスポーツイベントに訪れる観光客などを商店街に誘導・回遊させるための調査・実証業務を行う事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 コザ運動公園の体育施設等が改修されたことで、一般の利用客に加えてスポーツイベントが盛んに開催されており、広域から観光客が訪れる集客施設としても機能していることから、当該スポーツイベントと商店街等の連携を促進し、地域への波及効果を創出することで、観光振興による商店街等の活性化を図るために必要である。</p>	<p>○支援措置 沖縄振興特別推進市町村交付金</p> <p>○実施時期 H25～H27</p>	
<p>○事業名 音楽観光誘客事業</p> <p>○内容 市内のライブハウスを活用した誘客事業</p> <p>○実施時期 H24～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け まち全体をステージと見立て、観光資源であるライブハウスや民謡クラブを活用し、週末だけでなく平日もライブ演奏が楽しめる環境を創出し、市内外からの誘客を図る。</p> <p>○必要性 「音楽のまち」として、市内に多数あるライブハウスや民謡クラブの演奏が常時楽しめることで、中心市街地における誘客効果や地域活性化に寄与でき必要である。</p>	<p>○支援措置 沖縄振興特別推進市町村交付金</p> <p>○実施時期 H24～H27</p>	

<p>○事業名 伝統文化観光推進事業</p> <p>○内容 伝統行事であるンマハラシーを開催して沖縄こどもの国活性化を図る。</p> <p>○実施時期 H24～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け こどもの国を活用した伝統競馬である「ンマハラシー」を開催することで、閑散期の集客促進と地域イベントとしての定着を図るとともに全県的な大会の開催に向けた取り組みとして位置付けている。</p> <p>○必要性 以前は全県的に開催されていた「ンマハラシー」を復活させ、観光資源としての活用を行うとともに、沖縄こどもの国における集客増加を図り、まちなかにおける各種事業と連携による中心市街地の活性化に寄与する事業であるため必要である。</p>	<p>○支援措置 沖縄振興特別推進市町村交付金</p> <p>○実施時期 H24～H27</p>	
<p>○事業名 観光誘客プロモーション事業</p> <p>○内容 地域情報を発信するため、観光ガイド養成講座を開催するとともに、地域資源を活用したまち歩きツアーの製作やモニターツアー等を実施</p> <p>○実施時期 H25～</p>	<p>沖縄市・沖縄市観光協会</p>	<p>○位置づけ コザ文化が凝縮したまちそのものの雰囲気や資源として積極的に活用し、地域の持つ魅力を積極的にアピールすることで、沖縄県内および全国から新たな人の流れを呼び起こすための事業。</p> <p>○必要性 沖縄市が持つ地域資源を広く内外にアピールすることで観光客の誘客につなげ、にぎわいづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 沖縄振興特別推進市町村交付金</p> <p>○実施時期 H25～H27</p>	

<p>○事業名 プロスポーツ応援機運醸成事業</p> <p>○内容 応援機運醸成のためのバナー・のぼり旗等の設置</p> <p>○実施時期 H25～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置づけ</p> <p>スポーツコンベンションシティとして多くの合宿および大会等の誘致を行っている。</p> <p>その中であってFC琉球のホームタウン、広島東洋カープのキャンプ地としてプロチームとのつながりがあり、市民挙げて当該プロチームの応援機運を醸成するため、バナー・のぼり旗等を掲揚することで、スポーツコンベンションシティ沖縄市を内外に発信する事業として位置づけている。</p> <p>○必要性</p> <p>中心市街地においてキャンプ団体や本市を中心に活動している団体をまちなかで応援バナー等を掲示することで本市を訪れている団体のPRとスポーツコンベンションシティとしての機運醸成を図るとともにまちなかにおける賑わいの創出と景観形成に寄与する事業として必要である。</p>	<p>○支援措置</p> <p>沖縄振興特別推進市町村交付金</p> <p>○実施時期</p> <p>H25～H27</p>	
--	------------	---	--	--

(4) 国の支援がないその他の事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	国以外の支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 音楽によるまちづくり事業</p> <p>○内容 音楽を活用した「賑わい創出」「人材育成」「産業支援」を行うことで中心市街地の活性化に寄与する。</p> <p>○実施時期 H19～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け ミュージックタウン音市場を拠点に、当該施設の設置目的を達成するため、音楽ライブの開催による創出事業による賑わいの創出、イベント技術・製作スタッフ育成講座等による人材育成、ライブエンターテイメントの創出やアーティストをサポートするインターネット音楽番組の配信など産業創出支援のための自主事業を展開する。これらにより、音楽によるまちづくりを推進する事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 音楽を活用した賑わいや人材育成、産業創出支援を図ることは、音楽によるまちづくりを実現するために必要である。</p>		
<p>○事業名 沖縄国際アジア音楽祭推進事業</p> <p>○内容 同音楽祭と連携した音楽イベントの開催</p> <p>○実施時期 H22～</p>	<p>NPO法人 コザまち社 中</p>	<p>○位置づけ アジア各国との文化交流、沖縄産音楽の国内外への発信、音楽を活用した観光の推進を目的に、国やジャンルを越え、多くのミュージシャンやミュージックファンが集う音楽祭、「沖縄国際アジア音楽祭 musix2010」が初開催されることから、同音楽祭の開催に併せたイベント事業を展開し、まちのにぎわい創出と観光客の誘致を図るための事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 ミュージックタウン音市場にて展開される沖縄国際アジア音楽祭を盛り上げていくため、関連音楽イベント等を同時開催することで音楽によるにぎわい創出と観光客の誘致を図るとともにアジア各国へ「音楽の街沖縄市」を国内外にPRしていく上で必要である。</p>		

<p>○事業名 モグコザ準備室</p> <p>○内容 フリーペーパー発行 ショッピングモール型イベント開催</p> <p>○実施時期 H19～H24</p>	<p>株式会社沖縄 縄テクスファーム</p>	<p>○位置付け 20代、30代の若者の視点を通して、効果的な情報発信と商店街の連携を図るとともに、コザ文化が凝縮したまちそのものの雰囲気や資源として積極的に活用したイベントの実施により中心市街地に効果的な回遊性を促すための事業として位置付けられている。</p> <p>○必要性 中心市街地においては、若者をターゲットとした情報発信が効果的になされていなかった。若者が自らまちを歩き、人々と交流を深めながらまちの良さを再発見するためのきっかけ（ツール）をつくる。さらには、市内外の有名な店舗を一同に会したショッピングモール型イベントを開催するもので、にぎわいづくりを実現する上で必要である。</p>		
<p>○事業名 コザ歌舞団 芸能公演事業</p> <p>○内容 民間による地域特性を活かした集客支援事業</p> <p>○実施時期 H22～</p>	<p>NPO法人 コザまち社 中</p>	<p>○位置付け 伝統文化である琉球舞踊などの地域資源を活用し、ライブエンターテインメントとしてステージを構築することで、コザへの集客促進を図り地域活性化と文化継承の人材育成事業として位置付けられる。</p> <p>○必要性 元来、沖縄中部は芸能の盛んなところであり、民俗芸能であるエイサーをはじめ、人間国宝に指定された古典音楽の演奏者も輩出している地域性を持っている。</p> <p>また、戦後のアメリカ軍の駐留による文化融合により、チャンプルー文化ともいわれるコザ文化を育んできた経緯等もあり、人的資源や文化資源を積極的に活用して、地域自ら活性化の方策を展開する機運を高めるために必要である。</p>		

<p><b>○事業名</b> こどもの国 フェスティ バル</p> <p><b>○内容</b> 沖縄こども 未来ゾーン を拠点とし た、こども のまち推進 事業</p> <p><b>○実施時期</b> H17～</p>	<p>財団法人沖 縄こども未 来ゾーン運 営財団</p>	<p><b>○位置付け</b> こどもたちが元気に夢に向かってたくましく 育つ環境をつくることを目的に、こどもを核と した施策を展開、こども文化を発信していくと ともに、こどもたちを支える人材を育成し、こ どものまちを推進していくための人材の活用・ 実践の場を創出する事業として位置付けられて いる。</p> <p><b>○必要性</b> 沖縄こどもの国は、本市中心市街地の中心を 通る国道330号に近接する県内唯一の動物園 であり、こどもの育成・学習をメインに様々な イベントが開催される市域内最大の集客施設で ある。 多彩なイベントによる中心市街地に足を運ば せる機会の創出や、人材育成施設として中心市 街地活性化に大きく貢献する事業として必要で ある。</p>		
---	--	---	--	--

## 8. 4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項

### [1]公共交通機関の利便性の増進及び特定事業の推進の必要性

#### (1) 公共交通機関の利便性の増進及び特定事業の推進の必要性

本市では、26系統のバスが運行しており、そのうちの多くが国道330号を中心に中心市街地を南北に縦断しているが、自家用車の利用が増大し、バス利用者は減少傾向にあり、国道330号などでは渋滞が発生している状況である。また、バスは国道330号を中心とした運行となっているため、中心市街地内の回遊性を確保するような公共交通手段は存在していないことを踏まえ、コミュニティバスにより回遊性の創出を図る。また、平成20年度に沖縄県公共交通活性化推進協議会が主体となって那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市地域公共交通総合連携計画が策定され、本市中心市街地内のコザ十字路地域に交通結節点整備が予定されている。今後も引き続き中心市街地内の回遊性を更に高め、郊外部からも人々を誘導できるような公共交通体系のあり方を検討する必要がある。

こうしたことを踏まえ、公共交通機関の利便性の増進に資する施策・事業等を計画する。

#### (2) フォローアップの考え方

毎年度において、事業の進捗調査を行い、必要に応じて事業の見直しなど改善策を講じ、着実な事業推進を図る。

### [2]具体的事業の内容

#### (1) 法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

(2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 駐車場誘導整備事業</p> <p>○内容 駐車場に関する情報発信・案内板等の整備</p> <p>○実施時期 H23～H24</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 駐車場に関する情報発信・案内板等を整備することにより、まちの効果的な回遊性の確保を図るための事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 既存駐車場の利用向上を目的に駐車場配置案内板や矢印案内板を設置し、来街者が利用しやすい駐車場案内を行うことで、誰もが居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>	<p>○支援措置 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（コリンザ地区）と一体の効果促進事業）</p> <p>○実施時期 H23～H24</p>	
<p>○事業名 沖縄市中心市街地循環バス事業 【*再掲】</p> <p>○内容 ミュージックタウンとこどもの国、コザ運動公園の回遊性を高めるための循環バス事業</p> <p>○実施時期 H23～</p>	<p>沖縄市</p>	<p>○位置付け 中心市街地の中心拠点となる胡屋地区において、コザ運動公園、市民会館、こどもの国及びミュージックタウンを結ぶ交通機能として、循環バス有料化・無料化および運行主体の検討を含めた実証実験を行い、中心部の回遊性を高める事業として位置付ける。</p> <p>○必要性 循環バスには、沖縄市の中心地の飲食店やライブハウスなどの情報提供及びこどもの国の琉球弧の動物の資料展示やエイサーバナーの展示など本市の持つ地域文化・芸能等の魅力を発信し、来街者・市民に対する情報発信機能と中心市街地への回遊性を誘導する事業として必要である。</p>	<p>○支援措置 ①社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業と（コリンザ地区）一体の効果促進事業） ②中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>○実施時期 ①H23～H26 ②H27</p>	

(2) ②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

該当なし

### (3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 沖縄市中心市街地循環コミュニティバス事業 【*再掲】</p> <p>○内容 ミュージックタウンとこどもの国、コザ運動公園の回遊性を高めるためのコミュニティバス事業</p> <p>○実施時期 H22～</p>	沖縄市	<p>○位置付け 中心市街地において中心拠点となる胡屋地区において、コザ運動公園、市民会館、こどもの国及びミュージックタウンを結ぶ交通機能としてのコミュニティバスの事業化の可能性を探るため、実証実験を行い、実施主体の検討を含めた事業化を目指し、中心部の回遊性を高める事業として位置付ける。</p> <p>○必要性 コミュニティバスには、沖縄市の中心地の飲食店やライブハウスなどの情報提供及びこどもの国の琉球弧の動物の資料展示やエイサーパナーの展示など本市の持つ地域文化・芸能等の魅力を発信し、来街者・市民に対する情報発信機能と中心市街地への回遊性を誘導する事業として必要である。</p>	<p>○支援措置 緊急雇用創出事業</p> <p>○実施時期 H22</p>	

### (4) 国の支援がないその他の事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	国以外の支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>○事業名 沖縄市公共交通総合連携計画策定事業</p> <p>○内容 バス網再編構築計画の作成</p> <p>○実施時期 H22～</p>	沖縄市・他	<p>○位置付け 住民・来訪者の移動手段を確保し、活力ある地域づくりのために公共交通への利用転換と安心安全な歩行空間を創出するとともにまちの効果的な回遊性を図るための事業として位置付けている。</p> <p>○必要性 バス利用者の利便性向上と地域の活性化を図るため、基幹バスを中心としたバス網再編構築計画を作成するものであり、誰もが居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。</p>		



## 9. 4から8までに掲げる事業及び措置の総合的かつ一体的推進に関する事項

### [1] 市町村の推進体制の整備等

本市では、中心市街地活性化を最重要課題として位置づけ、平成20年度施政方針では5つの重点的取り組みの一番目に中心市街地の活性化を掲げている。

#### 【平成20年度施政方針（要旨）】

…このまちに息吹く市民の力を最大限に活かした「ひと輝く げんきな沖縄市」の実現への勇気と希望をいただき、決意を新たにしています。

このような基本姿勢のもとに、次の5つの取り組みを重点的に推進してまいります。

まず1点目は、中心市街地の活性化と雇用の創出です。

全国的に中心市街地の衰退が著しく、国においてはまちづくり関連三法を改正し、その抜本的な対策を講じています。本市におきましても、中心市街地の活性化は、喫緊な課題であり、職・住・遊・学空間等が集積する沖縄市らしい活気にみちたまちを再生するために、中心市街地活性化基本計画の認定取得に向け取り組んでまいります。

昨年、市街地の活性化と産業の振興に大きな期待が寄せられ、市民が待ち望んできた、コザ・ミュージックタウンがオープンいたしました。沖縄市の誇る音楽文化の発信とまちの賑わいをもたらす拠点施設が、今後、多くの人々が集う多彩なイベントの展開や市民の音楽活動の支援など、中心市街地の活性化に向けた役割を果たせるよう、なお一層の努力を重ねてまいります。

さらに、沖縄市活性化100人委員会 中心市街地活性化部会からの提言の実践や商店街等が主体的に運営するチャレンジショップの展開とともに、地域の方々が力を発揮していただくなど、まちの魅力づくりに協働で取り組んでまいります。

エイサーのメッカ沖縄市からの「エイサーのまち宣言」は、これからの新たな歴史を創るものとして、県内外にとどまらず、多くのエイサーファンから期待されています。青年たちをはじめ市民が、守りそして創り上げてきたエイサーをさらに広く全国へ発信するなど、文化を活かした地域の活性化に取り組んでまいります。…

こうした中、中心市街地活性化に関わる各種調査・検討の実施及び事業・施策の推進を効果的に行うため、平成19年度に企画部企画課の中に中心市街地活性化プロジェクト・チームを新たに設置した。そして、平成20年度に組織機構改革を行い、経済文化部に「にぎわい創造室中心市街地活性化推進担当」を創設し、推進体制の強化を行った。

併せて、中心市街地活性化基本計画の策定を契機に、下記組織を設置し、外部の視点も取り入れながら調査・検討を進める体制を整えている。

- ・ 庁内検討委員会
- ・ 中心市街地まちづくり会議
- ・ 連絡調整会議

## (1) 庁内検討委員会の概要

庁内検討委員会は、計画策定主体として、横断的体制のもとに計画内容の最終調整及び意思統一を図る機関であり、下記関係各課職員により構成している。

委員長	経済文化部長
副委員長	経済文化部 にぎわい創造室長
委員	企画部次長
〃	企画部副参事
〃	経済文化部 雇用対策室長
〃	建設部 都市整備室長
〃	経済文化部 にぎわい創造室 ミュージックタウン推進担当主幹
〃	経済文化部 商工振興課長
〃	経済文化部 文化観光課長
〃	企画部 政策企画課長
〃	企画部 政策企画課 こどものまち推進プロジェクト・チーム主幹
〃	企画部 財政課長
〃	市民部 市民生活課長
〃	建設部 都市整備室 企画調整担当技幹
〃	建設部 都市整備室 都市計画担当技幹
〃	健康福祉部 健康福祉総務課長
〃	健康福祉部 高齢福祉課長
〃	教育部 教育総務課 企画調整担当主幹
〃	教育部 生涯学習課長
事務局	経済文化部 にぎわい創造室 中心市街地活性化推進担当

### 【開催経過】

#### ◆第1回庁内検討委員会

開催日：平成19年10月18日

内容：オリエンテーション（中心市街地活性化基本計画とは）

市民アンケート調査結果の報告

中心市街地の課題・方向性についての議論

#### ◆第2回庁内検討委員会

開催日：平成19年11月13日

内容：中心市街地の課題・方向性についての議論

#### ◆第3回庁内検討委員会

開催日：平成19年12月27日

内容：中心市街地のまちづくりの方向性についての意見集約・とりまとめ

中心市街地の区域についての議論

導入事業抽出作業の報告

◆第4回庁内検討委員会

開催日：平成20年1月22日

内 容：中心市街地のまちづくりの方向性について（確定）

中心市街地の区域についての議論

目標指標設定についての議論

◆第5回庁内検討委員会

開催日：平成20年2月22日

内 容：導入事業についての議論

中心市街地の区域についての議論

◆第6回庁内検討委員会

開催日：平成20年3月19日

内 容：中心市街地活性化基本計画中間とりまとめについて

◆第7回庁内検討委員会

開催日：平成20年7月25日

内 容：中心市街地活性化基本計画（案）について

(2) 中心市街地まちづくり会議の概要

まちづくり会議は、計画策定にあたって意見・提言を行うアドバイザー機関としての位置づけであり、下記委員により構成している。

座長	沖縄国際大学経済学部教授
委員	東洋大学工学部教授
〃	社団法人沖縄市観光協会
〃	沖縄市社会福祉協議会事務局長
〃	コザ信用金庫理事・企画部長
〃	沖縄総合事務局南部国道事務所副所長
〃	沖縄警察署副署長
〃	沖縄県土木建築部都市計画・モノレール課課長
〃	沖縄市自治会長協議会
〃	沖縄市青少年育成市民会議事務局長
オブザーバー	沖縄総合事務局経済産業部中小企業課課長

【開催経過】

◆第1回まちづくり会議

開催日：平成19年12月4日

内 容：オリエンテーション（中心市街地活性化基本計画とは）

市民アンケート調査結果の報告

中心市街地の課題・方向性について

◆第2回まちづくり会議

開催日：平成20年1月15日

内 容：中心市街地の区域について  
目標指標設定の考え方について  
導入事業について（必要事業等の提言）

◆第3回まちづくり会議

開催日：平成20年6月9日

内 容：方針と導入事業について（必要事業等の提言）  
数値目標指標設定について  
計画書（案）について

(3) 連絡調整会議の概要

連絡調整会議は、基本計画策定や中心市街地活性化協議会設立に向けて、特に強い関わりを持ちながら取り組む必要がある商工会議所、中心市街地活性化プロジェクト・チーム、商工労政課、都市計画課の共通認識を図るための場として設置したものである。

◆第1回調整会議

開催日：平成19年8月20日

内 容：中心市街地活性化基本計画とは  
沖縄市中心市街地活性化基本計画への取り組み状況  
中心市街地活性化協議会について

◆第2回調整会議

開催日：平成19年9月11日

内 容：中心市街地の活性化フォーラムの日程について  
パネリストの選定について  
TMO事業の総括について  
事例調査について  
その他

◆第3回調整会議

開催日：平成19年9月19日

内 容：商工会議所の基本計画にかかるスケジュール（案）の説明  
事例調査について  
認定都市の情報について

◆第4回調整会議

開催日：平成19年10月3日

内 容：基本計画にかかるスケジュール等  
フォーラム開催に向けての取り組み状況  
市民アンケートについて  
前回の課題の確認等  
事例視察の報告

◆第5回調整会議

開催日：平成19年10月23日

内 容：基本計画にかかるスケジュール等  
フォーラム開催に向けての取り組み状況  
市民アンケート結果について  
前回の課題の確認等

◆第6回調整会議

開催日：平成19年11月16日  
内 容：基本計画にかかるスケジュール等  
市民アンケート結果について  
フォーラムの成果について  
前回の課題の確認等

◆第7回調整会議

開催日：平成19年12月7日  
内 容：基本計画にかかるスケジュール等  
沖縄市TMO協議会の総括について  
第1回協議会設立準備会について  
第1回中心市街地まちづくり会議について  
基本計画記載事業抽出について

◆第8回調整会議

開催日：平成20年1月9日  
内 容：基本計画にかかるスケジュール等  
活性化協議会立ち上げスケジュールについて  
基本計画記載事業抽出について

◆第9回調整会議

開催日：平成20年1月25日  
内 容：中心市街地まちづくり会議・庁内検討委員会について  
活性化協議会立ち上げの具体的スケジュールについて  
基本計画記載事業抽出について

#### (4) 中心市街地活性化推進本部（庁内）の概要

中心市街地活性化基本計画の案を策定するために設置された「庁内検討委員会」にかわり、基本計画の認定に向け、協議会等からの意見の吸い上げや、関係部局との横断的な検討、総合調整など、さらには認定取得後の事業実施に向け、中心市街地活性化事業を具体的に推進する組織として中心市街地活性化推進本部を設置したものである。

##### 【組織の概要】

本部長に市長を、副本部長に副市長をもってあて、本部員は、教育長、水道局長、各部の長、会計管理者、参事、消防本部長、教育部長、指導部長及び水道部長で構成。

また、推進本部に下部組織として、中心市街地の活性化事業に係る調査・研究及び庁内部局間での総合調整を図るため、関係部署の課長級の者で組織する「検討委員会」を設置。

##### 【組織の構成員】

①中心市街地活性化推進本部

本部長	沖縄市長
副本部長	沖縄市副市長
本部員	沖縄市教育長
〃	沖縄市水道局長
〃	沖縄市消防本部長
〃	沖縄市会計管理者
〃	沖縄市経済文化部 部長
〃	沖縄市経済文化部 参事
〃	沖縄市総務部 部長
〃	沖縄市企画部 部長
〃	沖縄市市民部 部長
〃	沖縄市健康福祉部 部長
〃	沖縄市健康福祉部 参事兼福祉事務所長
〃	沖縄市建設部 部長
〃	沖縄市教育委員会 教育部 部長
〃	沖縄市教育委員会 指導部 部長
〃	沖縄市水道局 水道部 部長

②中心市街地活性化推進本部 検討委員会

委員長	経済文化部 参事
副委員長	経済文化部 にぎわい創造室 室長
委員	経済文化部 商工振興課 課長
〃	経済文化部 農林水産課 課長
〃	経済文化部 文化観光課 課長
〃	経済文化部 文化観光課 主幹
〃	経済文化部 雇用対策室 企業誘致担当 主幹
〃	経済文化部 雇用対策室 雇用促進担当 主幹
〃	経済文化部 にぎわい創造室 ミュージックタウン推進担当 主幹
〃	総務部 総務課 課長
〃	総務部 市史編集担当 主幹
〃	企画部 政策企画課 課長
〃	企画部 政策企画課 政策調整担当 主幹
〃	企画部 財政課 課長
〃	市民部 市民生活課 課長
〃	市民部 平和・男女共同課 課長
〃	健康福祉部 健康福祉総務課 課長
〃	健康福祉部 障がい福祉課 課長
〃	健康福祉部 高齢福祉課 課長

〃	健康福祉部 保育課 課長
〃	健康福祉部 こども家庭課 課長
〃	健康福祉部 市民健康課 課長
〃	建設部 都市整備室 都市計画担当 技幹
〃	建設部 都市整備室 企画調整担当 技幹
〃	建設部 建築・公園課 課長
〃	建設部 道路課 課長
〃	建設部 区画整理課 課長
〃	教育委員会 教育部 教育総務課 企画調整担当 主幹
〃	教育委員会 教育部 生涯学習課 課長
〃	教育委員会 教育部 施設課 課長
〃	教育委員会 指導部 青少年センター 所長

### 【会議の開催状況】

#### ①中心市街地活性化推進本部

##### ◆第1回推進本部

開催日：平成21年8月18日（火）

内 容：①推進本部及び検討委員会の設置について

②沖縄市中心市街地活性化基本計画策定の進捗について

##### ◆第2回推進本部

開催日：平成21年9月11日（金）

内 容：①中心市街地活性化基本計画（案）について（事業説明）

②意見交換 その他

##### ◆第3回推進本部

開催日：平成21年11月20日（金）

内 容：①中心市街地活性化協議会の意見書説明

②NPO 提案特定民間事業「胡屋地区リノベーション事業」の概要説明

③掲載事業及び中心市街地活性化区域の決定について

④準工業地域にの特別用途地区指定について

#### ②中心市街地活性化推進本部 検討委員会

##### ◆第1回検討委員会

開催日：平成21年8月19日（水）

内 容：①推進本部及び検討委員会の設置について

②中心市街地活性化基本計画策定の進捗について

③中心市街地活性化関連事業の抽出について その他

##### ◆第2回検討委員会

開催日：平成21年11月11日（水）～16日（月）

内 容：基本計画記載事業の関係課ヒアリング

## [2] 中心市街地活性化協議会に関する事項

沖縄市中心市街地活性化協議会は、経済活力の向上を総合的に推進するための調整を図る役割を担う沖縄商工会議所と都市機能の増進を総合的に推進するための調整を図る役割を担う特定非営利活動法人まちづくりNPOコザまち社中が中心となり平成20年11月25日に設立された。また、協議を専門的な立場で行えるよう、協議会の下部組織として幹事会、専門部会（ソフト系・ハード系）を設置した。

### (1) 沖縄市中心市街地活性化協議会構成員

#### ① 中心市街地活性化協議会

団体名	団体役職名	備考
沖縄商工会議所	会頭	経済活力の向上
沖縄商工会議所	専務理事	経済活力の向上
まちづくりNPOコザまち社中	理事長	都市機能の増進
まちづくりNPOコザまち社中	副理事長	都市機能の増進
沖縄市商業活性化推進協議会	会長	商業の活性化
コザ商店連合会	会長	商業の活性化
コザ商店連合会※	副会長	商業の活性化
沖縄市	経済文化部長	市
沖縄市	建設部長	市
名桜大学国際学部経営情報学科	教授	大学教授
沖縄警察署	地域交通官	治安・交通
沖縄市自治会長協議会	会長	住民代表
沖縄市婦人連合会	会長	消費者
社団法人沖縄市観光協会	会長	観光の活性化
沖縄市文化協会	会長	教育文化
社団法人沖縄青年会議所	理事長	地域経済
沖縄市金融協会	会長	地域経済
沖縄市建設業社会	会長	地域経済
社団法人沖縄市シルバー人材センター	事務局長	医療福祉
社会福祉法人沖縄市社会福祉協議会	会長	医療福祉

※平成25年度より追加

## ②幹事会

団体名	団体役職名	備考
名城大学国際学部経営情報学科	教授	大学教授
沖縄商工会議所	専務理事	経済活力の向上
まちづくりNPOコザまち社中	副理事長	都市機能の増進
まちづくりNPOコザまち社中	理事	都市機能の増進
沖縄市商業活性化推進協議会	会長	商業の活性化
コザ商店連合会	会長	商業の活性化
コザ商店連合会※	副会長	商業の活性化
銀天街商店街振興組合※	青年部長	商業の活性化
株式会社プラザハウス	取締役社長	商業の活性化
社団法人沖縄市観光協会	事務局長	観光の活性化
沖縄市	経済文化部長	市
沖縄市	建設部長	市

※平成25年度より追加

## ③専門部会

### 【コザ文化の展開とにぎわいづくり部会（ソフト部会）】

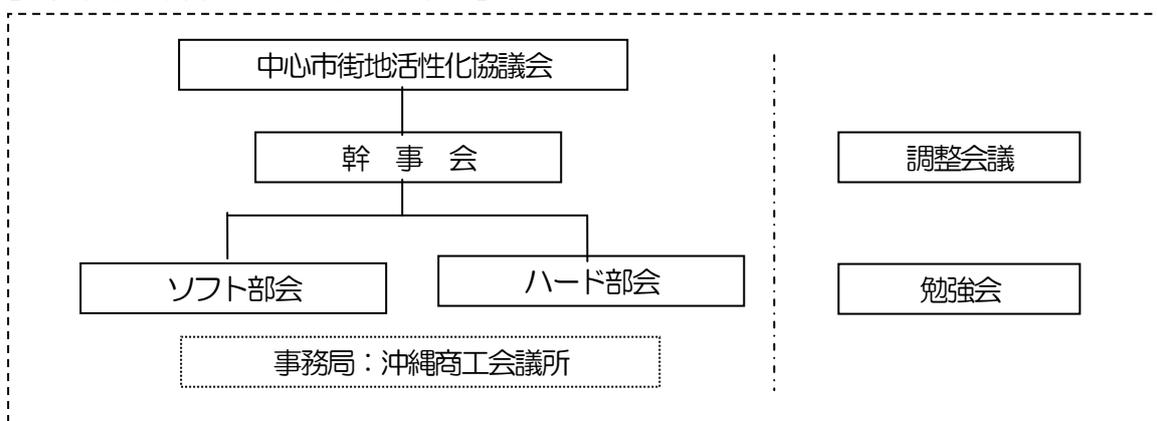
団体名	団体役職名	備考
特定非営利活動法人 まちづくりNPOコザまち社中	監事	都市機能の増進 部会長
社団法人沖縄市観光協会	事務局長	観光の活性化
沖縄市	にぎわい創造室長	市
株式会社ミュージックウェーブ	社長	商業の活性化
沖縄市銀天街商店街振興組合	青年部長	商業の活性化
コザ商店街連合会	事務局長	商業の活性化
沖縄商工会議所商業部会	部会長	商業の活性化

### 【誰もが居心地の良いまちづくり部会（ハード部会）】

団体名	団体役職名	備考
特定非営利活動法人 まちづくりNPOコザまち社中	副理事長	都市機能の増進 部会長
沖縄市	建設部次長	市
沖縄市金融協会	会長	地域経済
(社)沖縄県建築士会沖縄支部	支部長	地域経済
(株)都市科学政策研究所	主任研究員	地域計画
沖縄商工会議所建設業部会	部会長	建設業の活性化
沖縄商工会議所工業部会	部会長	工業の活性化

(2) 中心市街地活性化協議会の開催状況（認定前）

【沖縄市中心市街地活性化協議会組織図】



①設立準備会

回数	開催日	会議の内容（議題）
第1回	平成20年8月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設立趣旨（設立趣意書）の説明、確認について</li> <li>・協議会運営方法等の検討について</li> <li>・今後の進め方について</li> </ul>
第2回	平成20年8月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄市中心市街地活性化基本計画（案）の説明</li> <li>・基本計画（案）に関する意見交換（総論）</li> </ul>
第3回	平成20年9月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基調講演「中心市街地活性化の戦略」（講師：服部年明氏）</li> <li>・沖縄市中心市街地活性化の方向性の検討について</li> </ul>

②協議会

回数	開催日	会議の内容（議題）
第1回	平成20年11月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規約（案）等の承認について</li> <li>・構成団体及び委員（案）の承認について</li> <li>・役員の選任について</li> <li>・平成20年度事業計画（案）の承認について</li> </ul>
第2回	平成21年6月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年度事業報告（案）の承認について</li> <li>・平成21年度事業計画（案）の承認について</li> <li>・平成21年度収支予算（案）の承認について</li> <li>・その他</li> </ul>
第3回	平成21年9月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地活性化基本計画（案）への意見書の承認について</li> <li>・特定民間中心市街地活性化事業計画の承認について</li> <li>・その他</li> </ul>



### ③ 中心市街地活性化協議会 幹事会の開催状況

回数	開催日	会議の内容（議題）
第1回	平成20年12月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幹事会組織について</li> <li>・ 幹事長、副幹事長の選任について</li> <li>・ 今後のスケジュールについて</li> <li>・ 専門部会の設置について</li> </ul>
第2回	平成21年1月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖縄市中心市街地活性化基本計画の仕組みについて</li> <li>・ 沖縄市中心市街地活性化基本計画（案）について</li> <li>・ 沖縄市中心市街地活性化協議会専門委員（案）について</li> <li>・ その他</li> </ul>
第3回	平成21年2月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公演「中心市街地活性化と都市・地域計画の役割」（講師：琉球大学教授 榎戸敬介氏）</li> </ul>
第4回	平成21年3月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖縄市中心市街地活性化協議会専門委員（案）について</li> <li>・ 沖縄市中心市街地活性化協議会の進捗状況について</li> <li>・ その他</li> </ul>
第5回	平成21年9月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門部会（ソフト・ハード）の総括</li> <li>・ 中心市街地活性化基本計画（案）への意見書について</li> <li>・ 特定民間中心市街地活性化基本計画について</li> <li>・ その他</li> </ul>



#### ④専門部会（ハード部会）

回数	開催日	会議の内容（議題）
第1回	平成21年5月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハード部会における今後の進め方について</li> <li>・一番街・サンシティ商店街のアーケードの撤去について</li> </ul>
第2回	平成21年6月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・銀天街の取り組みについて（アーケード撤去後）</li> <li>・その他</li> </ul>
第3回	平成21年6月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山里第一地区市街地再開発事業について</li> <li>・その他</li> </ul>
第4回	平成21年6月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハード事業の取りまとめについて</li> <li>・その他</li> </ul>
第5回	平成21年7月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地活性化基本計画（案）について</li> <li>・国のヒヤリングを受けての意見調整について</li> <li>・ハード部会における総括について</li> </ul>



#### ⑤専門部会（ソフト部会）

回数	開催日	会議の内容（議題）
第1回	平成21年5月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフト部会における今後の進め方について</li> <li>・中心市街地活性化基本計画（案）について</li> </ul>
第2回	平成21年5月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミュージックタウン推進事業との関連性の模索・検討について</li> <li>・ギムホーフェスタと中心市街地の活性化について</li> </ul>
第3回	平成21年5月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まち中居住」の促進を図るための子育て支援及び高齢者支援について</li> </ul>
第4回	平成21年6月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり人材ネットワークの構築について</li> <li>・まちを活性化するための情報発信機能について</li> </ul>
第5回	平成21年6月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街のテナントミックス戦略の構築とリノベーションによる「核店舗」の早期建設について</li> </ul>
第6回	平成21年6月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなかキャンパス（サテライトキャンパス）の導入について</li> </ul>
第7回	平成21年6月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アート・クリエイト事業による「街なか賑わいづくり」について</li> </ul>
第8回	平成21年7月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフト部会における総括について</li> <li>・その他</li> </ul>

第9回	平成21年7月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスの運営について</li> <li>・その他</li> </ul>
-----	------------	--



### ⑥専門部会（合同部会）

回数	開催日	会議の内容（議題）
第1回	平成21年4月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本計画及び協議会について</li> <li>・専門部会の役割について</li> <li>・部会長及び副部会長の選任について その他</li> </ul>
第2回	平成21年4月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄市中心市街地活性化基本計画（案）について</li> <li>・専門部会（ソフト・ハード）の進め方について</li> <li>・その他</li> </ul>
第3回	平成21年5月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地の視察（こどもの国、山里地区、運動公園、胡屋地区、ミュージックタウン、銀天街地区など）</li> </ul>
第4回	平成21年7月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部会（ソフト・ハード）の報告</li> <li>・その他</li> </ul>
第5回	平成21年8月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地活性化基本計画（案）への意見について</li> <li>・特定民間中心市街地活性化事業計画について</li> </ul>
第6回	平成21年9月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地活性化基本計画（案）に対する意見書について</li> <li>・特定民間中心市街地活性化事業計画について</li> </ul>



### ⑦その他の会議

- I 調整会議（幹事長・商工会議所・まちづくりNPOコザまち社中・沖縄市） 計6回
- II 勉強会（商工会議所・まちづくりNPOコザまち社中・沖縄市） 計8回

### (3) 基本計画に対する協議会からの意見書

平成22年1月25日

沖縄市長 東 門 美津子 様

沖縄市中心市街地活性化協議会  
会長 新 垣 直 彦

沖縄市中心市街地活性化基本計画（最終案）に関する意見について

平成22年1月18日付で提案のあった沖縄市中心市街地活性化基本計画（最終案）については、平成21年9月29日付で提出した当協議会の意見書の内容に配慮されたものとなっており、沖縄市の中心市街地を活性化させる計画として概ね妥当なものであります。

なお、沖縄市におかれましては、引き続き協議会とともに中心市街地活性化の意義と役割にご配慮いただき、基本計画認定後もその事業推進について積極的に取り組んでいただくことを、強く要望します。

平成21年9月29日

沖縄市長 東 門 美津子 様

沖縄市中心市街地活性化協議会  
会長 新 垣 直 彦

沖縄市中心市街地活性化基本計画（案）に関する意見について

中心市街地の活性化に関する法律第15条第9項の規定に基づき、沖縄市中心市街地活性化基本計画（案）について、別紙のとおり意見書を提出します。

(別紙意見書)

沖縄市中心市街地活性化基本計画（案）に対する意見書

沖縄市中心市街地活性化協議会

はじめに

沖縄市の中心市街地は、太平洋戦争終結直後に始まったアメリカ軍の嘉手納基地の建設に伴い、県内各地から生活の糧を求め参集してきた人々によって基地の門前町として栄えたのが契機だといわれている。戦前の農村的な様相が一変し、急速に都市化していく過程でコザのまちは、アメリカ文化と日本・沖縄文化の融合したチャンプルー文化の代表的な一つとされるコザ文化が形成された。

県内第2の都市、また、本島中部の中核都市として発達してきた私たちのコザのまちは、近隣市町村や北部市町村からも消費者を集め、以前は大変賑わっていた。しかし、1990年以降には、モータリゼーションの更なる進展や駐車場を備えた郊外型大型商業施設の隣接市町村への展開、市内の老朽化した社会インフラ、店主の高齢化と後継者不足、空き店舗の発生と増加の悪循環構造化等とも相まって吸引力が著しく衰えてしまった。

このような状況下、国は2006年の中心市街地活性化法をはじめとするまちづくり三法改正とともに、コンパクトなまちづくりへと政策転換を図り、沖縄市でも“コザ文化の醸成によるまちづくり”をテーマに中心市街地活性化基本計画（案）（以下「基本計画（案）」と表記する。）を策定された。

中心市街地は地域の経済、文化、また生活の基盤を支え、市域の健全な発展に重要な役割を果たす場としての役割を担ってきた。また、中心市街地への適度な都市機能の集中は郊外開発を継続して行う場合に比べ、環境負荷の軽減、長期的な行政コスト削減などを実現させるものである。このことから、本計画はまちなか居住、商業の活性化をはじめ、均衡のとれた都市の将来を形づくり、秩序あるまちづくりを総合的に推進する政策・施策であると認識する。

このような状況を踏まえ、沖縄市中心市街地活性化協議会（以下、「協議会」と表記する。）では、沖縄市の中心市街地のあるべき将来像を示すべく、議論を重ねてきた。これらの討議をふまえ、基本計画（案）について以下の通り意見を提出する。

## 1. 総論

### ▼中心市街地活性化のテーマについて

基本計画（案）の中心市街地活性化のテーマが「コザ文化の醸成によるまちづくり」であるが、協議会のハードおよびソフトの合同部会において、中心市街地のあるべき将来像にまちなか居住も加味した中心市街地の活性化を目指すこととした。上述の理由から、中心市街地活性化に関する方針として、「コザ文化の発展と継承」と「コザらしい生活ができるまち」の両立が可能な基本計画（案）の策定を沖縄市へ提案する。「コザ文化」と「まちなか居住」を兼ね備えたテーマとして「コザらしい生活ができるまち ～商店街から交流街～」を提起する。本コンセプトは、中心市街地のあり方として、商業空間、生活、文化創造の中心、および交流人口拡大によるまちの賑わいづくりが重要であるとの共通認識によるものである。

### ▼コザ文化の定義づけについて

地域が発展するには、その地域がもつ比較優位性を明確にし、地域住民が認識し、人口に膾炙するまで高めることが要因の一つである。沖縄市中心市街地の活性化についても然りである。その意味で沖縄市の基本計画（案）に“コザ文化”を活性化の要としていることについて協議会として敬意を表する。しかしながら、基本計画（案）にはコザ文化について市民および来街者が分かりやすい定義がなされていない。コザ文化への定義づけをお願いしたい。

### ▼中心市街地の区域設定について

基本計画（案）で区域設定されている中心市街地は、国道330号に沿って細長くいびつな形状、また282haという面積は市全体の人口に対し区域が広いと感じられるが、旧コザ市の市街地形成が山里地区からコザ十字路地区までであり、中心市街地を認識させる地域が山里地区からコザ十字路地区に至る地区であることは、多くの市民の周知の事実である。

また、山里地区、胡屋地区およびコザ十字路地区は、それぞれ異なる都市機能を有した市街地である。すなわち、山里地区は、民間主導、地権者の98%の同意を得て、居住と店舗からなる都市福利機能を備えた都市再開発事業が進みつつあり、胡屋地区は、沖縄市コザ運動公園、沖縄こどもの国、コザミュージックタウン及び沖縄市民会館などの都市機能が徒歩圏内にあり、コザ十字路地区は、交流機能と居住機能に加え、越来城水辺公園や文教機能による都市再開発が進展しつつある。沖縄市の中心市街地はこれら3地区が近接し、コンパクトなまちが連綿として続いている。以上のことを鑑みて、基本計画（案）で設定した区域と面積は妥当であると判断する。3地区における特徴ある都市機能を活かしつつ、さらに有機的に連携させ、一体感ある中心市街

地活性化に尽力していただきたい。

#### ▼中心市街地の交通網について

交通に対する施策は、中心市街地及び中心市街地外との交流促進の手段であると共に、温室効果ガス削減、歩行や自転車等での移動により、自家用車に頼りすぎず、日々の基本的な生活が可能なコンパクトな街づくりを実現させる上で、特に配慮が必要な点と考える。

現状の南北の公共交通網は、国道330号を中心に多くの路線バスが中心市街地を經由しており、公共交通による中心市街地の移動利便性は比較的高く、他の地域に比べ都市基盤としての交通インフラが整っている。中心市街地での人々の移動を容易にするため、今後は中心市街地の交通結節点としての役割と機能を高める拠点整備の推進、および中心市街地と沖縄市東部地区との交通アクセスの利便性を高める胡屋十字路を起点にした東西の交通に対する施策が必要であると考え。

今回の基本計画（案）には交通網に対する具体的な施策が展開されていない。中心市街地のユニバーサル化の推進、徒歩および自転車によるまちなか移動に加え、中心地域内外との公共交通手段としてコミュニティバスの運行などの総合的な交通網体系を検討し、長期的な計画に取り入れていただきたい。

#### ▼都市機能施設等のまちなか集積促進による都市機能強化と高度化について

中心市街地外における居住機能の比重が相対的に大きい点を十分に認識し、中心市街地とそれ以外の地区との機能分担、相互依存および補完関係によって、低炭素型社会の実現と人に優しいまちづくりを推進しつつ、中心市街地の市民生活と活力ある都市機能の高度化を図る「コザらしい中心市街地」の実現をめざす。

このため、商業機能のみでなく、中心市街地外では充足が難しい多様な都市機能の集積が必要と考える。すなわち、諸都市機能の併存、ミクスドユース、ワンストップ化と歩行距離内に諸都市機能施設の分散配置である。具体的には、子育て支援施設、市民生活支援施設、NPOやボランティア団体などの市民活動支援施設といった市民の生活に則した公的施設のまちなか集積を積極的に推進していただきたい。

また、バス路線網が整備され、沖縄自動車道が縦貫し、さらに沖縄南インターチェンジを備えた沖縄市中心市街地の優れた交通アクセスを活かし、本島中部の都市機能および広域行政拠点として、中部広域事務組合、沖縄県または国の広域行政施設や民間企業の本社や支社施設、および事業所のまちなかへの戦略的な誘導にも取り組んでいただきたい。

#### ▼中心市街地活性化の推進体制について

中心市街地の活性化に向けた各種施策・事業について、円滑な調整・事業実施を行うために組織化された協議会の事業推進体制および組織の充実・発展については、連携を密にし、引き続き沖縄市の支援・協力を要請する。

また、沖縄市役所における多方面にわたる行政組織・関係部局間の横断的な連携等を実現させ、総合的な事業推進を要請する。

## 2. 情報の公開および広報と情報収集および情報の戦略的活用について

基本計画（案）は、沖縄市域全体のまちづくりを行う上で重要な役割を果たすものであり、一部の利害関係者だけでなく、全市民の理解・協力が必要となる。このことから、沖縄市にも協議会とともに俯瞰的なまちづくりの視点を共有し、民間事業者、市民団体等に対する中心市街地活性化の必要性や今後のまちづくりに関する理解を深める努力を行っていただくよう要請する。そのために、情報公開や広報の強化、市民や市民以外からの意見を聴取するなど情報収集に努めることが必要である。

また、イベント等の情報発信については、対象となるターゲット層への情報がタイミング良く伝達されるようマーケティングの手法を用い、さらに、得られた情報を分析し、問題点および改善点を把握し、関係者で情報の共有化と検証を行うよう要請する。

### 3. 基本計画（案）への柔軟な対応について

今回の基本計画（案）において、事業の熟度不足などの理由により、掲載されなかった事業についても、継続的に検討し、一定の基準に達した事業については追加掲載、または計画の一部変更を行うなど柔軟な対応をお願いしたい。また、これらの事業により基本計画の目標達成、効果増進を図っていただくよう配慮をお願いする。

### 4. おわりに

協議会は、沖縄市の中心市街地活性化を推進するため、基本計画（案）の推進や中心市街地の活性化施策について継続的に協議を行うとともに、周辺商店街、民間の事業者とも連携を密にし、市域の発展に尽力するものである。

沖縄市におかれても、協議会とともに中心市街地活性化の意義と役割にご配慮いただき、基本計画認定後も事業推進に対し積極的に取り組んでいただくことを強く要望する。

## 沖縄市中心市街地活性化基本計画（案） に対する意見書細目および提案書

#### ■意見書細目および提案

以下は、基本計画（案）について沖縄市中心市街地活性化協議会にて議論された概要をまとめ、細目として意見書に付すものである。

#### ▼中心市街地の基本方針について

沖縄市の基本計画（案）における基本方針は、先の「コザ文化の醸成によるまちづくり」の基本コンセプトを実現するため、①コザ文化の展開とにぎわいづくり、②誰もが居心地の良いまちづくり、および③明日を拓く人づくりという基本方針を内題している。

基本方針	活性化の目標	目標実現のための方策
コザ文化の展開とにぎわいづくり	歩行者通行量	1. 音楽によるまちづくりの充実 2. 地域連携力の向上
誰もが居心地の良いまちづくり	都市福利施設利用者数	1. 居住空間の快適性の向上 2. まちなかの移動性の向上
明日を拓く人づくり	1. 文化継承や地域づくり人材数 2. 文化継承イベント等への参加者数	1. 人づくりプロジェクトの充実

協議会では、「コザらしい生活ができるまち～商店街から交流街へ～」のコンセプトを実現するため、上述の基本方針を市民がイメージしやすく、また、分かりやすいように①の「コザ文化の展開とにぎわいづくり」から「コザ文化の継承と発展によるにぎわいづくり」へ、②の「誰もが居心地の良いまちづくり」から「住む人・来街者目線でのまちづくり」へ、および③の「明日を拓く人づくり」を「まちづくり人材育成」へと名称を変更し、さらに、まちづくりにおけるプロデューサーが不在であるというこれまでの反省を踏まえ、基本方針として「市民によるまちづくりの推進」を新たに加え、商店街関係者、各種事業者、NPO、住民、行政を含めた「責任ある市民」による中心市街地の活力向上の仕組みを図るよう要望する。

#### <基本コンセプト>

基本計画（案） 「コザ文化の醸成によるまちづくり」



提案 「コザらしい生活ができるまち～商店街から交流街へ～」

#### <基本方針>

##### 1. 変更項目

○基本計画（案）「コザ文化の展開とにぎわいづくり」



変更案 「コザ文化の継承と発展によるにぎわいづくり」

○基本計画（案）「誰もが居心地の良いまちづくり」



変更案 「住む人・来街者目線でのまちづくり」

○基本計画（案） 「明日を拓く人づくり」



変更案 「まちづくり人材育成」

##### 2. 追加項目

新提案 「市民によるまちづくりの推進」

#### ▼中心市街地の活性化指標について

中心市街地の商業活力向上に関して、現在の商店主の年齢や後継者の有無などを把握した上で、中心市街地内の歩行者数、店舗数、従業員数、一店舗当り売上高、新規開店および事業社数などの具体的な指標を提案する。また、まちなか居住の促進による中心市街地の居住人口者数、来街者数として観光客数、宿泊数についても活性化の目標に検討していただきたい。

#### ▼中心市街地の社会文化資源の有効活用の有用性

ゲート通り等の中心市街地の街並みや沖縄市独自の文化に関する本市のイメージは本市を特徴付ける社会資源であり、中心市街地と一衣帯水の関係にある。これら街並みやイメージを継承し、高め、有効に活用することが望まれ、コザ文化の継承と発展を継続することが、沖縄市の現在の社会文化資源を有効活用することにつながると考える。

また、「コザ文化」という文言について認識の違いが生じぬよう、具体的な定義付けをするべきである。またこれらは文化を継承・発展させる上での方向付けとしたい。

さらに、コザ文化の継承と発展にあたり、地域愛が深まる等の効果を見込み、国道330号沿いの山里地区からコザ十字路地区にかけて、コザ文化の継承と発展を象徴する広場や建物には「コザ」という冠を積極的に推進して頂きたい。具体的には、コザミュージックタウン、コザインフォ、コザ運動公園、コザまち社中などのような方策である。また、バス停留所等にも「コザミュージックタウン前」という名称となるよう尽力いただきたい。

#### ▼一番街・サンシティ商店街活性化基本計画について

アーケードの老朽化、組合員の減少などの理由により事業の必要性を認識したが、リニューアルによる事業については、現段階では意見を付す段階ではないと考える。事業実施により達成する目的を再度検討し、資金面の計画を明確にすることで実行性を確実にすることが望まれる。

また、沖縄市銀天街商店街の事例からもアーケード撤去のみでなく、商店街振興組合の総合的な計画となるよう行政と相談の上、計画を進めていただきたい。

#### ▼山里地区再開発計画について

山里地区の再開発計画は、地権者である沖縄市山里第一地区市街地再開発準備組合により行われる予定であり、行政には早期事業実施を促して頂きたい。

#### ▼その他の民間事業について

上記2事業以外の民間事業について、個別の実施主体がそれぞれの目的に沿って事業を行うだけでなく、行政や協議会を含め連携を図ることにより、各事業の趣旨、目的、誘客の対象などを噛み合わせ、中心市街地での戦略的な事業の推進にあたることを望まれる。

#### ▼目標実現の為の方策

個別具体的な事業を視野に、目標実現の為の方策として、また、戦略として意見を展開する。

##### (1) 来街者の参画も含めたハードとソフトのパッケージ化

ソフトおよびハードの施策について、各事業を個別の事業でなく一体として捉え、商業者や居住者のみでなく来街者の参画も含め、事業を行うことが重要である。

##### (2) 中核施設の活性化と中核施設およびイベントからの回遊性を高めるソフト開発および中心市街地商店街との連携

コリンザ、沖縄市民会館、コザ運動公園、沖縄こどもの国などの拠点施設や拠点施設で催されるイベント事業については、現時点でも多くの人々が訪れているが、必ずしも中心市街地の賑わいへと結びついていない。すなわち、拠点施設やイベントから中心市街地へ人々が回遊する導線や仕組みが未完成である。

回遊性を高める為の施策として、たとえば駐車場から会場への導線を意識したソフト開発、また会場でのにぎわいをまちにつなげるための中心市街地商店街との連携事業などが必要と考える。

(3) **コザ十字路商店街：回遊＋アート＋個店の魅力**

コザ十字路商店街は食とアートと交流のまちづくり事業や銀天街まつりなど、若手アーティストやボランティアがまちづくりの主体となり取り組んでおり、賑わいを見せている。今後は「個店の魅力」を増す為の具体的な提案が必要である。

(4) **沖縄市中心市街地商店街の現状把握、実態に即した対策案**

中心市街地商店街の店舗は従業員を雇わない個人事業者、商業者が多い。これらの地域への支援策を効果的にするための対策等については、関係者と協議を行い、現状を把握し、実態に即した施策の構築を関係機関が協力と連携のもとで実施することを要請する。

(5) **中心市街地へのまちなか居住と商店街の同時および長期的活性化計画**

中心市街地の居住人口増加の施策と合わせ、中心商店街の活性化を同時に行うべきであり、これらは拠点として開発を行うのではなく、市域を面として捉え、互いに相乗効果を誘発する仕組みが望まれる。

(6) **イベントのターゲット層把握と関係者との情報および戦略の共有化**

中心市街地で行われる各種イベントに対し、対象と目的を明確にし、関係者に情報と戦略の共有を図ることが重要である。イベントの再構築と合わせて実施したい。

(7) **コザ文化や中心市街地活性化とのイベントの一貫性およびストーリー性**

中心市街地でおこなわれる賑わい創出を目的とした各種イベントが行われているが、個別の取り組みとせず、一貫性を持たせストーリーを構築することが求められる。

(8) **関係者の連携強化**

各団体組織による活動等を関係者のデータベースとして作成し、活用することを検討し、連携の強化に努めていただきたい。

以上

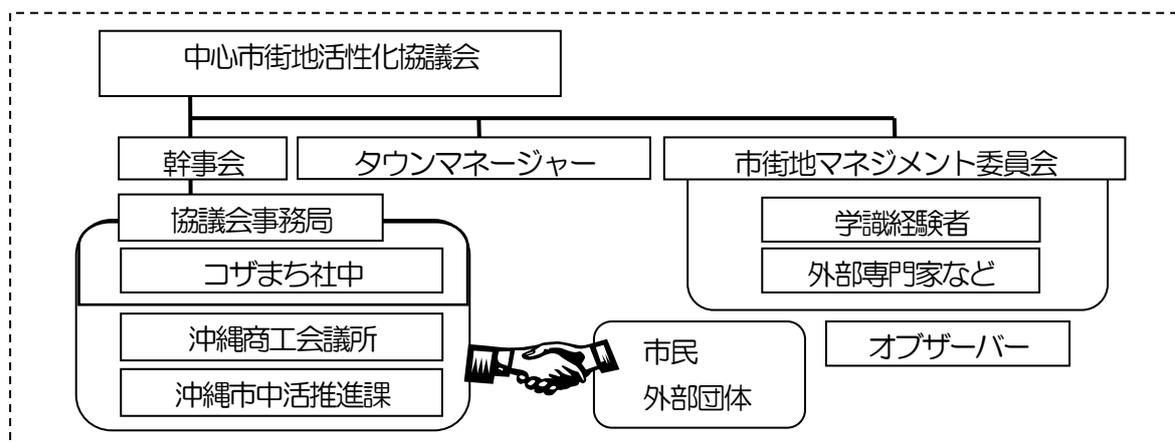
**【沖縄市中心市街地活性化協議会から沖縄市への意見書手交式】**

日 時： 平成21年10月15日（木） 午前10:00

場 所： 沖縄市役所 本庁舎4階 市長応接室

(4) 中心市街地活性化協議会の開催状況（認定後）

【沖縄市中心市街地活性化協議会組織図】



①協議会

回数	開催日	会議の内容（議題）
第1回	平成22年4月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年度事業報告書、決算書について</li> <li>平成22年度計画書及び予算計画書について</li> </ul>
第2回	平成23年5月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年度事業報告、収支決算書承認について</li> <li>委員の変更等について</li> <li>平成23年度事業計画書(案)、収支予算書決定について</li> <li>特定民間中心市街地活性化事業計画について</li> <li>その他</li> </ul>
第3回	平成23年11月24日 (臨時総会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地活性化基本改革の進捗状況等について</li> <li>平成23年度補正予算(案)について</li> </ul>
第4回	平成24年2月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>胡屋地区商店街商業環境整備事業について</li> <li>中心市街地活性化協議会事務局支援事業について</li> <li>胡屋地区リノベーション事業について</li> </ul>
第5回	平成24年5月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度事業報告(案)、収支決算(案)について</li> <li>平成24年度事業計画(案)、収支予算(案)について</li> <li>委員の選任について</li> <li>タウンマネージャー設置に伴う規程設置等について</li> </ul>
第6回	平成25年9月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度事業報告書及び決算書について</li> <li>平成25年度事業計画書(案)及び予算計画書(案)について</li> <li>幹事会委員改選に伴う新委員の承認について</li> <li>中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告について</li> </ul>
第7回	平成26年5月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度事業報告書及び決算書について</li> <li>平成26年度事業計画書(案)及び予算計画書(案)について</li> </ul>
第8回	平成26年9月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2期中心市街地活性化基本計画策定に向けた検討について</li> </ul>

第9回	平成26年3月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期中心市街地活性化基本計画の方向性について</li> <li>・質疑応答、意見交換</li> <li>・その他</li> </ul>
第10回	平成27年6月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度事業報告書(案)及び収支決算書(案)について</li> <li>・平成27年度事業計画書(案)及び収支予算書(案)について</li> <li>・法律の改正に伴う規約改正(案)について</li> </ul>

## ②幹事会

回数	開催日	会議の内容(議題)
第1回	平成22年12月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地活性化事業(基本計画掲載事業)の進捗状況</li> <li>・中心市街地活性化協議会事業の進捗状況</li> <li>・地域商業活性化事業(中企庁補正予算事業)について</li> <li>・中活計画及び民間事業公募説明会について</li> <li>・平成23年度中心市街地活性化事業(案)について</li> </ul>
第2回	平成23年4月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度事業報告書及び決算書(案)について</li> <li>・平成23年度事業計画書(案)及び予算書について</li> <li>・一番街商店街、サンシティ商店街等活性化計画について</li> <li>・幹事の任期満了に伴う再任命等について</li> </ul>
第3回	平成23年8月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胡屋地区商店街商業環境整備事業の変更認定について</li> <li>・事業進捗について</li> <li>・専門部会の設置について</li> <li>・その他</li> </ul>
第4回	平成23年11月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地活性化基本計画の進捗状況について</li> <li>・平成23年度補正予算(案)について</li> <li>・大規模集客施設広域調整事例調査への会員派遣について</li> <li>・次年度以降における国庫支援事業の活用について</li> </ul>
第5回	平成23年4月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度事業報告、収支決算書承認について</li> <li>・平成23年度事業計画書(案)、収支予算書決定について</li> <li>・一番街サンシティ商店街アーケード改修事業について</li> </ul>
第6回	平成24年1月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度戦略補助金活用事業について</li> </ul>
第7回	平成24年5月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度事業報告(案)、収支決算(案)について</li> <li>・平成24年度事業計画(案)、収支予算(案)について</li> <li>・委員の選任について</li> <li>・タウンマネージャー設置に伴う規程設置等について</li> </ul>
第8回	平成25年1月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度中活事業進捗状況について</li> <li>・次年度中活基本計画について</li> </ul>
第9回	平成25年8月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度事業報告書及び決算書について</li> <li>・平成25年度事業計画書(案)及び予算計画書(案)について</li> <li>・幹事会委員改選に伴う新委員の承認について</li> <li>・中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告について</li> </ul>

第10回	平成25年12月5日	・沖縄市中心市街地活性化政策の継続実施に関する要望書について
第11回	平成26年4月25日	・平成25年度事業報告書(案)及び決算書(案)について ・平成26年度事業計画書(案)及び予算計画書(案)について
第12回	平成26年9月18日	・第2期中心市街地活性化基本計画策定に向けた検討について
第13回	平成27年1月28日	・第二期計画の策定に向けた調査検討について ・調査検討事業の中間とりまとめ報告 ・質疑応答、意見交換 ・その他
第14回	平成27年3月19日	・第二期計画の策定に向けた調査検討について ・質疑応答、意見交換 ・調査検討事業の中間とりまとめ報告 ・質疑応答、意見交換 ・その他
第15回	平成27年5月25日	・平成26年度事業報告書(案)及び収支決算書(案)について ・平成27年度事業報告書(案)及び収支決算書(案)について ・その他
第16回	平成27年7月17日	・エリア委員会について ・シンポジウム開催について ・その他



### ③その他の会議

#### I 事務局会議（幹事長・まちづくりNPOコザまち社中・商工会議所・沖縄市）

回数	開催日	会議の内容（議題）
第1回	平成23年7月4日	・広報事業について ・調査研究事業について
第2回	平成24年1月11日	・タウンマネージャーの設置について ・タウンマネージャーの役割について ・タウンマネージャーに委託する事業内容について ・タウンマネージャー選定の理由について

第3回	平成24年4月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の実施体制について</li> <li>・スケジュールについて</li> </ul>
第4回	平成24年5月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度事業報告(案)、収支決算(案)について</li> <li>・平成24年度事業計画(案)、収支予算(案)について</li> <li>・委員の選任について</li> <li>・タウンマネージャー設置に伴う規程設置等について</li> </ul>
第5回	平成25年6月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タウンマネージャー設置について</li> <li>・今後の体制について</li> </ul>
第6回	平成25年11月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会事業について</li> <li>・中心市街地活性化基本計画の継続について</li> <li>・来年度予算について</li> </ul>
第7回	平成26年3月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度中活協議会事業について</li> <li>・平成26年度予算について</li> <li>・タウンマネージャー継続について</li> </ul>
第8回	平成26年4月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度中活について(方針)</li> <li>・平成26年度幹事会、総会について</li> <li>・平成25年度事業報告書(案)、収支決算書(案)について</li> <li>・平成26年度事業計画書(案)、収支予算書(案)について</li> <li>・イオンモール(北中城村)及びエイサー会館について</li> </ul>
第9回	平成26年6月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の検討体制について</li> <li>・先進地視察について</li> <li>・活動内容の周知等について</li> </ul>
第10回	平成26年9月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地活性化基本計画の進捗状況等について</li> <li>・中心市街地活性化検討委託業務について</li> <li>・先進地視察について</li> </ul>
第11回	平成26年11月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進地視察について</li> </ul>
第12回	平成27年4月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度事業報告書(案)及び収支決算書(案)について</li> <li>・平成27年度事業計画書(案)及び収支予算書(案)について</li> <li>・その他</li> </ul>
第13回	平成27年5月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度事業報告書(案)及び収支決算書(案)について</li> <li>・平成27年度事業計画書(案)及び収支予算書(案)について</li> <li>・その他</li> </ul>
第14回	平成27年6月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度幹事会指摘事項確認について</li> <li>・広報誌原稿について</li> <li>・その他</li> </ul>
第15回	平成27年7月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会の運営について</li> <li>・シンポジウムについて</li> <li>・その他</li> </ul>

## II 勉強会（幹事長・まちづくりNPOコザまち社中・商工会議所・沖縄市）

回数	開催日	会議の内容（議題）
第1回	平成24年4月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中活事業の進捗状況について</li> <li>・年間スケジュールの叩きづくり</li> </ul>
第2回	平成24年5月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の選任について</li> <li>・タウンマネージャー設置に伴う規程設置等について</li> <li>・幹事会について</li> </ul>
第3回	平成24年6月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究について</li> <li>・タウンマネージャー設置事業について</li> <li>・商店街を巻き込んだ勉強会の検討について</li> </ul>
第4回	平成24年10月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会運営に関する総合的な取組みについて</li> <li>・目標達成を支えるための取組みについて</li> <li>・スケジュールについて</li> </ul>
第5回	平成25年1月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容とスケジュールについて</li> <li>・幹事会次第について</li> <li>・次年度の協議会運営等について</li> </ul>
第6回	平成25年2月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度予算、事業計画について</li> <li>・次年度基本計画について</li> </ul>
第7回	平成25年9月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学はいま 戦略イノベーション 不確実性と企業</li> <li>・10年先ビジョンについて</li> </ul>
第8回	平成25年10月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学はいま 戦略イノベーション 不確実性と企業 ～企業の競争は個別事業の単位で～</li> <li>・今後のまちづくりについて</li> </ul>
第9回	平成25年11月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学はいま 戦略イノベーション 不確実性と企業 ～金融工学で機会損失削減～</li> <li>・中活基本計画延長申請に関して</li> </ul>
第10回	平成25年11月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりコンセプトについて</li> <li>・中活基本計画延長申請に伴う幹事会開催について</li> </ul>
第11回	平成25年12月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりについて（参考資料：街の未来）</li> <li>・第2回中活協議会幹事会について（報告）</li> </ul>
第12回	平成26年1月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりについて（参考資料：中心市街地政策まとめ）</li> <li>・次年度中活協議会について</li> </ul>
第13回	平成26年7月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他地区での大型店との連携について</li> <li>・視察先の選定について</li> <li>・視察者の選定について</li> </ul>
第14回	平成26年11月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視察地の概要、行程、質問事項等について</li> </ul>

### Ⅲ フォーラム及びセミナー開催について

#### 【沖縄市中心市街地活性化フォーラム】

日 時：平成23年2月16日（水）

場 所：沖縄市民小劇場あしびなー

主 催：沖縄市中心市街地活性化協議会

テーマ：藻谷浩介氏講演会 ～地域経済再生へのカギ～

参加人数：20名

#### 【沖縄市中心市街地活性化セミナー】

日 時：平成25年3月1日（金）

場 所：KOZA GATE APARTMENT 2F

主 催：沖縄市中心市街地活性化協議会

テーマ：地元でデザイン地デザイン講座inコザ

参加人数：42名

#### 【沖縄市中心市街地活性化セミナー】

日 時：平成25年3月15日（金）

場 所：商店街交流ひろばコザBOX 2階 きぼう館

主 催：沖縄市中心市街地活性化協議会

テーマ：中心市街地活性化におけるまちづくり会社の役割について

参加人数：38名

#### 【沖縄市中心市街地活性化セミナー】

日 時：平成26年3月7日（金）

場 所：商店街交流ひろばコザBOX 2階 きぼう館

主 催：中小基盤整備機構

共 催：沖縄市中心市街地活性化協議会

テーマ：胡屋十字路周辺地区整備事業に係る諫早市の事例研究

参加人数：20名

#### 【沖縄市中心市街地活性化フォーラム】

日 時：平成26年10月8日（水）

場 所：コザゲートアパートメント

主 催：中小基盤整備機構

共 催：沖縄市中心市街地活性化協議会

テーマ：郊外商業集積と商店街との棲み分け

参加人数：30名

#### 【沖縄市中心市街地活性化セミナー】

日 時：平成27年3月25日（水）

場 所：クージーセントラル

主 催：沖縄市中心市街地活性化協議会

テーマ：久留米市における活性化へ向けた取組

参加人数：20名

### [3] 基本計画に基づく事業及び措置の一体的推進

#### (1) 地域住民等のニーズの把握による事業及び措置の推進

本計画策定にあたっては、市民の中心市街地に対する現状認識や中心市街地の利用状況、活性化に向けた意向等を把握するため、平成19年9月に市民アンケート調査を実施し、基本計画策定のための基礎資料とした。

また、中心市街地で商店街活動等を行っている商店街振興組合、通り会等を対象として、活動の現状や課題、今後の展望を把握するため、ヒアリング調査を実施し、市民アンケート同様、基本計画策定のための基礎資料とした。

さらに、地域のニーズ把握と合わせて、中心市街地活性化に向けた地域全体の気運醸成を図るため、以下のフォーラム等を開催した。

#### 【コザのまち活性化アクションフォーラム】

日 時：平成19年10月20日（土）

場 所：沖縄商工会議所大ホール

主 催：コザ商店街連合会 沖縄県対米請求権事業協会

内 容：○コザのまちアクションプラン

○まちをマネジメントする方法

○アドバイザーとの意見交換

#### 【沖縄商工会議所 まちづくりフォーラム】

日 時：平成19年11月8日（木）

場 所：沖縄商工会議所大ホール

主 催：沖縄商工会議所

内 容：○沖縄市の中心市街地活性化に向けて

第1部 基調講演「タウンマネージメント組織の役割と必要性」

・宮崎の中心市街地活性化

・タウンマネージメントとは

・まちづくりに向けて

第2部 パネルディスカッション

#### 【沖縄市中心市街地活性化シンポジウム】

日 時：平成20年1月18日（金）

場 所：沖縄市民会館 中ホール

主 催：内閣府沖縄総合事務局経済産業部

内 容：○新しい暮らし方を探る”まちなか居住“でまちの活性化

パネルディスカッション「まちなか居住“の展開”

#### 【「市町村の中心市街地活性化の取り組みに対する診断・助言事業」沖縄市最終報告会】

日 時：平成20年2月1日（金）

場 所：沖縄市役所市民健康相談室大ホール（地下2階）

主 催：沖縄市

内 容：○事業の経過説明

- 専門家からの診断・助言及び意見交換
- 基本計画策定および計画の推進に係る今後の取り組みについて
- まちづくりグループのプレゼンテーション
- 総括

#### 【街元気セミナーin 沖縄】

日 時：平成20年2月29日（金）  
 場 所：桜坂劇場ホールA（那覇市牧志）  
 主 催：中小企業基盤整備機構沖縄事務所  
 内 容：第1部 基調講演「中心市街地 にぎわい創出の仕掛け」  
 第2部 トークセッション

#### 【沖縄市中心市街地活性化の方向性は？戦略は？～商店街のあるべき姿とは！～】

日 時：平成20年9月5日（金）  
 場 所：商店街交流ひろば コザBOX（一番街内）  
 主 催：沖縄商工会議所  
 内 容：第1部 基調講演「中心市街地活性化の戦略」  
 第2部 意見交換

#### 【地域づくりフォーラム「市民協働のまちづくりー沖縄市中心市街地活性化へ挑む」】

日 時：平成21年1月22日（木）  
 場 所：コザ・ミュージックタウン音市場  
 主 催：琉球新報  
 内 容：第1部：基調講演「まちはひと・誇らしく輝く中心市街地」（東門美津子沖縄市長）  
 第2部：パネルディスカッション「中心市街地の盛衰を市内外から見つめてきた女性パネリストが生活者目線で徹底的に論じる」

#### 【沖縄市中心市街地活性化シンポジウム ～私たちのまちづくりのスタイル～】

日 時：平成21年1月29日（木）  
 場 所：沖縄商工会議所ホール  
 主 催：内閣府沖縄総合事務局経済産業部  
 内 容：第1部：基調講演「出会いと交流の場としての商店街」（竹本慶三氏）  
 第2部：パネルディスカッション「私たちの活動と中心市街地活性化の関係」

#### （2）地域連携に基づく取り組みの推進

基本計画に基づく各種個別事業・施策を効果的かつ確実に実施していくためには、関係者の役割を明確にした上で、事業の準備段階から連携を図ることが不可欠となる。

そのため、地域住民や商業関係者等の主体的な活動を促進しつつ、中心市街地活性化に資する事業に対して、市としても必要な助言及び支援措置を積極的に行っていくこととする。

## 10. 中心市街地における都市機能の集積の促進を図るための措置に関する事項

### [1] 都市機能の集積の促進の考え方

本市では、平成8年3月に、将来の市の都市計画に関する基本的な方針である「沖縄市都市マスタープラン」を策定し、各種の取り組みを推進してきた。しかしながら、策定後10年余りを経過し、時代に即応した計画とするため、まちづくり三法の改正などに対応した新たなマスタープランの策定に向けて、平成19年度より策定作業をスタートしたところである。

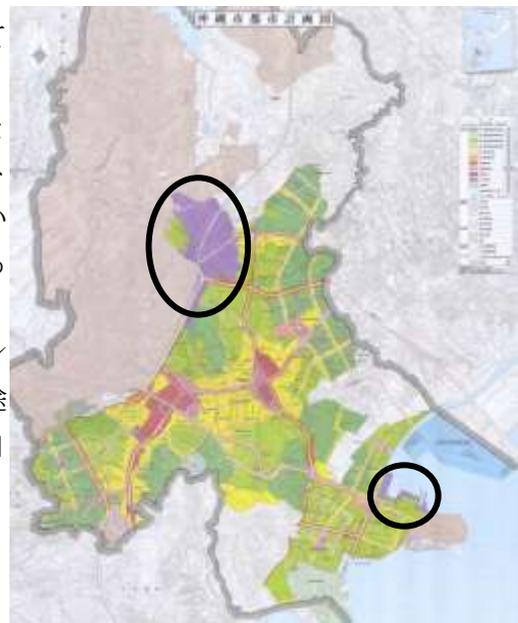
この見直しにおいて、沖縄市におけるコンパクトシティのあり方や、都市機能集積に資する土地利用及びネットワーク形成のあり方を明確にすることとなっている。

### [2] 都市計画手法の活用

本市には、右の図のとおり2箇所の準工業地域が存在している。

中心市街地の活性化に関する施策を総合的に推進するとともに、都市機能の分散を抑制し、本市が目指す「コンパクトで成熟した市街地形成」を実現するため、準工業地域において都市構造に影響を与える大規模集客施設の立地を制限する特別用途地区を位置付けるものとする。

この準工業地域については、前記都市計画マスタープランの見直し作業と合わせて、特別用途地区の変更及び特別用途地区内における建築物の制限に関する条例（以下「建築条例」という。）を制定し、建築を規制することとしている。



#### 【中部広域都市計画特別用途地区の変更（沖縄市決定）】

都市計画特別用途地区を次のように変更する。

種 類	面 積	備 考
特別用途地区（大規模集客施設制限地区）	約125ha	沖縄市準工業地域全域

#### 【スケジュール】

平成20年4月～平成21年11月	地権者アンケート調査・関係各課調整
平成21年11月28日	住民説明会
12月14日～12月28日	都市計画案の縦覧
平成22年1月12日	沖縄市都市計画審議会
2月上旬	建築条例の議会提案・議決
3月中旬	建築条例制定・施行

### [3] 都市機能の適正立地、既存ストックの有効活用等

#### (1) 都市機能の適正立地の考え方

平成16年4月に県内全域の人材育成の中核施設として沖縄こども未来ゾーンをリニューアルオープンした。

平成19年7月に音楽によるまちづくりの中核施設として、コザ・ミュージックタウンをオープンした。

平成22年度には沖縄市コザ総合運動公園内に新体育館完成を控えている。

平成22年度には（仮称）社会福祉センター・男女共同参画センターの完成を目指している。

山里第一地区市街地再開発事業においては、住宅機能・商業機能のほか、スポーツ施設やクリニックモール等公益性の高い施設整備が事業化に向けて動き出しているなど、中心市街地における都市機能立地を積極的に進めている。

#### (2) 既存ストックの有効活用等

平成10年に撤退したダイエー系列のコザショッピングセンター跡地へ沖縄市テレワークセンターを平成11年に設置した。高度情報化社会に向けて、情報通信産業の基盤整備を積極的に進め、地域における新たな就労機会の創出、周辺地元商店街及び地域経済の再活性化、市民の情報リテラシーの向上、沖縄市への産業誘致の推進などを図るため、必要な情報環境を整えた共同利用型のテレワークセンターを整備し、中心市街地の新しい街づくりを形成することを目的としている。

特定商業集積施設として設置したコリンザについては、平成20年7月に入居していた大型テナント撤退により、空きフロアが発生していることから、地域に求められている必要業種を誘致するとともに、都市福利機能の充実という観点から整備を進めていく。

沖縄市コザ総合運動公園内の沖縄市立総合運動場体育施設や沖縄こども未来ゾーン（沖縄こどもの国）は、それぞれ年間利用者数が約46万人、約36万人であり、この都市福利施設と各商店街を音の回廊事業等で連続性を持たせることにより、回遊性の向上と賑わいの創出を図っていく。

#### (3) 都市機能の立地状況及び移転計画の状況

中心市街地における都市機能の既存ストックや大規模集客施設の立地状況は、P19～21に記載している。

商工会議所が入居している沖縄市商工業研修等施設は、昭和55年に設置され、設置後28年が経過しており、老朽化対策が課題となっているが、現在、移転や改築などの計画はない。

公共施設等において現在、施設移転の予定があるのは沖縄警察署及び沖縄税関支署である。

#### (4) 大規模集客施設の立地状況

本市全域における大規模集客施設の立地状況は、P19に記載している。平成20年10月現在で把握している市内での新たな大規模集客施設立地計画はないが、隣接自治体において、本市中心市街地の中心に位置している胡屋十字路口より2.5kmの地域に平成24年出店予定の「大型ショッピングモール沖縄北中城（仮称）：敷地面積170,000㎡」がある。

#### [4] 都市機能の集積のための事業等

都市機能の集積のために以下の事業を推進する。

##### (1) 市街地の整備改善のための事業

- ・安慶田地区土地区画整理事業
- ・山里第一地区市街地再開発事業
- ・中の町地区土地区画整理事業調査等事業

##### (2) 都市福利施設を整備する事業

- ・山里第一地区市街地再開発事業（再掲）
- ・（仮称）社会福祉センター・男女共同参画センター建設事業
- ・都市公園防災事業
- ・コザ運動公園体育施設整備事業
- ・コリンザ再生事業

##### (3) 住宅の供給及び当該事業と一体として行う居住環境の向上のための事業

- ・安慶田地区土地区画整理事業（再掲）
- ・山里第一地区市街地再開発事業（再掲）
- ・安慶田市営住宅建替え事業
- ・中心市街地共同住宅供給促進事業

##### (4) 商業の活性化のための事業

- ・胡屋地区リノベーション事業
- ・プロムナードコンサート事業
- ・ミュージックタウン音市場事業
- ・商店街再生チャレンジショップ事業
- ・中心市街地活性化支援事業

##### (5) 4から7までに掲げる事業と一体的に推進する事業

- ・沖縄市中心市街地循環コミュニティバス事業
- ・音の回廊事業
- ・国道330号拡幅沿線土地利用計画策定業務
- ・沖縄市公共交通総合連携計画策定事業
- ・駐車場誘導システム整備事業
- ・景観調査事業

上記事業と合わせて、各種都市機能のネットワーク形成に資する事業、誘客につながるイベント等のソフト施策等を推進し、多くの来街者が集積した都市機能を利用しやすい環境形成を図るものとする。

## 11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項

### [1] 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項

#### (1) まちづくり目標の実現に資する実践的・試行的取り組みの推進

##### 1) 商店街再生チャレンジショップ事業

本市においては、平成12年度より沖縄市TMOが実施したドリームショップ事業がある。平成12年の第1回から、事業終了の平成17年度までにグランプリおよび準グランプリの合計20店舗が開業したが、平成20年3月末までに営業しているのは半分の10店舗である。

ドリームショップ事業は、事業者に対する支援であったがこれに代わる新たな施策として、商店街再生チャレンジショップ事業を平成18年度より市の事業として実施している。

商店街再生チャレンジショップ事業は、商店街等が自ら中心市街地の空き店舗を活用して、商店街の組織力強化や中心市街地のにぎわい創出、コミュニティの再生等を促進し、本市産業の振興を図るとともに、商店街のシャッターを開ける呼び水効果を促すことを目的としている。

平成19年度：銀天大学・銀天街商店街（銀天街商店街組合、スタジオ解放区 他）

：コザ工芸館「ふんどう」・胡屋大通り（沖縄市工芸産業振興会）

平成20年度：商店街交流ひろば「コザBOX」・一番街（コザ商店街連合会）

：コミュニティーサロンふれあいプラザ「ゆんたくまちや」

：中央パークアベニュー（社団法人沖縄市シルバー人材センター）



銀天大学

ふんどう

コザBOX

ゆんたくまちや

#### (2) 中心市街地活性化に対する持続的な気運醸成

本市の中心市街地において、活性化に対する機運の高まりとともに、市民や商業者により、組織された団体などが活発な活動を展開している。

##### 1) コザ商店街連合会

平成18年10月、胡屋十字路地域にある3振興組合4つの通り会、1つの市場が結束し、「コザ商店街連合会（通称：コザ連）」を発足させた。

コザ商店街連合会の活動目的は、沖縄市が推進している「音楽によるまちづくり」の関連事業と連携し、停滞する沖縄市の中心市街地を再生することで、まちの文化や歴史、まちに対するアイデンティティを次世



代へよりよい形で引き継ぐとともに、「情報の共有化」「共通の価値観の創造」「共通の利益追求」「若い世代と連携した活動」「商店街主導の活動」を目指している。また、活動の基本方針は、商業の再生・賑わいの再生・まちなみの再生・組織の再生などである。

平成19年12月には、新たにコザ・ミュージックタウン商店会がコザ商店街連合会に加わった。さらに、平成20年4月には「女性の視点を地域商店街の振興に役立てたい」との思いを抱く胡屋十字路地域の女性達が集まり、コザ商店街連合会女性部を立ち上げるなど、商業者の中心市街地活性化に向けた機運が高まっている。

平成20年7月、コザ商店街連合会はその目的・理念を達成するため本市の空き店舗活用事業「チャレンジショップ事業」に応募し、「商店街の組織力強化や中心市街地の賑わいの創出、コミュニティの再生等を促進することにより、商店街のシャッターを開ける呼び水効果を促す」ことを目的として「コザBOX」をオープンした。

#### \* 主な活動

- ・ 胡屋の日フェスティバル：5月8日のゴーヤーの日に語呂合わせで胡屋（ごや）をアピール。
- ・ コザBOXの企画・運営

\*一番街商店街振興組合・サンシティー商店街振興組合・センター商店街振興組合・コザゲート通り会・パルミラ通り会・胡屋大通り会・コザショッピング通り会・胡屋市場組合

## 2) スタジオ解放区

コザ十字路地域では、銀天街商店街というまちを文化の拠点にしていこうと邁進する若いアーティスト達が立ち上げた「スタジオ解放区」が、多くの商業者、そして市民に刺激を与え続けている。銀天街商店街内のアーケード空間を活動拠点に地域と連携を取りながら老若男女を問わず一緒に、様々な表現活動を通じた活動を展開している。

平成17年4月、スタジオ解放区は、『銀天街のまちは、戦後沖縄各地から移り住んできた人達により築き上げられてきたまちです。私たちがお世話になっている方々がまさにこの銀天街商店街を作り上げてきたのであり、その人達が作り上げてきたものが今、なくなりつつある。そこで私たちは、アートを通して地域のつながりをつくっていき、コザの歴史の中で銀天街商店街が生み落とした文化やまちの記憶、そしてそこから派生する沖縄をみつめながら表現活動をしていきたい』という中心メンバー2人の熱い思いによりスタートした。

平成19年8月には「チャレンジショップ事業」の第1号となる「銀天大学」が街の魅力を引き出す場として、地域や商店街の人々、アーティストらの協力によりオープンしているが、「スタジオ解放区」は、この「銀天大学」へ積極的に協力、支援を行うなどの活動を通しまちの活性化に取り組んでいる。

#### \* 主な活

- ・ 銀天大学の企画・運営
- ・ アサヒアートフェスティバルへの参加



- ・地域交流型アートイベントの定期的開催
- ・食とアートと交流の街づくり事業への参加
- ・こどもワークショップ (写真)

### 3) Mog KOZA準備室

「燃えてるコザへー直線！」をテーマに、沖縄市を活動拠点にしている若手経営者らが構成する「Mog KOZA準備室」は、平成19年から活動を本格化させ、中心市街地内の商業施設コリンザ屋上で「空中タウン」というイベント開催を皮切りに、沖縄市再発見マガジン「Mog k o z a」を二ヶ月に一度発行している。

「Mog k o z a」は、単なる情報誌ではなく、毎回沖縄市の抱える問題点、課題点をテーマにとりあげ、それをコザに住む若者の視点で再検証し、市民参加型の冊子として、多くの方に参加して貰い、沖縄市の良さを再発見してもらっている。



ショッピングモール型イベント「空中タウン」は、かつて沖縄市の中心市街地にも数多くあったアパレルや雑貨などの有名ショップを市内外から集めるとともに、アーティストによるワークショップやライブ、アート、パフォーマンスなどを催

すことで市民のみならず市外からも多くの来街者が中心市街地に訪れるきっかけを作っている。また、胡屋十字路地区にあるコザ・ミュージックタウンや沖縄市の南の入口、山里地域にある「プラザハウス」においても「空中タウン」のプレイベントを行うなど若者の視点で、中心市街地に新たな賑わいをもたらしている。

### 4) コザ漫遊国

コザ漫遊国とは、沖縄県沖縄市の、かつてコザ市と呼ばれた地域に住む住人たちによるブログサイトであるが、ブログだけの世界にとどまらず、まちを活性化するために積極的に様々な活動を展開している。

#### 【コザ漫遊国設立の目的】

- (1) コザから全国に向けて質の高い生の情報を発信し、コザの魅力をアピールすることで、沖縄県内および全国からコザへと、新たな人の流れを呼び起こす。
- (2) 公的機関には出来ないコザ以外の歴史・文化情報も含めて発信することにより、コザを沖縄の文化交流拠点として位置づける。

**\* 主な活動**

- ・ポータルサイト「コザ漫遊国」企画・運営  
コザ・体験なび  
コザ・ショップなび  
コザ・イベントなび
- ・コザの入口案内所立ち上げ(平成 19 年)
- ・コザ文学賞設立(平成 20 年)



**5) 島マス記念塾**

「地域を知り、地域を愛し、地域を誇れる」次代のリーダーづくりを目的に、沖縄市社会福祉協議会によって、平成 5 年 4 月「島マス記念塾」は建塾された。

塾名は、戦後『福祉の母』と呼び親しまれた島マス (1900～1989) の名を冠したもので、塾はマスの福祉哲学をとおして、人々が生活を営むさまざまな事柄について、大所高所から物事を捉えていく場をめざしている。

「マス塾生、バリア体験」(沖縄タイムス 2005 年 5 月 31 日)



「中の町ミュージックタウン」は是非か  
ディバートの風景(第 14 期生 2006 年 9 月 15 日)

とりわけ、中心市街地での「バリア体験」をはじめ、「ミュージックタウンは是非か」等、地域の課題をテーマにした「ディバート」を積極的に取り入れ、街づくりに関する研究や提言を実施し、また、多くの卒塾生 (275 名・15 期まで) を輩出し、それぞれがさまざまな分野で地域づくりの実践活動を行っている。

平成 9 年度にはその活動が評価され、地域づくり団体自治大臣表彰を受賞している。

**島マス記念塾**



## 6) KMG(コザ・ミュージックタウン・ガイド)

平成17年度より、コザ・ミュージックタウンの建設と連動して、音楽による賑わいの創出や音楽・伝統芸能等の観光資源を活用した「音楽観光」という新たな観光コンテンツの開発に向け、地域資源、人的資源を活かした魅力ある観光ルートの創造のために「観光・音楽・芸能文化ガイド養成講座」が沖縄市において開催された。

その養成講座の受講者を中心として立ち上がったのがコザ・ミュージックタウン・ガイド(通称：KMG)である。

彼らは、単に道案内と解説をするだけではなく、自ら地域資源をコーディネートし、プロモーションできるガイドとして、現在「ライブハウスツアー」を企画運営している。今後は沖縄市の文化であるエイサーガイドも含め、「観光・音楽・芸能文化ガイド」を魅力的に展開していくことが期待されている。

### (3) 県等関係機関との連携

「県道20号線拡幅整備」や「沖縄県公共交通総合連携計画策定事業」等の県等の関係機関による事業については、情報の共有化を図り連携しながら進めていく必要がある。

## [2] 都市計画との調和等

### (1) 第3次沖縄市総合計画第2次基本計画

第3次沖縄市総合計画第2次基本計画では、市の将来像を「活力とうるおいに満ちた国際文化観光都市」と掲げ、その実現のための課題として「中心市街地の再生と中部広域圏の中核都市づくり」を明確に位置づけている

### (2) 沖縄市都市マスタープラン

平成8年3月に策定された都市マスタープランでは、胡屋十字路一帯を中部地域の広域的な商業拠点、コザ十字路一帯を周辺地域の商業核、諸見里・山里・久保田の商業系用途地域を新たな地域商業の核またはゲート空間として位置づけ、商業環境の整備充実を図ることにより一体の中心商業業務地整備域として形成することとしている。

なお、現在見直し作業中であり、本計画における中心市街地活性化の方針を策定作業中の都市マスタープランへ反映させる。

## [3] その他の事項

- ・人にやさしいまちづくり環境整備要綱に基づく福祉環境整備との連携
- ・沖縄市ミュージックタウン基本構想策定調査に基づく音楽によるまちづくりとの連携
- ・こども未来ゾーン基本計画に基づくこどものまちづくりとの連携
- ・環境への配慮(自家用自動車の抑制、緑創出によるヒートアイランド現象の抑制等)

## 12. 認定基準に適合していることの説明

基準	項目	説明
第1号基準 基本方針に適合するものであること	意義及び目標に関する事項	1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針及び 3. 中心市街地の活性化の目標に記載
	認定の手続	認定申請は本市が行う。協議会の意見は9.〔2〕中心市街地活性化協議会に関する事項に記載
	中心市街地の位置及び区域に関する基本的な事項	2. 中心市街地の位置及び区域に記載
	4から8までの事業及び措置の総合的かつ一体的推進に関する基本的な事項	9. 4から8までに掲げる事業及び措置の総合的かつ一体的推進に関する事項に記載
	中心市街地における都市機能の集積の促進を図るための措置に関する基本的な事項	10. 中心市街地における都市機能の集積の促進を図るための措置に関する事項に記載
	その他中心市街地の活性化に関する重要な事項	11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項に記載
第2号基準 基本計画の実施が中心市街地の活性化の実現に相当程度寄与するものであると認められること	目標を達成するために必要な4から8までの事業等が記載されていること	4. 土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事項から8. 4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項までに記載
	基本計画の実施が設定目標の達成に相当程度寄与するものであることが合理的に説明されていること	3. 中心市街地の活性化の目標に記載

<p>第3号基準 基本計画が円滑かつ確実に実施されると見込まれるものであること</p>	<p>事業の主体が特定されているか、又は、特定される見込みが高いこと</p>	<p>4. 土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事項から8. 4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項までに記載</p>
	<p>事業の実施スケジュールが明確であること</p>	<p>4. 土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事項から8. 4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項までに記載</p>